

定期事業者検査報告書
(定期事業者検査開始時)

関原発第536号
2022年 2月 1日

原子力規制委員会 殿

大阪市北区中之島3丁目6番16号
関西電力株式会社
執行役社長 森本 孝

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の16第3項の規定により次のとおり定期事業者検査について報告します。

氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名	名称 関西電力株式会社 住所 大阪市北区中之島3丁目6番16号 代表者の氏名 森本 孝
発電用原子炉を設置した工場又は事業所の名称及び所在地	名称 高浜発電所 所在地 福井県大飯郡高浜町田ノ浦
検査に係る発電用原子炉施設の種類及び施設番号	第3号機 電気出力 870,000kW 熱出力 2,652,000kWt 当該発電用原子炉施設の種類は、別紙-1のとおり
検査の実績又は予定の概要	自(解列) 2022年 3月 1日(予定) 原子炉起動 2022年 5月13日(予定) 並列 2022年 5月19日(予定) 至(総合負荷) 2022年 6月13日(予定) 定期事業者検査の計画及び実績は、別紙-2のとおり

発電用原子炉施設の 種類及び施設番号	第3号機 原子炉本体 " 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 " 原子炉冷却系統施設 " 計測制御系統施設 " 放射性廃棄物の廃棄施設 " 放射線管理施設 " 原子炉格納施設 " その他発電用原子炉の附属施設 非常用電源設備 浸水防護施設
-----------------------	---

定期事業者検査の計画及び実績

検査名	今回定期事業者検査計画及び実績			備考
	※1	※2	※3	
クラス1機器供用期間中検査	—	○	—	
燃料集合体外観検査	—	○	—	
燃料集合体炉内配置検査	—	○	—	
原子炉停止余裕検査	—	—	○	
クラス2機器供用期間中検査				今回計画なし
蒸気発生器伝熱管体積検査	—	○	—	
加圧器安全弁機能検査	—	○	—	
加圧器安全弁漏えい検査	—	○	—	
加圧器安全弁分解検査	—	○	—	
加圧器逃がし弁機能検査	—	○	—	
加圧器逃がし弁漏えい検査	—	—	○	
加圧器逃がし弁分解検査	—	○	—	
加圧器逃がし弁元弁機能検査	—	○	—	
原子炉補機冷却系機能検査	—	○	—	
非常用炉心冷却系機能検査	—	○	—	
非常用炉心冷却系ポンプ分解検査				今回計画なし
非常用炉心冷却系主要弁分解検査	—	○	—	
補助給水系機能検査	—	○	○	
補助給水系ポンプ分解検査	—	○	—	
主蒸気安全弁機能検査	—	—	○	
主蒸気安全弁漏えい検査	—	○	—	
主蒸気逃がし弁機能検査	—	○	—	
主蒸気逃がし弁漏えい検査	—	○	—	
主蒸気隔離弁機能検査	—	○	—	
制御棒駆動系機能検査	—	○	—	
ほう酸ポンプ分解検査				今回計画なし
制御用空気圧縮系機能検査	—	○	—	
安全保護系機能検査	—	○	—	
安全保護系設定値確認検査	—	○	○	
プラント状態監視設備機能検査	—	○	—	
燃料取扱装置機能検査	—	○	—	
アニュラス循環排気系機能検査	—	○	—	
アニュラス循環排気系フィルター性能検査	—	○	—	
中央制御室非常用循環系機能検査	—	○	—	

今回定期事業者検査計画及び実績 (○:計画、●:実績、—:計画・実績なし)

※1: 前回の検査終了～解列前の期間

※2: 解列後～原子炉起動前の期間

※3: 原子炉起動後～総合負荷性能検査までの期間

検査名	今回定期事業者検査計画及び実績			備考
	※1	※2	※3	
中央制御室非常用循環系フィルター性能検査	—	○	—	
気体廃棄物処理系機能検査	—	○	—	
原子炉格納容器全体漏えい率検査				今回計画なし
原子炉格納容器局部漏えい率検査	—	○	—	
原子炉格納容器隔離弁機能検査	—	○	—	
原子炉格納容器隔離弁分解検査	—	○	—	
原子炉格納容器真空逃がし弁機能検査	—	○	—	
原子炉格納容器安全系機能検査	—	○	—	
原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査				今回計画なし
原子炉格納容器安全系主要弁分解検査				今回計画なし
原子炉格納容器水素再結合装置機能検査	—	○	—	
非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査)	—	○	—	
非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機定格容量検査)	—	○	—	
非常用ディーゼル発電機分解検査	—	○	—	
総合負荷性能検査	—	—	○	
蒸気タービン開放検査	—	○	—	
蒸気タービン性能検査	—	○	○	
ほう酸ポンプ機能検査	—	○	—	
重大事故等クラス1機器供用期間中検査				今回計画なし
重大事故等クラス2機器供用期間中検査	—	○	—	
使用済燃料貯蔵槽冷却浄化系機能検査	—	○	—	
その他原子炉注水系ポンプ分解検査				今回計画なし
その他原子炉注水系主要弁分解検査	—	○	—	
その他原子炉注水系機能検査	—	○	—	
最終ヒートシンク熱輸送設備作動検査	—	○	—	
重大事故時安全停止回路機能検査	—	○	—	
プロセスモニタ機能検査	—	○	—	
エリアモニタ機能検査	—	○	—	
緊急時制御室非常用循環系機能検査	—	○	—	
緊急時制御室非常用循環フィルター性能検査	—	○	—	
中央制御室の居住性確認検査	●	—	—	2021.8.6 終了
緊急時制御室の居住性確認検査				今回計画なし

今回定期事業者検査計画及び実績 (○:計画、●:実績、—:計画・実績なし)

※1: 前回の検査終了～解列前の期間

※2: 解列後～原子炉起動前の期間

※3: 原子炉起動後～総合負荷性能検査までの期間

検査名	今回定期事業者検査計画及び実績			備考
	※1	※2	※3	
緊急時対策所の居住性確認検査	—	○	—	
圧力逃がし系作動検査	—	○	—	
可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	—	○	—	
その他非常用発電装置の分解検査				今回計画なし
その他非常用発電装置の機能検査	—	○	—	
直流電源系機能検査	—	○	—	
直流電源系作動検査	—	○	—	
タービンバイパス弁機能検査	—	○	—	
液体廃棄物処理系機能検査	—	○	—	
計測制御系機能検査	—	○	—	
計測制御系監視機能検査	—	○	—	
原子炉の停止制御回路健全性確認検査	—	○	—	
燃料取扱設備検査	●	○	—	2021.11.5終了(※1分)
放射線監視装置機能検査	—	○	—	
1次系換気空調設備検査	○	○	—	
格納容器サンプル水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査	—	○	—	
原子炉格納容器供用期間中検査				今回計画なし
炉物理検査	—	—	○	
1次系ポンプ機能検査	—	○	—	
1次系弁検査	—	○	—	
1次系安全弁検査	○	○	—	
1次系逆止弁検査	○	○	—	
1次系真空破壊弁検査				今回計画なし
1次系破壊板検査				今回計画なし
1次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	—	○	—	
1次系熱交換器検査	○	○	—	
1次冷却材ポンプ機能検査	—	—	○	
燃料取扱設備検査(動作・インターロック試験等)	○	○	—	
液体廃棄物処理系設備検査	—	○	—	
固体廃棄物処理系設備検査				今回計画なし
供用期間中特別検査のうちクラス2管(原子炉格納容器内)特別検査	—	○	—	
供用期間中特別検査のうちクラス1機器Ni合金使用部位特別検査	—	○	—	

今回定期事業者検査計画及び実績 (○:計画、●:実績、—:計画・実績なし)

※1: 前回の検査終了～解列前の期間

※2: 解列後～原子炉起動前の期間

※3: 原子炉起動後～総合負荷性能検査までの期間

検査名	今回定期事業者検査計画及び実績			備考
	※1	※2	※3	
供用期間中特別検査のうち蒸気発生器管台溶接部の健全性確認検査				今回計画なし
供用期間中特別検査のうちクラス1配管特別検査	—	○	—	
耐震健全性検査	●	○	—	2021.12.9終了(※1分)
クラス3機器供用期間中検査	—	○	—	
構造健全性検査	●	○	—	2021.12.9終了(※1分)
核計装設備検査	—	○	○	
制御棒クラスタ動作検査	—	○	—	
制御棒クラスタ検査	—	○	—	
制御棒位置指示装置設定値検査	—	○	—	
炉内計装用シンプルチューブ体積検査				今回計画なし
インバータ機能検査	—	○	—	
総合インターロック検査	—	○	—	
レストレイント検査				今回計画なし
液体廃棄物処理系アスファルト固化設備機能検査	—	○	—	
液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査	○	—	—	
液体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査(最終の流入サンプル)	○	○	—	
2次系ポンプ分解検査	—	○	—	
2次系ポンプ機能検査	—	○	○	
2次系弁検査	—	○	—	
2次系安全弁検査	—	○	—	
2次系容器検査	—	○	—	
2次系熱交換器検査	—	○	—	
2次系配管検査	—	○	—	
補助ボイラー開放検査				今回計画なし
補助ボイラー性能検査				今回計画なし
補助ボイラー設備検査				今回計画なし
非常用予備発電機付属設備検査	—	○	—	
原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修工事構造・強度事業者検査	—	○注	—	
原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修工事機能・性能事業者検査	—	○注	—	

今回定期事業者検査計画及び実績 (○:計画、●:実績、—:計画・実績なし)

※1: 前回の検査終了～解列前の期間

※2: 解列後～原子炉起動前の期間

※3: 原子炉起動後～総合負荷性能検査までの期間

注: 1次系熱交換器検査の結果、有意な信号指示がなかった場合は実施しない。

検査名	今回定期事業者検査計画及び実績			備考
	※1	※2	※3	
化学体積制御系機能検査	—	—	○	
蒸気タービン附属設備機能検査	—	—	○	
浸水防護設備検査	●	○	—	2021. 11. 4 終了(※1分)
その他非常用発電装置の付属設備検査	—	○	—	
可搬型重大事故等対処設備機能検査	●	○	—	2021. 11. 26 終了(※1分)
可搬型代替電源設備検査	●	—	—	2021. 12. 10 終了
火災防護設備検査	/	/	/	今回計画なし
原子炉格納容器再循環サンプスクリーン検査	/	/	/	今回計画なし
可搬型換気空調設備検査	●	○	○	2021. 6. 13 終了(※1分)
重大事故等クラス3機器供用期間中検査	○	○	—	

今回定期事業者検査計画及び実績 (○:計画、●:実績、—:計画・実績なし)

※1 : 前回の検査終了～解列前の期間

※2 : 解列後～原子炉起動前の期間

※3 : 原子炉起動後～総合負荷性能検査までの期間

添 付 書 類

- 添付書類一 定期事業者検査の計画
- 添付書類二 発電用原子炉及び施設管理の重要度が高い系統について
定量的に定める施設管理の目標
- 添付書類三 施設管理の実施に関する計画
- 添付書類四 定期事業者検査の判定方法
- 添付書類五 前回の定期事業者検査報告内容からの変更内容
- 添付書類六 保全の有効性評価の結果に関する説明書

添付書類一 定期事業者検査の計画

高 浜 発 電 所

第 3 号 機

第 2 5 回定期事業者検査計画書

目 次

- 1. 定期事業者検査の計画工程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 前回の定期事業者検査からの変更点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

別紙：定期事業者検査工程

1. 定期事業者検査の計画工程

定期事業者検査（実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第55条第1項の時期に行う定期事業者検査）については、次の期間で実施する。

(1) 定期事業者検査の工程

自 2022年 3月 1日

至 2022年 6月13日

（並列日は、2022年5月19日（解列から並列までの期間は80日間））

(2) 当該定期事業者検査期間中に実施する工事

(1)の定期事業者検査工程の策定においては、次の工事の工事期間も考慮し工程策定した。

・蒸気発生器伝熱管補修工事

設備の信頼性維持の観点より、蒸気発生器伝熱管体積検査の結果、有意な信号指示が認められた伝熱管について補修を行い、今後使用しないこととする。

3. 前回の定期事業者検査からの変更点

(1) 特定重大事故等対処施設、常用直流電源設備（3系統目）に係る検査項目を設定した。

(2) 供用期間中特別検査のうちクラス1配管特別検査

・原子力事業本部の方針「大飯3号機 加圧器スプレイライン配管溶接部における優位な欠指示の原因調査結果を踏まえた個別検査について」を受け、水平展開対象抽出フローに基づく「水平展開（類似性あり）」の箇所に対し、今後3定検に亘り、維持規格に基づく個別検査として超音波深傷検査を行う。

(3) クラス1機器供用期間中検査、クラス2機器供用期間中検査、クラス3機器供用期間中検査、供用期間中特別検査のうちクラス1機器Ni基合金使用部位特別検査、供用期間中特別検査のうちクラス2管（原子炉格納容器内）特別検査、原子炉格納容器供用期間中検査、重大事故等クラス2機器供用期間中検査、重大事故等クラス3機器供用期間中検査、

・NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」の改正版（令和元年6月5日 原規技発第1906051号）の施行及び社団法人日本機械学会 JSME SNA1-2012/2013/2014「発電用原子力設備規格 維持規格（2012年版／2013年追補／2014年追補）」の適用

(4) クラス 1 機器供用期間中検査、重大事故等クラス 2 機器供用期間中検査、クラス 3 機器供用期間中検査

- ・ 社団法人日本機械学会 JSME S NA1-2012/2013/2014 「発電用原子力設備規格 維持規格 (2012 年版/2013 年追補/2014 年追補)」に従った検査プログラムに変更 (N R A 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」による読み替え及び規格変更による要求事項記載の変更)

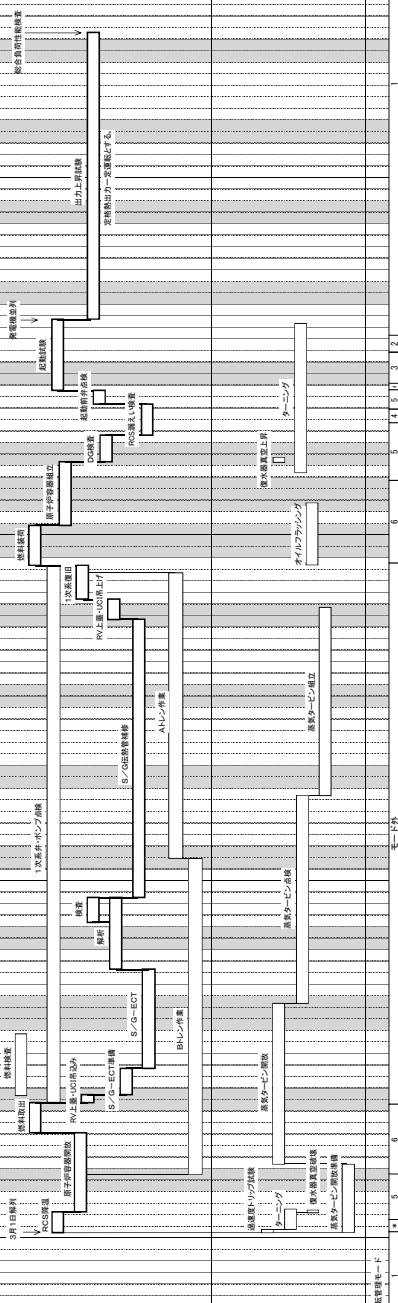
別紙

定期事業者検査工程

別紙 定期事業者検査工程表

工種	延日数		備考	
	月	日	2022年4月	2022年5月
T3-25-155				
T3-25-156				
T3-25-157				
T3-25-158				
T3-25-159				
T3-25-160				
T3-25-161				
T3-25-162				
T3-25-163				
T3-25-164				
T3-25-165				
T3-25-166				
T3-25-167				
T3-25-168				
T3-25-169				
T3-25-170				
T3-25-171				
T3-25-172				
T3-25-173				
T3-25-174				
T3-25-175				
T3-25-176				
T3-25-177				
T3-25-178				
T3-25-179				
T3-25-180				
T3-25-181				
T3-25-182				
T3-25-207				
T3-25-210				
T3-25-217				
T3-25-218				
T3-25-219				
T3-25-220				
T3-25-222				
T3-25-223				
T3-25-224				
T3-25-226				
T3-25-229				
T3-25-231				
T3-25-232				
T3-25-236				
T3-25-237				
T3-25-240				
T3-25-242				
T3-25-155	検査負荷性能検査			
T3-25-156	高圧タービン開放検査			
T3-25-157	高圧タービン開放検査			
T3-25-158	目方燃料タンク漏洩検査			
T3-25-159	目方燃料タンク漏洩検査			
T3-25-160	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-161	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-162	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-163	その他の炉内注水系タンク分解除検査			
T3-25-164	その他の炉内注水系主要弁分解除検査			
T3-25-165	燃料ヒートショック検出装置動作検査			
T3-25-166	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-167	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-168	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-169	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-170	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-171	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-172	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-173	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-174	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-175	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-176	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-177	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-178	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-179	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-180	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-181	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-182	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-207	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-210	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-217	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-218	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-219	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-220	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-222	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-223	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-224	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-226	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-229	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-231	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-232	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-236	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-237	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-240	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			
T3-25-242	炉内監視カメラカメラ/機器供給用開口検査			

主要工程



添付書類二 発電用原子炉及び施設管理の重要度が高い系統について
定量的に定める施設管理の目標

目 次

1. 保全活動管理指標	1
-------------	---

別紙：保全活動管理指標

1. 保全活動管理指標

保全の有効性を監視、評価するために、保全重要度を踏まえ、「プラントレベル」及び「系統レベル」の保全活動管理指標及びその目標値を別紙のとおり設定する。

別紙

保 全 活 動 管 理 指 標

高浜発電所3号機 第25保全サイクル 保全活動管理指標

1. プラントレベル

項目	目標値
計画外自動・手動スクラム回数	<1回/7000臨界時間
計画外出力変動回数	<2回/7000臨界時間
工学的安全施設の計画外作動回数	<1回

2. 系統レベル

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPPFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
原子炉冷却系統	原子炉冷却材圧カバウンダリ機能(PS-1)	<1回/サイクル	-	
	原子炉冷却材圧カバウンダリの過圧防止機能(MS-1)	<1回/サイクル	-	
	安全弁及び逃がし弁の吹き止まり機能(PS-2)	<1回/サイクル	-	
	異常状態の緩和機能(MS-2)	[加圧器逃がし弁] <1回/サイクル [加圧器逃がし弁元弁、 加圧器後備ヒータ] <2回/サイクル	[加圧器逃がし弁、元弁、加圧器後備ヒータ※] <72時間/2サイクル/弁、ヒータ	※: 逃がし弁駆動空気、 ヒータ電源含む
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	-	
	未臨界維持機能(充てんライン経由)(MS-1)	<1回/サイクル	[系統共通箇所以外] <240時間/2サイクル	
	・未臨界維持機能(ほう酸注入タンク経由)ほう酸水を原子炉へ提供(MS-1) ・炉心冷却機能(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA <240時間/2サイクル トレインB <240時間/2サイクル	
	原子炉冷却材を内蔵する機能(PS-2)	<2回/サイクル	-	
	異常状態の緩和機能(MS-2)	<2回/サイクル	<240時間/2サイクル	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	-	
化学体積制御系統(充てん・抽出・封水・ほう酸回収系統)				

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
化学体積制御 系統(ほう素熱 再生系統)	原子炉冷却材を内蔵する機能(PS-2)	<2回/サイクル	—	
	原子炉停止後の除熱機能(MS-1)	<1回/サイクル	—	
余熱除去系統	炉心冷却機能(MS-1)	<1回/サイクル	トリンA<240時間/2サイクル トリンB<240時間/2サイクル	
	原子炉冷却材を内蔵する機能(PS-2)	<2回/サイクル	—	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	<ul style="list-style-type: none"> ・未臨界維持機能(MS-1) ・炉心冷却機能、放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1) 	<1回/サイクル	燃料取替用水タンク <1時間/2サイクル	
燃料取替用水 系統	燃料プール水の補給機能(MS-2)	<2回/サイクル	燃料取替用水タンク <1時間/2サイクル 燃料取替用水タンク以外 <240時間/2サイクル	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<1回/サイクル	—	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考	
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値		
安全注入系統	<ul style="list-style-type: none"> ・炉心冷却機能(MS-1) ・未臨界維持機能(MS-1) 	<1回/サイクル	高圧注入系、低圧注入系 トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル 蓄圧注入系※ <1時間/2サイクル/基 ほう酸注入タンク <1時間/2サイクル	※:蓄圧注入系は未臨界維持機能を有しない。	
	原子炉停止後の除熱機能(MS-1)	<1回/サイクル	—		
	原子炉冷却材を内蔵する機能(PS-2)	<2回/サイクル	—		
	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1) [格納容器スプレイ系への供給機能]	<1回/サイクル	—		
	燃料プール水の補給機能(MS-2)	<2回/サイクル	<240時間/2サイクル		
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	—		
	格納容器スプレイ系統	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1)	<1回/サイクル	よう素除去薬品タンク <72時間/2サイクル よう素除去薬品タンク以外 トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
		アクシデントマネジメント対応機能[格納容器内注水]	<2回/サイクル	<720時間/2サイクル	
		事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	蒸気発生器ブローダウン系統	原子炉停止後の除熱機能(MS-1)	<1回/サイクル	<72時間/2サイクル/弁	

保全活動管理指標				備考
系統名	要求機能	MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
換気空調設備 (格納容器循環系)	アクシデントマネジメント対応機能[格納容器自然対流冷却]	<2回/サイクル	<720時間/2サイクル	
換気空調設備 (安全補機室空気浄化系)	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル トレイン共通箇所<72時間/2サイクル	
	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能の情報提供系(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	・放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1) (1次冷却材喪失事故時、アニュラス部を負圧に保ち、また、原子炉格納容器からアニュラス部に漏えいした空気を浄化再循環し、環境に放出される核分裂生成物の濃度を減少させる機能)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
換気空調設備 (アニュラス空気浄化系)	・放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1) (アニュラス内圧を維持するたため、アニュラス戻り弁の開度を自動調整し循環運転を行なうと共に全量排気弁を閉じ、少量排気弁を開くことでアニュラス部を負圧に保つ機能)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能の情報提供系(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	放射性物質放出の防止機能(MS-2)	<2回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
換気空調設備 (格納容器排気筒)	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1)	<1回/サイクル	—	
	放射性物質放出の防止機能(MS-2)	<2回/サイクル	—	
換気空調設備 (弁てん/高圧注入ポンプ室冷却系)	炉心冷却機能(間接関連系)(MS-2)	<2回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	当該空調設備は次の安全機能を兼ねる。 ・未臨界維持機能(間接関連系)(MS-2)

保全活動管理指標				備考
系統名	要求機能	MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
換気空調設備 (余熱除去ポンプ 室冷却系)	炉心冷却機能(間接関連系)(MS-2)	<2回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	当該空調設備は次の安 全機能を兼ねる。 ・原子炉停止後の除熱機 能(間接関連系)(MS-2)
換気空調設備 (格納容器スプ レイポンプ室冷 却系)	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出 低減機能(間接関連系)(MS-2)	<2回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
換気空調設備 (配管貫通部冷 却系)	炉心冷却機能(間接関連系)(MS-2)	<2回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	当該空調設備は次の安 全機能を兼ねる。 ・放射性物質の閉じ込め 機能、放射線の遮へい及 び放出低減機能(間接関 連系)(MS-2)
換気空調設備 (中央制御室空 調系)	・安全上特に重要な関連機能(MS-1) ・安全上特に重要な関連機能(直接関連系)(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<720時間/2サイクル トレインB<720時間/2サイクル トレイン共通箇所<240時間/2サイクル	
換気空調設備 (中央制御室非 常用循環系)	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<720時間/2サイクル トレインB<720時間/2サイクル トレイン共通箇所<240時間/2サイクル	
換気空調設備 (ティンセル発電 機室換気系)	安全上特に重要な関連機能の情報提供系(MS-2)	<2回/サイクル	-	
換気空調設備 (中間建屋給・ 排気系)	安全上特に重要な関連機能(間接関連系)(MS-2)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	当該空調設備は次の安 全機能を兼ねる。 ・原子炉停止後の除熱機 能(間接関連系)(MS-2)

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
換気空調設備 (安全補機開閉 器室空調系)	安全上特に重要な関連機能(直接関連系)(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<720時間/2サイクル トレインB<720時間/2サイクル トレイン共通箇所<240時間/2サイクル	
	原子炉停止後の除熱機能(MS-1)	<1回/サイクル	主蒸気安全弁 <6時間/2サイクル/弁 主蒸気逃がし弁 <168時間/2サイクル/弁 主蒸気隔離弁※ <8時間/2サイクル/弁	※:バイパス弁を含む
主蒸気管系統	異常状態の緩和機能(MS-2)	<2回/サイクル	<72時間/2サイクル/弁	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	-	
	原子炉停止後の除熱機能(MS-1)	<1回/サイクル	主給水隔離弁 <72時間/2サイクル/弁	
主給水管系統	異常状態の緩和機能(MS-2)	<2回/サイクル	主給水制御弁※ <72時間/2サイクル/弁	※:バイパス制御弁を含む
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	-	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
補助給水系統	原子炉停止後の除熱機能(MS-1)	<1回/サイクル	[復水タンク] <168時間/2サイクル [復水タンク以外] 補助給水系(電動) トレインA <240時間/2サイクル トレインB <240時間/2サイクル 補助給水系(タービン動) <240時間/2サイクル	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	—	
2次系補助給水系統	プラント運転補助機能(MS-3) [リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	—	
主幹線結線系統	安全上特に重要な関連機能(非常用母線)(当該系)(MS-1)	<1回/サイクル	<8時間/2サイクル/母線	
2次系補機単線結線系統	電源供給機能(非常用を除く)(PS-3)[リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	—	
直流電源系統	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	[直流母線] <2時間/2サイクル/母線 [蓄電池] <240時間/2サイクル/基	
	安全上特に重要な関連機能(間接関連系)(MS-3)[リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	<240時間/2サイクル/基	
特高開閉所設備	安全上特に重要な関連機能の情報提供系(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	電源供給機能(PS-3)[リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	—	
計器用電源系統	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	<2時間/2サイクル/母線	
	電源供給機能(PS-3)[リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	—	
起動変圧器設備	電源供給機能(PS-3)[リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	—	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
所内保護・計量 設備	安全上特に重要な関連機能(非常用母線の保護機能) (MS-1)	<1回/サイクル	<8時間/2サイクル/母線	
	安全上特に重要な関連機能(非常用所内電源系)(MS-1)	<1回/サイクル	<6時間/2サイクル/チャンネル	
	工学的安全施設及び原子炉停止系の作動/信号の発生 機能(MS-1)	<1回/サイクル	<6時間/2サイクル/チャンネル	
中央制御室退 避盤	安全上特に重要な関連機能の情報提供系(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	制御室外からの安全停止機能(MS-2)	<2回/サイクル	<720時間/2サイクル/機能	
原子炉補機冷 却水系統	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
	事故時のプラント状態の把握機能(直接関連系)(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<1回/サイクル	—	
原子炉補機冷 却海水系統	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
	安全上特に重要な関連機能(間接関連系)(MS-3)[リスク 重要度「高」設備]	<2回/サイクル	<240時間/2サイクル	
	安全上特に重要な関連機能の情報提供系(MS-2)	<2回/サイクル	—	

保全活動管理指標				備考
系統名	要求機能	MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
軸受冷却水系統	プラント運転補助機能(MS-3) [リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	-	
換気空調設備 (空調用冷却水系統)	安全上特に重要な関連機能(直接関連系)(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
	炉心冷却機能(間接関連系)(MS-2)	<2回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	当該空調設備は次の安全機能を兼ねる。 ・原子炉停止後の除熱機能(間接関連系)(MS-2) ・未臨界維持機能(間接関連系)(MS-2) ・放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(間接関連系)(MS-2)
1次系試料採取系統	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	-	
1次系計器用空気系統(格納容器内、格納容器外)	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	格納容器内 トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル 格納容器外 トレインA<1時間/2サイクル トレインB<1時間/2サイクル	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	-	
2次系所内用(雑用)空気系統	空気供給機能[リスク重要度「高」設備]	<2回/サイクル	-	
ディーゼル発電機冷却水系統	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	トレインA<240時間/2サイクル トレインB<240時間/2サイクル	
	・安全上特に重要な関連機能(MS-1) ・安全上特に重要な関連機能(吸気系)(MS-1)	<1回/サイクル	<240時間/2サイクル/基	
ディーゼル発電機潤滑油系統	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	<240時間/2サイクル/基	
	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	<240時間/2サイクル/基	
ディーゼル発電機燃料系統	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	<240時間/2サイクル/基	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
非常用ディーゼルの発電機設備	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	<240時間/2サイクル/基	
消火水系統	アクシデントマネジメント対応機能[格納容器内注水]	<2回/サイクル	<720時間/2サイクル	
気体廃棄物処理系統(3号及び共用)	原子炉冷却材圧力バウンダリに直接接続されていないものであって放射性物質を貯蔵する機能(PS-2)	<2回/サイクル	—	
原子炉保護装置	原子炉停止系への作動信号の発生機能(MS-1)	<1回/サイクル	原子炉保護系論理回路 モード1,2<6時間/2サイクル/トレイン モード3,4(トリップ遮断器が閉じている場合) <48時間/2サイクル/トレイン 原子炉保護系信号部 手動トリップ<48時間/2サイクル/チャンネル 自動トリップ<6時間/2サイクル/チャンネル インターロック<1時間/2サイクル/チャンネル	
原子炉保護装置	工学的安全施設への作動信号の発生機能(MS-1)	<1回/サイクル	工学的安全施設等作動論理回路 <6時間/2サイクル/トレイン 工学的安全施設等作動信号部 手動<48時間/2サイクル/チャンネル 自動<6時間/2サイクル/チャンネル インターロック<1時間/2サイクル/チャンネル ディーゼル発電機起動論理回路 <6時間/2サイクル/トレイン 中央制御室非常用循環系作動論理回路(手動起動回路含む) 論理回路<720時間/2サイクル/トレイン 手動起動<720時間/2サイクル/チャンネル	
エリアプロセスインタ装置	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	—	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPPFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
燃料取扱設備	燃料を安全に取り扱う機能(PS-2)	<2回/サイクル	—	
燃料取扱設備 構築物	原子炉冷却材圧力バウンダリに直接接続されていないものであって放射性物質を貯蔵する機能(PS-2)	<2回/サイクル	—	
	燃料を安全に取り扱う機能(PS-2)	<2回/サイクル	—	
炉内構造物	・炉心形状の維持機能(炉心支持機能)(PS-1) ・炉心形状の維持機能(冷却材流路形成機能)(PS-1)	<1回/サイクル	—	
	原子炉の緊急停止機能(制御棒クラスタ案内機能)(MS-1)	<1回/サイクル	—	
燃料集合体及び 非核燃料炉 心構成品	炉心形状の維持機能(PS-1)	<1回/サイクル	—	
	・原子炉の緊急停止機能(MS-1) ・未臨界維持機能(MS-1)	<1回/サイクル	—	
原子炉格納容 器	放射性物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(原子炉格納容器バウンダリ機能)(MS-1)	<1回/サイクル	<4時間/2サイクル/弁 <24時間/2サイクル/エアロック	
	過剰反応度の印加防止機能(PS-1)	<1回/サイクル	—	
制御棒駆動装 置(機械系)	・原子炉の緊急停止機能(MS-1) ・未臨界維持機能(MS-1)	<1回/サイクル	—	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
制御棒駆動装置(電気系)	原子炉の緊急停止機能(MS-1)	<1回/サイクル	トリップ遮断器 モード1,2<1時間/2サイクル/トレイン モード3,4(トリップ遮断器が閉じている場合) <48時間/2サイクル/トレイン	
	事故時のプラント状態の把握機能(MS-2)	<2回/サイクル	—	
原子炉建屋	・放射線物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(MS-1) ・放射線物質の閉じ込め機能、放射線の遮へい及び放出低減機能(アナユラス部を構成する機能)(MS-1)	<1回/サイクル	—	
	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	—	
	放射性物質放出の防止機能(MS-2)	<2回/サイクル	—	
	火災防護機能(MS-2相当)	<2回/サイクル	—	
	溢水による損傷防止機能(MS-2相当)	<2回/サイクル	—	
付属建屋	竜巻防止機能(MS-2相当)	<2回/サイクル	—	
	安全上特に重要な関連機能(MS-1)	<1回/サイクル	—	
取水口・放水口設備	浸水防護機能(MS-1)	<1回/サイクル	取水路防潮ゲート <240時間/2サイクル 潮位観測システム(防護用)	
	浸水防護機能(MS-2相当)	<2回/サイクル	—	
	津波監視機能(MS-2相当)	<2回/サイクル	—	
	火災防護機能(MS-2相当)	<2回/サイクル	—	
		<2回/サイクル	—	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
重大事故等対処設備	緊急停止失敗時に原子炉を未臨界にするための設備 (SA-2)	<1回/サイクル	<720時間/2サイクル	
	1次冷却系のフィードアンドブリードをするための設備 (SA-2)	<1回/サイクル	充てん/高压注入ポンプ <240時間/2サイクル 加圧器逃がし弁 <72時間/2サイクル	
	炉心注水をするための設備(SA-2)	<1回/サイクル	炉心注水 (非常用炉心冷却系) — 炉心注水 (蓄圧タンク) — 代替炉心注水 (B充てん/高压注入ポンプ) <720時間/2サイクル 代替炉心注水 (A格納容器スプレイポンプ) <720時間/2サイクル 代替炉心注水 (可搬式代替低圧注水ポンプ) <720時間/2サイクル 代替再循環 (A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)) <72時間/2サイクル 代替再循環 (B余熱除去ポンプ・C充てん/高压注入ポンプ(海水冷却)) <720時間/2サイクル	
		<1回/サイクル	加圧器逃がし弁による減圧 (窒素ポンプまたは可搬式空圧縮機を使用した減圧) <240時間/2サイクル (可搬型バッテリーを使用した減圧) <720時間/2サイクル	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
重大事故等対 処設備	原子炉格納容器スプレイをするための設備(SA-2)	<1回/サイクル	原子炉格納容器スプレイ 代替原子炉格納容器スプレイ(恒設代替低 圧注水ポンプ) <720時間/2サイクル 代替原子炉格納容器スプレイ(可搬式代替 低圧注水ポンプ) <720時間/2サイクル	
	原子炉格納容器内自然対流冷却をするための設備(SA-2)	<1回/サイクル	原子炉格納容器内自然対流冷却 <720時間/2サイクル 大容量ポンプによる原子炉格納容器内自然 対流冷却 <240時間/2サイクル	
	蒸気発生器2次側による炉心冷却(注水)をするための 設備(SA-2)	<1回/サイクル	-	
	蒸気発生器2次側による炉心冷却(蒸気放出)をするた めの設備(SA-2)	<1回/サイクル	<72時間/2サイクル	
	水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するた めの設備(SA-2)	<1回/サイクル	水素濃度低減 (静的触媒式水素再結合装置) <72時間/2サイクル 水素濃度低減 (原子炉格納容器水素燃焼装置) 水素濃度監視 <720時間/2サイクル	
	水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するた めの設備(SA-2)	<1回/サイクル	(A)エアラス空気浄化系 <72時間/2サイクル (代替空気(窒素)系統) <240時間/2サイクル	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPFFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
重大事故等対処設備	使用済燃料ピットの冷却等のための設備(SA-2)	<1回/サイクル	海水から使用済燃料ピットへの注水 — 使用済燃料ピットへのスプレー — 使用済燃料ピットの監視	
	発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備(SA-2)	<1回/サイクル	<240時間/2サイクル	
	重大事故等の収束に必要なとなる水の供給設備(SA-2)	<1回/サイクル	海水を用いた復水タンクへの補給 <240時間/2サイクル 復水タンクから燃料取替用水タンクへの補給 (復水タンク) <72時間/2サイクル 復水タンクから燃料取替用水タンクへの補給 (燃料取替用水タンク補給用移送ポンプ) <720時間/2サイクル 燃料取替用水タンク <1時間/2サイクル	
	電源設備(SA-2)	<1回/サイクル	空冷式非常用発電装置、号機間電力融通ケーブル、電源車、蓄電池(3系統目) <720時間/2サイクル 蓄電池(安全防護系用) — 可搬式整流器 <240時間/2サイクル 代替所内電気設備 <72時間/2サイクル 燃料油貯蔵そう、タンクローリー <48時間/2サイクル	
	計装設備(-)	<2回/サイクル	記録以外 <720時間/2サイクル 記録	
	中央制御室(SA-2)	<1回/サイクル	中央制御室非常用循環系 <72時間/2サイクル 可搬型照明(SA)、酸素濃度計、二酸化炭素濃度計 <240時間/2サイクル	

系統名	要求機能	保全活動管理指標		備考
		MPPFF回数 目標値	非待機時間 目標値	
重大事故等対処設備	監視測定設備(SA-2)	<1回/サイクル	-	
	緊急時対策所(SA-2)	<1回/サイクル	居住性(緊急時対策所エリアモニタ) 居住性(緊急時対策所エリアモニタ以外) <240時間/2サイクル	
	通信連絡を行うために必要な設備(SA-2)	<1回/サイクル	<240時間/2サイクル	
	その他の設備(-)	<2回/サイクル	<240時間/2サイクル	
特定重大事故等対処施設を構成する設備				

添付書類三 施設管理の実施に関する計画

目 次

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。） 及び期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期・・・・・・・・	1
3. 発電用原子炉施設の点検、検査の方法、実施頻度及び時期・・・・・・・・	2
4. 発電用原子炉施設の工事及び点検を実施する際に行う保安の確保のための 措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2

別紙：点検計画（第25保全サイクル）

別図：定期事業者検査時の安全管理の計画

別表：長期施設管理方針実施状況総括表

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。）及び期間

本保全計画の適用期間は、第25回定期事業者検査開始日から次回の定期事業者検査を実施するために発電機を解列する日の前日までの期間（第25回定期事業者検査終了以降13ヶ月までの間※）とし、以降、この期間を第25保全サイクルという。

ただし、この期間内に次回の定期事業者検査を実施するために発電機を解列した場合には、その前日までの期間とする。

※：この間を『実運転期間』という。

2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期

(1) 工事の計画

a. 蒸気発生器伝熱管補修工事：設計及び工事の計画の届出

○ 工事概要

蒸気発生器伝熱管の渦流探傷検査の結果、有意な信号指示が認められた場合に、蒸気発生器の健全性を確保するため、メカニカルプラグにて施栓を行う。

○ 予定時期

第25回定期事業者検査期間中

b. 火災報知器設置工事：設計及び工事の計画の認可申請

○ 工事概要

新火災防護基準バックフィット対応として、火災区域に対し、異なる種類の火災感知器を消防法に準じた箇所に設置する。

○ 予定時期

第25回定期事業者検査期間中（完了予定：2024年2月）

3. 発電用原子炉施設の点検、検査の方法、実施頻度及び時期

(1) 点検計画

定期事業者検査中及びプラント運転中の点検について、あらかじめ保全方式を設定し、点検の方法並びにそれらの実施頻度及び時期を定めた点検計画を「高浜発電所 保守業務所則（平成5 高原保所則 第2号）」に基づき策定した「保全指針」に従い策定した。また、土木建築に関する設備の点検計画については、「高浜発電所 土木建築業務所則（平成19 高原土所則 第1号）」に従い策定した。

点検計画のうち、定期事業者検査対象機器等に係る主要な点検の計画に基づく点検計画を別紙に記載する。

附帯設備も含めた各機器の詳細な点検計画は、「保全指針」に規定している。

点検計画を策定又は変更するにあたっては、保全活動から得られた情報等から、保全の有効性を評価し、保全が有効に機能していることを確認するとともに、継続的な改善につなげている。なお、保全の有効性評価は、以下の情報を適切に組み合わせて行った。

- ・保全活動管理指標の監視結果
- ・保全データの推移及び経年劣化の長期的な傾向監視の実績
- ・トラブルなど運転経験
- ・高経年化技術評価および定期安全レビュー結果
- ・他プラントのトラブル及び経年劣化傾向に係るデータ
- ・リスク情報、科学的知見

4. 発電用原子炉施設の工事及び点検を実施する際に行う保安の確保のための措置

定期事業者検査停止時における保安規定の運転上の制限を遵守するための計画は、別図のとおりである。また、定期事業者検査以外の安全上重要な保守点検活動並びに留意事項等については、特になし。

別紙

点 検 計 画
(第 2 5 保 全 サ イ ク ル)

点検計画の記載について

1. 点検計画については以下の方針に従い記載している。

(1) 記載している設備について

点検計画には発電所設備の主要機器として、以下設備を対象に記載している。

①核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の14に規定する技術基準が適用される設備

a. 定期事業者検査の対象となる設備

b. 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則別表第2において、設計及び工事の計画に記載が要求されている設備

なお、設計及び工事の計画において仕様が記載されていない設備については、日常の管理の中で健全性が確認でき、かつ、取替が可能な下記のものについて除外する。

(a) 防保護具、現地操作時に用いる工具類

(b) 一般消耗品（電池類他）

(c) 一般産業品（可搬型照明、電話・ファクシミリ他）

②保全の重要度が高い設備

保全重要度が高い設備とは、以下の設備を指す。

a. 安全機能の重要度が高い設備

b. 供給信頼性重要度が高い設備

c. リスク重要度が高い設備

なお、アクシデントマネジメント（AM）対応設備であることにより、保全の重要度を「高」とした設備については、点検計画において「AM（対応するアクシデントマネジメント名）機器」として明示している。

(2) 記載している点検について

点検計画には上記設備の主要な点検として、以下を記載している。

- ・ 定期事業者検査に係る点検
- ・ 定期事業者検査の都度性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 定期事業者検査に係る点検の実施頻度より短い実施頻度で行う性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 記載対象設備において、上記に該当する点検が無い設備については主要な点検

上記以外の点検（主要機器の上記条件以外の点検や附帯設備^{※1}の点検等）については、「高浜発電所 保守業務所則（平成5高原保所則 第2号）」に基づき策定した「保全指針」及び「高浜発電所 土木建築業務所則（平成19高原土所則 第1号）」に定めている。

※1：附帯設備の例

潤滑油、潤滑水、シール水、冷却設備、電源、制御回路、オリフ
イス、レデューサ、フローグラス 等

(3) 保全の重要度について

「グレード分け通達(平成18原品証通達第2号)」等の考え方に従い、「高」又は「低」のいずれかで表記している。

なお、重要度「高」及び定期事業者検査対象の設備については、保全方式として予防保全(時間基準保全、状態基準保全)を選定し、事後保全は選定していない。

(4) 保全方式について

保全方式について以下のとおり記載している。

- ・ 時間基準保全を採用しているもの：点検頻度
- ・ 状態基準保全を採用しているもの：CBM
- ・ 事後保全を採用しているもの：BM

(5) 点検頻度について

次の整理により「F」：保全サイクル、「M」：月、「Y」：年で表記している。

- ・ 性能維持のための措置を伴う点検及びそれに伴い実施する点検については、「M」又は「Y」により表記している。なお、記載した頻度のうち「M」は、運転期間(総合負荷性能検査～解列)に対応した値を示している。
また、複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、その点検頻度の最短及び最長のものを記載している。
 - ・ 供用期間中検査のように年度管理するものについては、「Y」により表記している。
 - ・ 機器の分解点検時期に合わせて実施する機能・性能試験については、「B」により表記している。また、その他、性能維持のための措置を伴わない点検のうち、分解・開放点検等の性能維持のための措置を伴う点検と合わせて実施するものについても「B」※2と表記している。なお、回転機器(ポンプ、ファン等)等、本体と駆動部で構成される機器は、一方が分解点検を実施した場合においても、その後の機能・性能試験で本体と駆動部の機能・性能を確認する。
 - ・ これ以外で、性能維持のための措置を伴わない点検については、「F」※2により表記している。また、性能維持のための措置を伴わない点検であっても、当該点検が、プラント運転期間中の発電用原子炉施設の保安の確保に支障がなく、年度管理するものについては、「Y」により表記している。
 - ・ このほか肉厚管理指針に従い管理する肉厚測定は、検査箇所ごとの管理となるため、本表では“肉厚管理指針による”と表記している。
 - ・ 定期的な頻度をもたずに実施する点検については、「X」により表記している。
- ※2：「B」「F」により表記しているものは、基本的に性能維持のための措置を予定していない点検であり、劣化進展がごく軽微なため、分解・開放点検やプラント定期事業者検査停止時期に合わせた実施管理が適しているものを対象にしている。

(6) 点検時期について

- ・時間基準保全の点検については、“定期事業者検査起動後”、“プラント運転中”の表現により、備考欄に実施時期を記載している。なお、これらの記載のないものについては、定期事業者検査停止中に実施することとしている。
- ・プラント停止（定期事業者検査）に先立ち、プラント運転中に実施する定期的な点検を「先行実施」とし、その対象設備を備考欄に明記し、区別する。

(7) 状態監視方法の記載について

- ・保全方式として状態基準保全を用いる機器については、経年劣化事象等による劣化の有無・劣化の傾向を監視する方法（状態監視技術、定例試験、巡視点検等）及びその頻度を備考欄に記載している。
- ・保全方式として時間基準保全を採用している機器については、保全をより充実する観点で採用している状態監視技術について方法・頻度を備考欄に記載している。

なお、第25保全サイクル中に点検を実施するものについては「点検計画」に「○」※³を記載している。

また「点検計画」には、当該点検の前回実績（実施時期）※⁴も記載している。

※³：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、本保全サイクルの中に一つでも点検の計画があれば「○」としている。

※⁴：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目にあつては、最新実績を記載している。

目 次

機器又は系統名	ページ
原子炉本体	1/36
[炉心]	
[原子炉容器]	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	1/36
[燃料取扱設備]	
[使用済燃料貯蔵設備]	
[使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備]	
[燃料取替用水設備]	
原子炉冷却系統施設	3/36
[一次冷却材の循環設備]	
[主蒸気・主給水設備]	
[余熱除去設備]	
[非常用炉心冷却設備]	
[化学体積制御設備]	
[蒸気タービンの附属設備]	
[原子炉補機冷却水設備]	
[原子炉補機冷却海水設備]	
[原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置]	
計測制御系統施設	12/36
[制御材]	
[制御棒駆動装置]	
[工学的安全施設等の作動信号]	
[ほう酸注入機能を有する設備]	
[ほう素再生設備]	
[制御用空気設備]	
[その他設備]	
放射性廃棄物の廃棄施設	15/36
[気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	
[原子炉格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの液体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置]	
放射線管理施設	18/36
[放射線管理用計測装置]	
[生体遮蔽装置]	
[換気設備]	
[その他設備]	
原子炉格納施設	25/36
[原子炉格納容器]	
[圧力低減設備その他の安全設備]	
原子力設備	28/36
[その他設備]	

機器又は系統名	ページ
原子力設備・タービン設備	29/36
[その他設備]	
蒸気タービン	29/36
[車室、円板、隔板、噴口、翼、車軸]	
[调速装置及び非常调速装置並びに调速装置で制御される主要弁]	
[復水器]	
[蒸気タービンに附属する熱交換器]	
[蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備]	
[蒸気タービンに附属する管等]	
[その他設備]	
補助ボイラー	33/36
その他発電用原子炉の附属施設	34/36
[浸水防護施設]	
[常用電源設備]	
[火災防護施設]	
[非常用発電装置]	
[その他の電源装置]	
土木建築設備	36/36
敷地内土木構造物	36/36
プラント総合	36/36
非常用取水設備	36/36
[取水設備]	

- 別表-1：クラス1 機器供用期間中検査7年計画
 別表-2：クラス2 機器供用期間中検査10年計画
 別表-3：クラス3 機器供用期間中検査10年計画
 別表-4：クラス1 機器Ni 基合金使用部位特別検査7年計画
 別表-5：クラス2 管（原子炉格納容器内）特別検査10年計画
 別表-6：原子炉格納容器供用期間中検査10年計画
 別表-7：重大事故クラス2 機器供用期間中検査10年計画
 別表-8：重大事故等クラス3 機器供用期間中検査10年計画
 別表-9：クラス1 配管特別検査 3年計画

1. 点検計画

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)
原子炉本体 [炉心]	照射済燃料集合体	※ 1式	高	1F	○	24回	燃料集合体外観検査	※：炉心設計による
	照射済燃料集合体 (取出燃料)	※ 1式	高	1F	○	24回		※：炉心設計による
	燃料集合体	※157体	高	1F	○	24回	燃料集合体炉内配置検査	※：炉心設計による
	内挿物 (1) 制御棒クラスタ (2) バーナ燃料ボイス (3) フラキングデバイス (4) 2次中性子源	※ 1式	高	1F	○	24回	燃料集合体炉内配置検査	※：炉心設計による
	原子炉本体のうち炉心		高	1F	○	24回	原子炉停止余裕検査 炉物理検査	定期事業者検査起動後
	原子炉容器		高	13M	○	24回		
	制御棒クラスタ案内管支持ピン	104本	高	3F	-	24回	構造健全性検査	
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取扱設備]	1式	高	1F	○	24回	燃料取扱装置機能検査	一部先行実施
			高	1F	○	24回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	
			高	39M~195M	○	24回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料ピットクレーン]	燃料取扱工具	1式	高	1F	○	24回	燃料取扱装置機能検査 燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	先行実施
	新燃料エレベータ		高	39M~195M	○	24回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	先行実施
	燃料取扱建屋クレーン		高	39M~195M	-	24回		
			高	1F	○	24回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	先行実施
			高	39M~195M	○	24回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	先行実施
			高	12M	○	24回		
			高	1F	○	24回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	先行実施
			高	X※	○	22回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	※MOX新燃料受入時のみ実施 プラント運転中又は定期事業者検査停止中
			高	X※	○	22回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	
			高	1F	○	24回	燃料取扱設備検査 (動作・インター ロック試験等)	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵設備]	燃料取扱建屋クレーン	1式	高・低	13M~91M	○	24回		一部BMあり 一部プラント運転中
	燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取扱設備] その他機器	1式	高	13M	○	24回	プラント状態監視設備機能検査	
	事故時監視計器	2個	高	13M	○	24回		
	水位監視計器	1式	高・低	13M	○	24回	計測制御系監視機能検査	
	温度監視計器	1式	高	13M	○	24回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	
	1次系計測制御装置	1式	高	13M	○	24回		
	使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置	1式	高	13M	○	24回		
	燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵設備] その他機器	1式	高	13M	○	24回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備]	可搬式代替低圧注水ポンプ・電動機	3台	高	1Y 10Y 78M	○ - -	24回 - -	可搬型重大事故等対処設備機能検査 21回施設定期検査より追加 21回施設定期検査より追加	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 21回施設定期検査より追加 21回施設定期検査より追加
	送水車	3台	高	1Y	○	-	可搬型重大事故等対処設備機能検査	プラント運転中又は施設定期検査より追加 2021.3より設置
	大容量ポンプ (放水砲用)	3台	高	1Y	○	24回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 21回施設定期検査より追加 21回施設定期検査より追加 保全の有効性評価結果No.44の反映
	使用済燃料ピット浄化冷却設備		低	1F	○	24回	使用済燃料貯蔵槽冷却浄化系機能検査	
	A 使用済燃料ピットポンプ・電動機		低	78M CBM 13M	- - ○	23回 12回 24回		先行実施 (振動診断: 3M)
	B 使用済燃料ピットポンプ・電動機		低	78M CBM 13M	- - ○	24回 13回 24回		先行実施 (振動診断: 3M)
	A 使用済燃料ピットフィルタ		低	130M	-	18回		先行実施
	B 使用済燃料ピットフィルタ		低	130M	-	19回		先行実施
	A 使用済燃料ピット冷却器		高	195M 195M 195M	○ - -	18回 21回 18回		先行実施 先行実施 先行実施
	B 使用済燃料ピット冷却器		高	195M 195M 195M	○ - -	18回 24回 21回		1次系熱交換器検査 先行実施 先行実施
C 使用済燃料ピット冷却器		高	130M	-	24回		1次系熱交換器検査 先行実施	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備] 以外の弁駆動部	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備] 以外の弁	1式	高・低	B 130M	- ○	24回 24回	1次系弁検査 1次系弁検査 1次系逆弁検査	一部先行実施
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備] 以外の弁駆動部	1式	高・低	B 65M	- -	24回 24回	1次系弁検査	
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備] 以外の機器	1式	高	65M~208M 78M~130M	○ ○	24回 23回		
	A 燃料取替用水ポンプ・電動機		低	13M~130M	○	24回		一部先行実施 一部BMあり 一部先行実施
	B 燃料取替用水ポンプ・電動機		高	B※ 130M	- -	23回 21回	1次系ポンプ機能検査	先行実施 (振動診断: 3M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施
			高	52M	-	23回		
			高	13M~26M	○	24回		
			高	B※ 130M	○ ○	24回 19回	1次系ポンプ機能検査	先行実施 (振動診断: 3M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施
			高	52M	-	24回		
			高	13M~26M	○	24回		
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取替用水設備]	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取替用水設備] その他の弁	1式	高	B	-	22回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取替用水設備] その他の弁駆動部	1式	高	130M B	○ -	23回 23回	1次系弁検査 1次系弁検査	
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 [燃料取替用水設備] その他の機器	1式	高	156M	-	23回	1次系弁検査	
			高	104M~130M	○	24回		一部先行実施
			低	104M~130M	○	24回		一部BMあり 一部先行実施

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却卸系統施設 [一次冷却材の循環設備]	A. 蒸気発生器	伝熱管 3, 272本	高	13M	○	24回	蒸気発生器伝熱管体積検査		
				13M	○	24回			
				13M	○	24回			
				13M	○	24回			
	A. 蒸気発生器給水入口管台	1箇所	1. 非破壊試験	高	10Y	—	23回		
		B. 蒸気発生器	伝熱管3, 247本	高	13M	○	24回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
	B. 蒸気発生器給水入口管台	伝熱管3, 261本	1. 非破壊試験	高	13M	○	24回		
			2. 開放点検 (スラッジラッシング)		13M	○	24回		
			3. 簡易点検 (スラッジラッシング)		13M	○	24回		
			4. 簡易点検 (ガスケット取替他)		13M	○	24回		
	C. 蒸気発生器	伝熱管3, 261本	1. 非破壊試験	高	10Y	—	23回		
			2. 開放点検 (スラッジラッシング)		13M	○	24回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
			3. 簡易点検 (スラッジラッシング)		13M	○	24回		
			4. 簡易点検 (ガスケット取替他)		13M	○	24回		
	C. 蒸気発生器給水入口管台	1箇所	1. 非破壊試験	高	10Y	—	23回		
			2. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	加圧器安全弁機能検査	
3. 漏えい試験				B	○	24回	加圧器安全弁漏えい検査		
加圧器安全弁	3V-RC-055 3V-RC-056 3V-RC-057	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	24回	加圧器安全弁分解検査		
		2. 漏えい試験		1F	○	24回	加圧器逃がし弁機能検査		
		3. 分解点検		26M	—	24回	加圧器逃がし弁分解検査		
加圧器逃がし弁駆動部	3-PCV-454C	1. 分解点検	高	13M	○	24回			
		2. 簡易点検 (特性試験)		13M	○	24回			
		3. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	24回	加圧器逃がし弁機能検査		
加圧器逃がし弁	3-PCV-455A	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	24回	加圧器逃がし弁漏えい検査		
		2. 漏えい試験		1F	○	24回	加圧器逃がし弁漏えい検査		
		3. 分解点検	高	26M	○	23回	加圧器逃がし弁分解検査		
加圧器逃がし弁駆動部	3-PCV-455A	1. 分解点検	高	13M	○	24回			
		2. 簡易点検 (特性試験)		13M	○	24回			
		3. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	24回	加圧器逃がし弁機能検査		
加圧器逃がし弁	3-PCV-455B	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	24回	加圧器逃がし弁漏えい検査		
		2. 漏えい試験		1F	○	24回	加圧器逃がし弁漏えい検査		
		3. 分解点検	高	26M	○	23回	加圧器逃がし弁分解検査		
加圧器逃がし弁駆動部	3-PCV-455B	1. 分解点検	高	13M	○	24回			
		2. 簡易点検 (特性試験)		13M	○	24回			
		3. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	24回	加圧器逃がし弁元弁機能検査		
加圧器逃がし弁元弁	3V-RC-054A	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	130M	—	21回			
		2. 簡易点検 (グラウンドパッキン取替)		65M	—	23回			
		3. 分解点検	高	156M	—	21回			
加圧器逃がし弁元弁駆動部	3V-RC-054A	1. 分解点検	高	156M	—	21回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 【一次冷却材の循環設備】	加圧器逃がし弁元弁	3V-RC-054B	高	1F	○	24回	加圧器逃がし弁元弁機能検査		
				2. 分解点検	—	22回			
		3. 簡易点検 (グラウンドハッキン取替)		—	22回				
	加圧器逃がし弁元弁駆動部	3V-RC-054B	高	1F	—	—	21回	加圧器逃がし弁元弁機能検査	
		3V-RC-054C		1. 分解点検	—	24回			
				2. 分解点検	—	22回			
	加圧器逃がし弁元弁駆動部	3V-RC-054C	高	65M	—	—	22回		
					3. 簡易点検 (グラウンドハッキン取替)	—	22回		
					1. 分解点検	—	21回		
	A 1 次冷却材ポンプ・電動機		1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 分解点検 (ポンプ) 2. 分解点検 (電動機) 2. 分解点検 (メカニカルシール) 2. 分解点検 (フライホイール) 3. 簡易点検 (潤滑油入替)	高	1F	○	24回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後
					130M	—	23回		
					104M	—	23回		
13M					○	24回	1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	一部先行実施	
104M					—	23回			
26M					○	23回			
1F					○	24回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後	
130M					—	24回			
104M					—	22回			
13M					○	24回	1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	一部先行実施	
104M					—	22回			
26M					—	24回			
B 1 次冷却材ポンプ・電動機		1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (ポンプ) 2. 分解点検 (電動機) 2. 分解点検 (メカニカルシール) 2. 分解点検 (フライホイール) 3. 簡易点検 (潤滑油入替)	高	1F	○	24回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後	
				130M	—	24回			
				104M	—	22回			
				13M	○	24回	1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	一部先行実施	
				104M	—	22回			
				26M	—	24回			
				1F	○	24回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後	
				130M	—	21回			
				104M	○	20回			
				13M	○	24回	1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査	一部先行実施	
				104M	○	20回			
				26M	○	24回			
C 1 次冷却材ポンプ・電動機		1. 機能・性能試験 2. 分解点検 (ポンプ) 2. 分解点検 (電動機) 2. 分解点検 (メカニカルシール) 2. 分解点検 (フライホイール) 3. 簡易点検 (潤滑油入替)	高	39M	—	23回			
				13M	○	24回			
				B	—	24回	1 次系弁検査		
				26M	—	24回	1 次系弁検査		
				B	○	24回	1 次系弁検査		
				13M	○	24回	1 次系弁検査		
				13M	○	24回	1 次系弁検査		
				65M~260M	○	24回			
				52M~260M	○	24回			

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回次）	検査名	備考（ ）内は適用する設備診断技術
原子炉冷却系統施設 【主蒸気・主給水設備】	主蒸気安全弁	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	主蒸気安全弁機能検査	
		2.漏えい試験		B	-	24回	主蒸気安全弁漏えい検査	
		3.分解点検		26M	-	24回		
	主蒸気逃がし弁	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	主蒸気安全弁機能検査	
		2.漏えい試験		B	○	23回	主蒸気安全弁漏えい検査	
		3.分解点検		26M	○	23回		
	主蒸気逃がし弁駆動部	1.機能・性能試験（駆動部含む）	高	1F	○	24回	主蒸気逃がし弁機能検査 最終ヒートシンク熱輸送設備作動検査	
		2.漏えい試験		B	○	24回	主蒸気逃がし弁漏えい検査	
		3.分解点検		13M	○	24回		
	主蒸気隔離弁	1.機能・性能試験（駆動部含む）	高	1F	○	24回	主蒸気隔離弁機能検査	
		2.分解点検		39M	-	23回	2次系弁検査	
		3.簡易点検（特性試験）		13M	○	22回	2次系弁検査	
	原子炉冷却系統施設【主蒸気・主給水設備】 その他の弁	1.機能・性能試験	高	52M~130M	○	24回	2次系弁検査	
		2.分解点検		B	○	24回	2次系弁検査	
		3.簡易点検（グラウンドハツキン取替）		65M	○	24回	2次系弁検査	
	原子炉冷却系統施設【主蒸気・主給水設備】 その他の機器	1.機能・性能試験	高	B	○	24回	2次系弁検査	
2.分解点検		52M~156M		○	24回			
3.簡易点検（特性試験）		13M~52M		○	24回			
原子炉冷却系統施設【主蒸気・主給水設備】 その他の機器	1.分解点検他	高	13M~260M	○	24回			
	1.分解点検他		13M~195M	○	24回			
	1.分解点検他		13M~195M	○	24回			一部BMあり

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備(診断技術)
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備]	A 余熱除去ポンプ・電動機	1.機能・性能試験 2.分解点検 (ポンプ) 2.分解点検 (電動機) 3.簡易点検 (潤滑油入替他)	高	B※ 78M 130M 13M~26M	— — — ○	22回 22回 21回 24回	1 次系ポンプ機能検査 非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断: 1M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施 保全の有効性評価結果No.1の反映
	B 余熱除去ポンプ・電動機	1.機能・性能試験 2.分解点検 (ポンプ) 2.分解点検 (電動機) 3.簡易点検 (潤滑油入替他)	高	B※ 78M 130M 13M~26M	— — — ○	22回 22回 21回 24回	1 次系ポンプ機能検査 非常用炉心冷却系ポンプ分解検査 その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断: 1M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施 保全の有効性評価結果No.2の反映
A 余熱除去冷却器	B 余熱除去冷却器	1.開放点検 2.非破壊試験	高	130M 130M	— —	18回 18回	1 次系熱交換器検査	
		1.開放点検 2.非破壊試験	高	130M 130M	— —	17回 17回	1 次系熱交換器検査	
低圧注入系主要弁	3V-RH-041A 3V-RH-041B 3-PCV-601 3-PCV-611 3V-SI-193A 3V-SI-193B 3V-SI-202A 3V-SI-202B 3V-SI-202C 3V-SI-203A 3V-SI-203B 3V-SI-203C 3V-SI-208A 3V-SI-208B 3V-SI-209A 3V-SI-209B	1.分解点検	高	130M	—	24回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	24回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	○	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	20回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	22回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	23回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	21回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	○	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	23回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	○	20回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	23回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	22回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	22回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
		1.分解点検	高	130M	—	19回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	
低圧注入系主要弁駆動部 原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の弁	1式	1.機能・性能試験	高	156M	—	22回	1 次系弁検査	
	1式	1.機能・性能試験	高	B 52M~130M 52M~130M	○ ○ ○	24回 24回 24回	1 次系安全弁検査 1 次系弁検査	
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の弁駆動部	1式	1.機能・性能試験	高	B 52M~156M	○	24回	1 次系弁検査	
		2.分解点検	高	13M~208M	○	24回		
		3.簡易点検 (特許試験)	高	130M~260M	○	24回		
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他のAM (代替再循環) 機器	1式	1.分解点検他	高	130M~156M	—	21回	1 次系弁検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備(診断技術)
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	高圧及び低圧注入系 [森熱除去設備 (低圧注入機能) を含む]	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、弁駆動部等含む) 1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	24回	非常用炉心冷却系機能検査	
	その他原子炉注水系		高	1F	○	24回	その他原子炉注水系機能検査	[対象設備] ・A高圧注入系 ・B高圧注入系 (自己冷却) ・C高圧注入系 (海水による電動機冷却) ・A低圧注入系 ・B低圧注入系 (海水による電動機冷却) その他原子炉注水系主要弁分解検査は21回 施設定期検査より追加
高圧注入系主要弁	3V-1CV-121D	1. 分解点検	高	130M	○	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-1CV-121E	1. 分解点検	高	130M	—	23回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-023A	1. 分解点検	高	130M	—	21回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-023B	1. 分解点検	高	130M	—	21回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-042A	1. 分解点検	高	130M	—	20回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-042B	1. 分解点検	高	130M	—	21回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-099A	1. 分解点検	高	260M	—	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-099B	1. 分解点検	高	260M	—	18回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-099C	1. 分解点検	高	260M	—	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-048A	1. 分解点検	高	260M	—	20回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-048B	1. 分解点検	高	260M	—	20回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-048C	1. 分解点検	高	260M	—	20回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-106A	1. 分解点検	高	260M	—	—	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-106B	1. 分解点検	高	260M	—	—	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-106C	1. 分解点検	高	260M	—	—	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-087A	1. 分解点検	高	260M	—	20回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-087B	1. 分解点検	高	260M	—	20回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-087C	1. 分解点検	高	260M	—	20回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-088	1. 分解点検	高	130M	—	23回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	1式	1. 分解点検	高	156M	—	21回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
高圧注入系主要弁駆動部		1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部含む) 1. 分解点検	高	1F	○	24回	非常用炉心冷却系機能検査	
			高	130M	—	22回	その他原子炉注水系機能検査	
蓄圧注入系	3V-SI-132A	1. 分解点検	高	130M	—	23回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-132B	1. 分解点検	高	130M	—	22回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-132C	1. 分解点検	高	130M	—	22回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-134A	1. 分解点検	高	130M	○	19回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-134B	1. 分解点検	高	130M	—	22回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-134C	1. 分解点検	高	130M	○	19回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-136A	1. 分解点検	高	130M	—	24回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	3V-SI-136B	1. 分解点検	高	130M	—	24回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-SI-136C	1. 分解点検	高	130M	—	24回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	1式	1. 分解点検	高	156M	○	23回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備]	化学体積制御系 A 充てん/高圧注入ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	化学体積制御系機能検査	定期事業者検査起動後 (振動診断：3M) その他原子炉注水系ポンプ分解検査は21回 施設定期検査より追加	
		1.分解点検 (ポンプ)	高	117M	—	20回	非常用炉心冷却系ポンプ分解検査		
		1.分解点検 (電動機)							
	B 充てん/高圧注入ポンプ・電動機	2.簡易点検 (潤滑油入替他)			104M	—	21回	その他原子炉注水系ポンプ分解検査	(振動診断：3M) 施設定期検査より追加
		1.分解点検 (ポンプ)	高	117M	—	22回	非常用炉心冷却系ポンプ分解検査		
		1.分解点検 (電動機)			104M	○	20回	その他原子炉注水系ポンプ分解検査	
	C 充てん/高圧注入ポンプ・電動機	2.簡易点検 (潤滑油入替他)			26M	○	24回		(振動診断：3M)
		1.分解点検 (ポンプ)	高	117M	—	21回	非常用炉心冷却系ポンプ分解検査		
		1.分解点検 (電動機)			104M	—	23回	その他原子炉注水系ポンプ分解検査	
	原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備]	体積制御タンク	2.簡易点検 (潤滑油入替他)		26M	○	24回		(振動診断：3M) 施設定期検査より追加
			1.開放点検	高	130M	—	20回		
		冷却材フィルタ	1.開放点検	高	130M	—	21回		先行実施
			1.開放点検	高	130M	—	21回		
		A 冷却材脱塩塔入口フィルタ	1.開放点検	高	130M	—	20回		先行実施
			1.開放点検 (管側)	高	130M	—	19回		
B 冷却材脱塩塔入口フィルタ		1.開放点検 (管側)	高	130M	—	19回		先行実施	
		1.開放点検 (側側)	高	195M	—	19回			
非再生冷却器		2.非破壊試験			130M	—	19回	1次系熱交換器検査	
		1.分解点検	高	130M	—	24回		その他原子炉注水系主要弁分解検査	
その他原子炉注水系主要弁		3V-CS-219	1.分解点検	高	130M	—	24回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	21回施設定期検査より追加 21回施設定期検査より追加
		3V-CS-218	1.分解点検	高	130M	○	18回	その他原子炉注水系主要弁分解検査	
	3V-CS-233	1.分解点検	高	130M	○	18回	その他原子炉注水系主要弁分解検査		
	3V-CS-234	1.分解点検	高	130M	—	21回	その他原子炉注水系主要弁分解検査		
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備] その他の弁	1式	1.機能・性能試験	高・低	B	○	24回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	一部先行実施	
	2.分解点検			13M~260M	○	24回	1次系弁検査 1次系安全弁検査		
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備]	1式	1.機能・性能試験	高	B	○	24回	1次系弁検査	一部先行実施	
		2.分解点検			13M~156M	○	24回		1次系弁検査
		3.簡易点検 (荷性試験他)	高・低	13M~208M	○	24回	1次系弁検査		
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備] その他機器	1式	1.分解点検他	高	13M~260M	○	24回	1次系弁検査	一部先行実施 一部BMあり 一部先行実施	
		1.分解点検他	低	13M~260M	○	24回	1次系弁検査		
原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備]	補助給水系	1.機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	24回	補助給水系機能検査		
		2.分解点検			13M~260M	○	24回		
	A 電動補助給水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	高	130M	○	○	15回	補助給水系ポンプ分解検査	(振動診断：1M)
		1.分解点検 (ポンプ)	高	130M	○	—	21回		
		1.分解点検 (電動機)			104M	—	24回		
	B 電動補助給水ポンプ・電動機	2.簡易点検 (潤滑油入替他)			13M	○	24回		(振動診断：1M)
		1.分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	16回	補助給水系ポンプ分解検査		
		1.分解点検 (電動機)			104M	—	22回		
	タービン動補助給水ポンプ	2.簡易点検 (潤滑油入替他)			13M	○	24回		駆動部のタービン含む
		1.機能・性能試験	高	B	○	○	21回	2次系ポンプ機能検査	
		2.分解点検			52M	○	21回	補助給水系ポンプ分解検査	
			3.簡易点検 (潤滑油入替他)		13M	○	24回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)		
原子炉冷却系統施設 [蒸気タービン]の附属設備	原子炉冷却系統施設 [蒸気タービン]の附属設備]その他の弁	1.機能・性能試験	高	B 52M~130M	○	24回	2次系弁検査			
		2.分解点検								
		3.簡易点検 (グラブド入替)								
	原子炉冷却系統施設 [蒸気タービン]の附属設備]その他の弁駆動部	1.機能・性能試験	高	B 52M~156M 13M~52M	○	23回	2次系弁検査			
		2.分解点検								
		3.簡易点検 (特性試験)								
	原子炉冷却系統施設 [蒸気タービン]の附属設備]その他の機器	1.分解点検他	高	26M~260M	○	24回	原子炉補機冷却系機能検査			
		1.分解点検他								
		1.機能・性能試験 (弁、弁駆動部含む)								
	原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備]	A 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	高	B※ 130M	-	24回	1次系ポンプ機能検査	(振動診断; 3M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施	
			2.分解点検 (ポンプ)							
			3.簡易点検 (潤滑油入替他)							
		B 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	高	B※ 130M 104M	-	24回	1次系ポンプ機能検査		(振動診断; 3M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施
			2.分解点検 (ポンプ)							
			3.簡易点検 (潤滑油入替他)							
C 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機		1.機能・性能試験	高	B※ 130M 104M	○	22回	1次系ポンプ機能検査		(振動診断; 1.2M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施	
		2.分解点検 (ポンプ)								
		3.簡易点検 (潤滑油入替他)								
D 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機		1.機能・性能試験	高	B※ 130M 104M	-	21回	1次系ポンプ機能検査		(振動診断; 3M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施	
		2.分解点検 (ポンプ)								
		3.簡易点検 (潤滑油入替他)								
E 原子炉補機冷却水ポンプ・電動機		1.機能・性能試験	高	B※ 130M 104M	-	23回	1次系ポンプ機能検査		(振動診断; 3M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施	
		2.分解点検 (ポンプ)								
		3.簡易点検 (潤滑油入替他)								
大容量ポンプ	3台	1.機能・性能試験	高	1Y	○	24回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 21回施設定検時に設置 保全の有効性評価結果No.45の反映		
		2.分解点検								
A 原子炉補機冷却水冷却器		1.開放点検	高	13M	○	24回	1次系熱交換器検査			
		2.非破壊試験								
		3.漏えい試験								
		4.機能・性能試験								
		5.開放点検								
B 原子炉補機冷却水冷却器		1.開放点検	高	13M	○	24回	1次系熱交換器検査	※: 1次系熱交換器検査結果にて有意な番号指示が認められた場合に実施		
		2.非破壊試験								
		3.漏えい試験								
		4.機能・性能試験								
		5.開放点検								

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却水設備〕	C 原子炉補機冷却水冷却器	1. 開放点検	高	13M	○	24回	1 次系熱交換器検査	※：1 次系熱交換器検査結果にて有意な番号指示が認められたる場合に実施	
		2. 非破壊試験		13M	○	24回			
		3. 漏えい試験		13M	○	24回	原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修		
		4. 機能・性能試験		X※	—	24回	原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修 工事機能・性能事業者検査		
		5. 開放点検		X※	—	24回	原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修 工事構造・強度事業者検査		
	D 原子炉補機冷却水冷却器	1. 開放点検	高	13M	○	24回	1 次系熱交換器検査	※：1 次系熱交換器検査結果にて有意な番号指示が認められたる場合に実施	
		2. 非破壊試験		13M	○	24回			
		3. 漏えい試験		13M	○	24回	原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修		
		4. 機能・性能試験		X※	—	24回	原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修 工事機能・性能事業者検査		
		5. 開放点検		X※	—	24回	原子炉補機冷却水冷却器伝熱管補修 工事構造・強度事業者検査		
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕	原子炉補機冷却水サージタンク	1. 開放点検	高	130M	—	21回	1 次系真空破膜弁検査		
		1. 分解点検		130M	—	17回			
		1. 機能・性能試験		1F	○	24回	可搬型重大事故等対処設備機能検査		
		1. 機能・性能試験		B	○	24回	1 次系弁検査 1 次系安全弁検査		
		2. 分解点検		130M	○	24回	1 次系弁検査 1 次系安全弁検査 1 次系逆止弁検査 1 次系弁検査		
	原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕	原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕	1. 機能・性能試験	高	B	—	22回	1 次系弁検査	一部先行実施
			2. 分解点検		13M～156M	○	24回	1 次系弁検査	
			3. 簡易点検 (特性試験他)		13M～65M	○	24回	1 次系弁検査	
			1. 分解点検他		13M～260M	○	24回		
			1. 分解点検他		65M～208M	○	24回	一部先行実施 一部BMあり	
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕	A 海水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部含む)	高	1F	○	24回	原子炉補機冷却系統機能検査	先行実施 (振動診断：3M (対象：電動機)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施	
		1. 機能・性能試験		B※	—	24回	2 次系ポンプ機能検査		
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	24回	2 次系ポンプ分解検査		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	24回			
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	—	24回			
	B 海水ポンプ・電動機	原子炉補機冷却海水系	1. 機能・性能試験	高	B※	—	23回	2 次系ポンプ機能検査	先行実施 (振動診断：3M (対象：電動機)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施
			2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	23回	2 次系ポンプ分解検査	
			2. 分解点検 (電動機)		104M	—	23回		
			3. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	23回		
			1. 機能・性能試験		B※	—	24回	2 次系真空破膜弁検査	
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕	C 海水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B※	—	24回	2 次系真空破膜弁検査	先行実施 (振動診断：3M (対象：電動機)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施	
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	24回	2 次系ポンプ分解検査		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	22回			
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	—	24回			
		1. 分解点検		117M	○	24回	2 次系弁検査		
	原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕	原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕 〔原子炉補機冷却海水設備〕	1. 機能・性能試験	高	B	○	24回		
			2. 分解点検		117M	○	24回		
			1. 分解点検他		13M～195M	○	24回		
			1. 分解点検他		13M～195M	○	24回		
			1. 分解点検他		13M～195M	○	24回	一部BMあり	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置]	格納容器サンブ、格納容器内凝縮液量測定装置に係る設備	1.機能・性能試験	高	13M	○	24回	格納容器サンブ水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査	
	計測制御系統施設 [制御材]	2.特性試験		13M	○	24回	格納容器サンブ水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査	
計測制御系統施設 [制御棒駆動装置]	照射済制御棒クラスタ	1.外観点検	高	1F	○	24回	照射済制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
	照射済バーナブルボイスン	1.外観点検	高	1F	○	24回	照射済バーナブルボイスン検査	※：炉心設計による
	照射済パナゾングデバイス	1.外観点検	高	1F	○	24回	照射済パナゾングデバイス検査	※：炉心設計による
	照射済2次中性子源	1.外観点検	高	1F	○	24回	照射済2次中性子源検査	※：炉心設計による
	制御棒クラスタ	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	制御棒クラスタ動作検査	
	A 制御棒駆動装置MGセット (発電機・電動機)	1.機能・性能試験	高	B※	○	24回	制御棒駆動装置MGセット動作検査	(振動診断：3M) ※発電機または電動機の分解点検に合わせ実施
	B 制御棒駆動装置MGセット (発電機・電動機)	2.分解点検 (発電機)	高	78M	○	24回	制御棒駆動装置MGセット (発電機)分解点検	(振動診断：3M) ※発電機または電動機の分解点検に合わせ実施
		2.分解点検 (電動機)		CBM	○	24回	制御棒駆動装置MGセット (電動機)分解点検	
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		13M	○	24回	制御棒駆動装置MGセット (潤滑油入替)簡易点検	
	B 制御棒駆動装置MGセット (発電機・電動機)	1.機能・性能試験	高	B※	○	24回	制御棒駆動装置MGセット動作検査	(振動診断：3M) ※発電機または電動機の分解点検に合わせ実施
計測制御系統施設 [工学的安全施設等の作動信号]	A TWS緩和設備	1.機能・性能試験	高	13M	○	24回	TWS緩和設備機能検査	
	A ほう酸ポンプ・電動機	2.特性試験	高	13M	○	24回	ほう酸ポンプ機能検査	
		1.機能・性能試験	高	B※	○	22回	ほう酸ポンプ分解検査	(振動診断：1M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施 保全の有効性評価結果No. 3の反映
		2.分解点検 (ポンプ)		78M	○	22回	ほう酸ポンプ分解検査	
		2.分解点検 (電動機)		78M	○	22回	ほう酸ポンプ分解検査	
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		13M~39M	○	24回	ほう酸ポンプ分解検査	
	B ほう酸ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	高	B※	○	23回	ほう酸ポンプ機能検査	(振動診断：1M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施 保全の有効性評価結果No. 4の反映
		2.分解点検 (ポンプ)		78M	○	23回	ほう酸ポンプ分解検査	
		2.分解点検 (電動機)		78M	○	21回	ほう酸ポンプ分解検査	
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		13M~39M	○	24回	ほう酸ポンプ分解検査	
計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備]	C ほう酸ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	高	B※	○	21回	ほう酸ポンプ機能検査	(振動診断：1M) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施 保全の有効性評価結果No. 5の反映
		2.分解点検 (ポンプ)		78M	○	21回	ほう酸ポンプ分解検査	
		2.分解点検 (電動機)		78M	○	21回	ほう酸ポンプ分解検査	
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		13M~39M	○	24回	ほう酸ポンプ分解検査	
	A 1次系補給水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	低	B※	○	24回	1次系ポンプ機能検査	(振動診断：6M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施
		2.分解点検 (ポンプ)		CBM	○	7回	1次系ポンプ分解検査	
		2.分解点検 (電動機)		78M	○	24回	1次系ポンプ分解検査	
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	24回	1次系ポンプ分解検査	
	B 1次系補給水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	低	B※	○	23回	1次系ポンプ機能検査	(振動診断：6M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施
		2.分解点検 (ポンプ)		CBM	○	8回	1次系ポンプ分解検査	
	2.分解点検 (電動機)		78M	○	23回	1次系ポンプ分解検査		
	3.簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	24回	1次系ポンプ分解検査		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
計測制御系統施設 【ほう酸注入機能を有する設備】	Aほう酸タンク	1.開放点検	高	195M	-	23回			
	Bほう酸タンク	1.開放点検	高	195M	-	24回			
	Aほう酸タンクアトモス弁	1.分解点検	高	130M	-	21回	1次系真空破壊弁検査		
	Aほう酸タンクバキユームリリーフ弁	1.分解点検	高	130M	-	21回	1次系真空破壊弁検査		
	Bほう酸タンクアトモス弁	1.分解点検	高	130M	-	19回	1次系真空破壊弁検査		
	Bほう酸タンクバキユームリリーフ弁	1.分解点検	高	130M	-	19回	1次系真空破壊弁検査		
	1次系純水タンク	1.開放点検	低	195M	-	14回			
	1次系純水タンクアトモス弁	1.分解点検	低	130M	-	21回	1次系真空破壊弁検査		
	1次系純水タンクバキユームリリーフ弁	1.分解点検	低	130M	-	21回	1次系真空破壊弁検査		
	ほう酸フィルタ	1.開放点検	高	130M	-	20回			
	計測制御系統施設【ほう酸注入機能を有する設備】その他の弁	1.機能・性能試験	高・低	B	-	23回	1次系弁検査 1次系安全弁検査		
	計測制御系統施設【ほう酸注入機能を有する設備】	2.分解点検		130M	○	24回	1次系弁検査 1次系逆止弁検査 1次系弁検査		
	計測制御系統施設【ほう酸注入機能を有する設備】	1.機能・性能試験	高	B	-	19回			
	計測制御系統施設【ほう酸注入機能を有する設備】	2.分解点検	高	156M	-	19回			
	計測制御系統施設【ほう酸注入機能を有する設備】	1.分解点検	高	91M~221M	○	24回			
計測制御系統施設【ほう酸注入機能を有する設備】	1.分解点検	低	104M~234M	○	24回		一部BMあり 一部先行実施 先行実施		
計測制御系統施設 【ほう酸再生設備】	ほう酸熱再生抽出水冷却器	1.開放点検(管側)	高	130M	-	18回			
		1.開放点検(胴側)		195M	-	22回			
		2.非破壊試験		130M	-	18回	1次系熱交換器検査		
	ほう酸熱再生再熱器	1.開放点検(管側)	高	130M	-	18回		先行実施	
		1.開放点検(胴側)		195M	-	22回			
		2.非破壊試験		130M	-	18回	1次系熱交換器検査		
	ほう酸熱再生前置熱交換器	1.開放点検(管側)	高	130M	-	18回		先行実施	
		1.開放点検(胴側)		195M	-	22回			
		2.非破壊試験		130M	-	18回	1次系熱交換器検査		
	計測制御系統施設【ほう酸再生設備】その他の弁	1.機能・性能試験	高・低	B	-	21回	1次系安全弁検査		
	計測制御系統施設【ほう酸再生設備】	2.分解点検		130M	-	24回	1次系弁検査 1次系逆止弁検査	一部先行実施	
	計測制御系統施設【ほう酸再生設備】	1.分解点検	高	104M~130M	○	24回		一部先行実施	
	計測制御系統施設【ほう酸再生設備】	1.分解点検	低	156M	-	23回		一部BMあり 一部先行実施	
	格納容器外制御用空気圧縮機	2台	1.機能・性能試験(圧縮機、電動機含む)	高	1F	○	24回	制御用空気圧縮系機能検査	
	計測制御系統施設 【制御用空気設備】	A格納容器外制御用空気圧縮機・電動機	1.分解点検(圧縮機)	高	26M	-	24回		(振動診断：3M(対象：電動機)) 保全の有効性評価結果No6の反映
		1.分解点検(電動機)		CBM	-	13回			
		2.簡易点検(V-ベル調整)		26M	○	24回			
		2.簡易点検(潤滑油入替)		26M	-	24回			
B格納容器外制御用空気圧縮機・電動機		1.分解点検(圧縮機)	高	26M	○	24回		(振動診断：3M(対象：電動機)) 保全の有効性評価結果No.7の反映	
		1.分解点検(電動機)		CBM	-	14回			
		2.簡易点検(V-ベル調整)		26M	-	24回			
		2.簡易点検(潤滑油入替)		26M	-	24回			
格納容器内制御用空気圧縮機		2台	1.機能・性能試験(圧縮機、電動機含む)	高	1F	○	24回	制御用空気圧縮系機能検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
計測制御系統施設 [制御用空気設備]	A 格納容器内制御用空気圧縮機・電動機	1. 分解点検 (圧縮機)	高	26M	○	23回		(振動診断: 3M (対象: 電動機)) 保全の有効性評価結果No. 8の反映	
		1. 分解点検 (電動機)		78M	-	24回			
		2. 簡易点検 (V-ベルト調整他)		26M	-	24回			
		2. 簡易点検 (潤滑油入替他)		13M~26M	○	24回			
		1. 分解点検 (圧縮機)		26M	-	24回			
	B 格納容器内制御用空気圧縮機・電動機	1. 分解点検 (電動機)	高	78M	○	21回		(振動診断: 3M (対象: 電動機)) 保全の有効性評価結果No. 9の反映	
		2. 簡易点検 (V-ベルト調整他)		26M	○	24回			
		2. 簡易点検 (潤滑油入替他)		13M~26M	○	24回			
		1. 機能・性能試験		B	-	23回			
		2. 分解点検		130M~195M	○	23回			
計測制御系統施設 [制御用空気設備] その他の弁	計測制御系統施設 [制御用空気設備] その他の弁駆動部	1. 分解点検	高	156M	-	24回			
		1. 分解点検他		13M~260M	○	24回			
		1. 分解点検他		13M~260M	○	24回			
		1. 機能・性能試験		1F	○	24回			
		1. 特性試験		13M	○	24回			
	計測制御系統施設 [制御用空気設備] その他機器	34回路	高					安全保護系機能検査	
		26回路							
		1式							1 次系安全弁検査
		1式							1 次系逆止弁検査
		1式							
計測制御系統施設 [その他設備]	1. 原子炉保護系ロジック回路 2. 安全防護系ロジック回路	1. 原子炉施設保安規定に定める原子炉トリップ、工学的安全施設の始動、原子炉格納容器隔離等を行うためのすべての伝送器、設定器及び保護継電器 (1) 1 次冷却材等計測装置 伝送器 設定器 保護継電器 (2) 核計測装置 設定器	高	78個					
		144個							
		42個							
		20個							
		31個							
	2. 重要な指示計器 (1) 1 次冷却材等計測装置 (2) 核計測装置	31個	高・低					安全保護系設定値確認検査	
		8個							
事故時燃料取扱設備 格納容器ガス試料採取系統設備 計測制御系統施設 破襲板	1. 制御棒制御系 2. 加圧器水位制御系 3. 加圧器圧力制御系 4. 蒸気発生器水位制御系	1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	ブラント状態監視設備機能検査		
		1. 分解点検		130M	-	21回			
		1. 特性試験		13M	○	24回			
		2. 機能・性能試験		1F	○	24回			
		1. 特性試験		13M	○	24回			
	1 次系及び 2 次系計測制御装置 炉外核計測装置 中性子源領域計測装置 中間領域計測装置 出力領域計測装置	1式	高					計測制御系機能検査	一部定期事業者検査起動後
		2台							
		2台							
		8台							

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
計測制御系統施設 [その他設備]	炉内該計装装置	1式	高・低	1F 13M 13M	○ ○ ○	24回 24回 24回	核計装設備検査	
	炉内計装用シンプルチューブ	50本	高	52M	-	24回	炉内計装用シンプルチューブ体積検査	
	制御棒位置指示装置	1式	高	13M	○	24回	制御棒位置指示装置設定値検査	
	1. パーミットシフトロジック回路 原子炉保護系	5回路	高	1F	○	24回	安全保護系機能検査	
	2. パーミットシフトロジック回路 安全防護系	3回路						
	総合インターロック	1式	高	1F	○	24回	総合インターロック検査	
	1. タービントリップによる原子炉、発電機トリップ回路							
	2. 発電機トリップによる原子炉、タービントリップ回路							
	3. 原子炉トリップによるタービン、発電機トリップ回路							
	原子炉の停止制御回路	1式	高	1F	○	24回	原子炉の停止制御回路健全性確認検査	
	可搬型格納容器ガス試料圧縮装置	2台	高	1F	○	24回	可搬型重大事故等対処設備機能検査	
	計測制御系統施設[その他設備]その他の弁	1式	高・低	B 78M~260M	-	24回	1 次系弁検査 1 次系安全弁検査	
	計測制御系統施設[その他設備]その他の弁駆動部	1式	高・低	B 65M~156M	○	24回	1 次系弁検査	
	計測制御系統施設[その他設備]その他の機器	1式	高	65M~208M 13M~208M	○	24回	1 次系逆止弁検査 1 次系弁検査	
	放射線廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	ガス圧縮機	2台	低	12M~260M	○	24回	気体廃棄物処理系機能検査
A.ガス圧縮機・電動機			低	52M	-	24回		(振動診断：4M)
B.ガス圧縮機・電動機			低	52M	○	21回		(振動診断：4M)
水素再結合装置		2台	低	1F	○	24回	気体廃棄物処理系機能検査	
A.水素再結合装置			低	130M	○	24回		
B.水素再結合装置			低	130M	○	24回		
1 次系破蔵板		12台	高	130M	-	24回	1 次系破蔵板検査	先行実施
ほう酸回収装置		1基	低	1F	○	24回	液体廃棄物処理系機能検査	先行実施
ほう酸回収装置 (弁、機器)		1式	低	65M~130M 130M	○	24回		先行実施
1. 分解点検他								
2. 簡易点検(ガスケットパッキン取替)								
1. 分解点検他			低	1F	○	24回	液体廃棄物処理系機能検査	先行実施
2. 簡易点検他			低	65M~156M 130M	○	24回		先行実施

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
放射線廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	A 補助建屋冷却材ドレンポンプ・電動機	1.機能・性能試験	低	B※	-	21回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施	
		2.分解点検 (ポンプ)		CBM	-	7回			
		2.分解点検 (電動機)		91M	-	21回			
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		39M	-	24回			
		1.機能・性能試験		B※	○	21回	液体廃棄物処理系設備検査		先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施
		2.分解点検 (ポンプ)		CBM	-	8回			
	2.分解点検 (電動機)	78M	○	21回					
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	○	23回					
	1.機能・性能試験	B※	-	21回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施			
	2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	6回					
	2.分解点検 (電動機)	78M	-	21回					
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	○	23回					
	1.機能・性能試験	B※	-	23回	液体廃棄物処理系設備検査		先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施		
	2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	7回					
	2.分解点検 (電動機)	78M	-	23回					
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	-	24回					
	1.機能・性能試験	B※	-	23回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施			
	2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	16回					
	2.分解点検 (電動機)	169M	-	24回					
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	B※	-	21回	液体廃棄物処理系設備検査		先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施		
	2.分解点検 (電動機)	260M	-	24回					
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	169M	-	24回					
	1.機能・性能試験	B※	○	21回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施			
	2.分解点検 (ポンプ)	260M	-	21回					
2.分解点検 (電動機)	143M	○	17回						
3.簡易点検 (潤滑油入替)	B※	-	24回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施				
2.分解点検 (電動機)	260M	-	21回						
3.簡易点検 (潤滑油入替)	156M	-	24回						
1.機能・性能試験	B※	-	24回	液体廃棄物処理系設備検査		先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施			
2.分解点検 (ポンプ)	26M	-	24回						
2.分解点検 (電動機)	78M	-	21回						
3.簡易点検 (潤滑油入替)	13M	○	24回						
1.機能・性能試験	B※	○	24回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施				
2.分解点検 (ポンプ)	26M	○	24回						
2.分解点検 (電動機)	78M	○	21回						
3.簡易点検 (潤滑油入替)	13M	○	24回						
1.機能・性能試験	B※	○	22回	液体廃棄物処理系設備検査		先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施			
2.分解点検 (ポンプ)	52M	○	22回						
2.分解点検 (電動機)	52M	○	22回						
3.簡易点検 (潤滑油入替)	B※	-	23回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施				
2.分解点検 (電動機)	52M	-	23回						
3.簡易点検 (潤滑油入替)	52M	-	23回						
1.機能・性能試験	B※	-	23回	液体廃棄物処理系設備検査		先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施			
2.分解点検 (ポンプ)	52M	-	23回						
2.分解点検 (電動機)	52M	-	23回						

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
放射線廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	A 廃液給水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	低	B※	○	21回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施
		2.分解点検 (ポンプ)		CBM	-	8回		
		3.簡易点検 (電動機)		78M	○	21回		
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	24回		
		1.機能・性能試験		B※	-	23回		
		2.分解点検 (ポンプ)		CBM	-	5回		
	B 廃液給水ポンプ・電動機	2.分解点検 (電動機)	78M	-	23回			
		3.簡易点検 (潤滑油入替)	26M	-	24回			
		1.機能・性能試験	B※	-	24回			
		2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	6回			
		2.分解点検 (電動機)	78M	-	24回			
		3.簡易点検 (潤滑油入替)	26M	-	24回			
	C 廃液給水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	B※	○	16回			
		2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	6回			
		2.分解点検 (電動機)	156M	○	16回			
		3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	-	24回			
		1.機能・性能試験	B※	-	23回			
		2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	7回			
	34A 洗浄排水ポンプ・電動機	2.分解点検 (電動機)	156M	-	23回			
		3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	-	24回			
		1.機能・性能試験	B※	-	23回			
		2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	8回			
		2.分解点検 (電動機)	156M	-	23回			
		3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	-	24回			
34B 洗浄排水ポンプ・電動機	1.機能・性能試験	B※	-	23回				
	2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	8回				
	2.分解点検 (電動機)	156M	-	23回				
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	-	24回				
	1.機能・性能試験	B※	-	15回				
	2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	4回				
34A 廃液蒸留水モニタタンクポンプ・電動機	2.分解点検 (電動機)	182M	-	15回				
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	-	24回				
	1.機能・性能試験	B※	-	15回				
	2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	7回				
	2.分解点検 (電動機)	208M	-	15回				
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	○	23回				
34B 廃液蒸留水モニタタンクポンプ・電動機	1.機能・性能試験	B※	-	16回				
	2.分解点検 (ポンプ)	CBM	-	8回				
	2.分解点検 (電動機)	182M	-	16回				
	3.簡易点検 (潤滑油入替)	39M	-	24回				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)		
放射線廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	34A 廃液蒸留水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B※	—	18回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施		
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	7回				
		2. 分解点検 (電動機)		182M	—	18回				
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)		39M	—	24回				
		1. 機能・性能試験		B※	—	14回				
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	3回				
	34B 廃液蒸留水ポンプ・電動機	2. 分解点検 (電動機)	208M	—	14回	液体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施			
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)	39M	—	24回					
		1. 機能・性能試験	B※	—	24回					
		2. 分解点検 (ポンプ)	260M	—	24回					
		2. 分解点検 (電動機)	91M	—	21回					
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)	91M	○	21回					
液体廃棄物貯蔵設備及び処理設備の漏えい防止に係る警報機能	1式	1. 特性試験	低	13M	○	24回	液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査			
		2. 機能・性能試験		1F	○	24回				
		1. 特性検査		13M	○	24回				
		1. 機能・性能試験		1F	○	24回				
		2. 機能・性能試験		B	—	27回※				
		2. 分解点検 (グラランドパッキン取替)		195M~260M 13M~260M	○	27回※				
	流体状態の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置 (34 酸液トレンタンク水位伝送器)	1. 特性検査	13M	低	13M	○	24回	液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査		
		1. 機能・性能試験	1F	低	1F	○	24回			
		1. 機能・性能試験	B	低	B	—	27回※			
		2. 分解点検 (ポンプ)	195M~260M 13M~260M	○	27回※					
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)	B※	低	B※	—	24回			
		2. 分解点検 (電動機)	CBM	—	7回					
アスファルト固化設備	1式	1. 機能・性能試験	低	B※	—	24回	固体廃棄物処理系設備検査	先行実施 (振動診断：6M (対象：ポンプ)) ※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ て実施		
		2. 分解点検 (ポンプ)		CBM	—	7回				
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	24回				
		3. 簡易点検 (潤滑油入替)		39M	○	23回				
		1. 機能・性能試験		B	高・低	B			○	24回
		2. 分解点検		13M~260M	○	24回				
	使用済樹脂スルースポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	13M~130M	高	13M~130M	○	24回	1 次系安全弁検査 1 次系逆止弁検査 1 次系真空破壊弁検査	一部先行実施 一部BMあり 一部先行実施 保全の有効性評価結果No.23の反映	
		2. 分解点検	12M~260M	低	12M~260M	○	24回			
		1. 分解点検他								
		1. 分解点検他								
		1. 機能・性能試験	1F	低	1F	○	24回			
		1. 機能・性能試験	13M	高	13M	○	24回			
放射線廃棄物の廃棄施設 〔原子炉格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの液体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置〕	1式	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置 (最終の流入サンプリング)			
		1. 機能・性能試験		13M	高	13M			○	24回
		1. 機能・性能試験		13M	高	13M			○	24回
		1. 機能・性能試験		13M	高	13M			○	24回
		1. 機能・性能試験		13M	高	13M			○	24回
		1. 機能・性能試験		13M	高	13M			○	24回
	格納容器内高レンジモニタ	1. 特性試験	13M	高	13M	○	24回	エアリアモニタ機能検査		
		1. 機能・性能試験	1F	高	1F	○	24回			
		2. 特性試験	13M	高	13M	○	24回			
		1. 機能・性能試験	13M	高	13M	○	24回			
		2. 特性試験	13M	高	13M	○	24回			
		1. 機能・性能試験	13M	高	13M	○	24回			
放射線管理用計測装置 〔放射線管理用計測装置〕	4個	1. 特性試験	高	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査			
	4個	1. 機能・性能試験	高	13M	○	24回				

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
放射線管理施設 【放射線管理用計測装置】	炉内計装区域エリアモニタ (3R-7) アスファルト固化装置ドラム充てん監視区域エリアモニタ (34R-9A) 充てんドラム貯蔵室クレーン操作区域エリアモニタ (34R-9B) 格納容器内オペレーティングフロアエリアモニタ (3R-10) 1次系補機操作室エリアモニタ (34R-11) 可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】 放射線管理施設【放射線管理用計測装置】	1. 特性試験	低	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中
		1. 特性試験	低	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	低	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	低	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	低	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	低	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	高	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	高	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	高	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
		1. 特性試験	高	13M	○	24回	放射線監視装置機能検査	
放射線管理施設 【生体遮蔽装置】	1式	1. 漏えい試験	高	6Y	○	21回	中央制御室の居住性確認検査	一部BMあり プラント運転中又は定期事業者検査停止中 保全の有効性評価結果No.24の反映 21回施設定期検査より追加
	1式	1. 漏えい試験	高	1F	○	24回	緊急時対策所の居住性確認検査	
放射線管理施設 【換気設備】	放射線管理施設【生体遮蔽装置】その他 A 格納容器排気フィルタユニット B 格納容器排気フィルタユニット A 格納容器空気浄化フィルタユニット B 格納容器空気浄化フィルタユニット 中央制御室非常用循環系 (A系列) 中央制御室非常用循環系 (B系列)	1. 外観点検	高	3M~1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2. 開放点検	低	4F	-	24回	1次系換気空調設備検査	
		1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2. 開放点検	低	4F	-	24回	1次系換気空調設備検査	
		1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2. 開放点検	低	4F	-	24回	1次系換気空調設備検査	
		1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2. 開放点検	低	4F	-	24回	1次系換気空調設備検査	
		1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系機能検査	
中央制御室非常用循環系 (A系列)	1. 機能・性能試験 (ファン、電動機、弁、弁駆動装置を含む) 1. 機能・性能試験 (ファン、電動機、弁、弁駆動装置を含む)	1. 機能・性能試験	高	1F	○	23回※	中央制御室非常用循環系機能検査	4号設備 ※4号での実績
		2. 開放点検	高	4F	-	22回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		2. 開放点検	高	4F	-	22回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		2. 開放点検	高	4F	-	22回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		2. 開放点検	高	4F	-	22回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系機能検査	
		2. 開放点検	高	4F	-	22回	中央制御室非常用循環系機能検査	
中央制御室非常用循環系 (B系列)	1. よう素フィルタ性能検査 (よう素除去効率検査) 1. よう素フィルタ性能検査 (漏えい率検査) 2. 機能・性能試験 3. 開放点検 (フィルタ取替) 3. 開放点検 1. よう素フィルタ性能検査 (よう素除去効率検査) 1. よう素フィルタ性能検査 (漏えい率検査) 2. 機能・性能試験 3. 開放点検 (フィルタ取替) 3. 開放点検	1. よう素フィルタ性能検査	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査 ※1: よう素フィルタ性能検査結果により適宜実施 ※2: 4号での実績
		1. よう素フィルタ性能検査	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		2. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		3. 開放点検 (フィルタ取替)	高	X※	-	24回	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		3. 開放点検	高	4F	-	22回	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		1. よう素フィルタ性能検査	高	1F	-	23回※2	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		1. よう素フィルタ性能検査	高	1F	-	23回※2	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		2. 機能・性能試験	高	1F	-	23回※2	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		3. 開放点検 (フィルタ取替)	高	X※1	-	22回※2	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	
		3. 開放点検	高	4F	-	20回※2	中央制御室非常用循環系フィルタ性能検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)
放射線管理施設 [換気設備]	A 格納容器非気ファン・電動機	1.機能・性能試験	低	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：2M)
		2.分解点検 (ファン)		260M	-	21回		
		2.分解点検 (電動機)		CBM	-	8回		
		1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：2M)
		2.分解点検 (ファン)		260M	-	21回		
		2.分解点検 (電動機)		CBM	-	3回		
	B 格納容器再循環ファン・電動機	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2.分解点検 (ファン)		260M	-	22回		
		2.分解点検 (電動機)		104M	-	24回		
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		26M	-	24回		
		1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2.分解点検 (ファン)		260M	-	19回		
	C 格納容器再循環ファン・電動機	2.分解点検 (電動機)	高	104M	-	24回		
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		26M	-	24回		
		1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2.分解点検 (ファン)		260M	-	20回		
		2.分解点検 (電動機)		104M	-	23回		
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	23回		
	D 格納容器再循環ファン・電動機	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2.分解点検 (ファン)		260M	-	21回		
		2.分解点検 (電動機)		104M	-	23回		
		3.簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	23回		
		1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	
		2.分解点検 (ファン)		260M	-	21回		
A 格納容器空気浄化ファン・電動機	2.分解点検 (電動機)	低	91M	-	21回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査		
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	18回			
	2.分解点検 (電動機)		91M	-	22回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	20回			
B 格納容器空気浄化ファン・電動機	2.分解点検 (電動機)	高	78M	-	22回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	17回			
	2.分解点検 (電動機)		78M	-	24回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	16回		4号設備 ※4号での実績	
34A 中央制御室空調ファン・電動機	2.分解点検 (電動機)	高	78M	-	21回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	17回			
	2.分解点検 (電動機)		78M	-	24回			
	1.機能・性能試験		1F	-	23回		(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	16回		4号設備 ※4号での実績	
34B 中央制御室空調ファン・電動機	2.分解点検 (電動機)	高	78M	-	21回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	17回			
	2.分解点検 (電動機)		78M	-	24回			
	1.機能・性能試験		1F	-	23回		(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	16回		4号設備 ※4号での実績	
34C 中央制御室空調ファン・電動機	2.分解点検 (電動機)	高	78M	-	21回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	17回			
	2.分解点検 (電動機)		78M	-	24回			
	1.機能・性能試験		1F	-	23回		(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	17回		4号設備 ※4号での実績	
34D 中央制御室空調ファン・電動機	2.分解点検 (電動機)	高	78M	-	20回			
	1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	17回			
	2.分解点検 (電動機)		78M	-	24回			
	1.機能・性能試験		1F	-	23回		(振動診断：4M)	
	2.分解点検 (ファン)		260M	-	17回		4号設備 ※4号での実績	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
放射線管理施設 [換気設備]	34A 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 4M (対象: 電動機))	
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	19回			
	34B 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	78M	-	22回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 4M (対象: 電動機))	
		2. 分解点検 (ファン)		1F	○	24回			
	34C 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	260M	-	15回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 4M (対象: 電動機)) 4号設備 ※4号での実績	
		2. 分解点検 (ファン)		78M	-	24回			
	34D 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	-	23回※	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 4M (対象: 電動機)) 4号設備 ※4号での実績	
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	20回※			
	34A 中央制御室非常用循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	78M	-	20回※	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 4M (対象: 電動機)) 4号設備 ※4号での実績	
		2. 分解点検 (ファン)		1F	○	24回			
	34B 中央制御室非常用循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	117M	-	16回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 1M)	
		2. 分解点検 (ファン)		1F	-	21回			
	34C 中央制御室非常用循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	260M	-	17回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 1M)	
		2. 分解点検 (ファン)		117M	-	24回			
	34D 中央制御室非常用循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	-	23回※	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 1M) 4号設備 ※4号での実績	
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	16回※			
	緊急時対策所可搬型空気浄化ファン	4台	1. 機能・性能試験	高	117M	-	19回※	1 次系換気空調設備検査	(振動診断: 1M) 4号設備 ※4号での実績
			2. 分解点検 (ファン)		1F	○	24回		
	34A 放射線管理室給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施	
2. 分解点検 (ファン)				260M	-	7回			
34B 放射線管理室給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	104M	-	21回	1 次系換気空調設備検査	先行実施		
			2. 分解点検 (ファン)	1F	○			24回	
34A 放射線管理室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	260M	-	16回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断: 4M (対象: ファン))		
			2. 分解点検 (ファン)	104M	-			21回	
34B 放射線管理室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断: 4M (対象: ファン))		
			2. 分解点検 (ファン)	260M	-			20回	
34A 放射線管理室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	78M	○	21回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断: 4M (対象: ファン))		
			2. 分解点検 (ファン)	1F	○			24回	
34B 放射線管理室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	260M	-	17回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断: 4M (対象: ファン))		
			2. 分解点検 (ファン)	78M	-			23回	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
放射線管理施設 [換気設備]	A 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：電動機))
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	21回		
		3. 簡易点検 (モータ内部清掃)		CBM	-	14回		
	B 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：電動機))
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	21回		
		3. 簡易点検 (モータ内部清掃)		CBM	-	7回		
	A 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M)
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	15回		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	○	21回		
	B 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M)
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	16回		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	-	21回		
	C 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M)
		2. 分解点検 (ファン)		260M	-	17回		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	-	24回		
A 燃料取扱室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：電動機))	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	21回			
	2. 分解点検 (電動機)		CBM	-	7回			
B 燃料取扱室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M (対象：電動機))	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	21回			
	2. 分解点検 (電動機)		CBM	-	8回			
A 燃料取扱室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M)	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	20回			
	2. 分解点検 (電動機)		CBM	-	21回			
B 燃料取扱室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施 (振動診断：4M)	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	21回			
	2. 分解点検 (電動機)		CBM	-	21回			
34 ベイラ排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	20回			
	2. 分解点検 (電動機)		156M	-	18回			
34 ホット工作室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	16回			
	2. 分解点検 (電動機)		156M	○	16回			
34 廃棄物処理建屋送気ブースタファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	21回			
	2. 分解点検 (電動機)		78M	-	21回			
34 廃棄物処理建屋排気ブースタファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	先行実施	
	2. 分解点検 (ファン)		260M	-	21回			
	2. 分解点検 (電動機)		78M	-	21回			
自動ダンプ	1. 機能・性能試験	高・低	1F	○	24回	1 次系換気空調設備検査	一部先行実施	
	2. 分解点検他		65M~130M	○	24回			
放射線管理施設 [換気設備] その他の弁	1. 機能・性能試験	高	B	-	20回	1 次系安全弁検査	一部先行実施 一部BMあり	
	2. 分解点検		130M	-	20回	1 次系逆止弁検査		
放射線管理施設 [換気設備] その他機器	1. 分解点検他	高	13M~260M	○	24回		一部先行実施 一部BMあり	
	1. 分解点検他		13M~260M	○	24回			
放射線管理施設 [その他設備]	1. 特設試験	高	1Y	○	24回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する設備診断技術)	
原子炉格納施設 [原子炉格納容器]	原子炉格納容器	1. 漏えい率試験	高	3F	-	24回	原子炉格納容器全漏えい率検査	10年に1回は設計圧力にて実施 (第27回定検において設計圧力にて実施予定)	
	エアロック	通常用 1個	1. 漏えい率試験 2. 分解点検	高	2回/3F 52M	○ -	23回 24回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
		非常用 1個	3. 簡易点検 (バックシン取替他)		13M	○	24回		
			1. 漏えい率試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (バックシン取替他)	高	2回/3F 52M 13M	○ - ○	23回 23回 24回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	機器搬入口	1個	1. 漏えい率試験 2. 非破壊試験	高	2回/3F 25%/10Y	○ -	23回 22回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	ISIプログラムによる。 [別表-6]
	配管貫通部	1式	3. 開放点検	高	13M	○	24回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	電線貫通部	1式	1. 漏えい率試験	高	2回/3F 開放時※	○ -	23回 21回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	※但し、最長1回/10定検
		70個	2. 開放点検	高	2回/3F	○	23回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
	原子炉格納容器隔離弁 格納容器隔離信号 (T・V信号) により 隔離される弁 格納容器スプレイ・隔離信号 (P・V信号) により隔離される弁 原子炉格納容器隔離弁	1式	1. 漏えい率試験 1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部等含む)	高	2回/3F	○	23回	原子炉格納容器局部漏えい率検査	
		20個	1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	24回	原子炉格納容器隔離弁機能検査	
		3V-CS-004A	1. 分解点検	高	52M	-	22回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-004B	1. 分解点検	高	52M	-	22回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-004C	1. 分解点検	高	52M	-	22回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-001A	1. 分解点検	高	130M	-	22回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-001B	1. 分解点検	高	130M	-	21回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-003A	1. 分解点検	高	130M	-	22回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-003B	1. 分解点検	高	130M	-	23回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-355	1. 分解点検	高	130M	-	21回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-019	1. 分解点検	高	130M	○	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-007	1. 分解点検	高	52M	○	23回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-354	1. 分解点検	高	130M	-	21回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-018	1. 分解点検	高	130M	○	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-VR-001A	1. 分解点検	高	130M	-	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-VR-001B	1. 分解点検	高	130M	-	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-VR-002A	1. 分解点検	高	130M	-	23回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-VR-002B	1. 分解点検	高	130M	○	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-IA-508A	1. 分解点検	高	130M	-	24回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-308	1. 分解点検	高	130M	-	21回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-310	1. 分解点検	高	130M	-	22回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-489	1. 分解点検	高	130M	○	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-482	1. 分解点検	高	130M	○	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-523	1. 分解点検	高	130M	-	22回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-521	1. 分解点検	高	130M	-	21回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-546	1. 分解点検	高	130M	-	20回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-544	1. 分解点検	高	130M	-	21回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	3V-IA-508B	1. 分解点検	高	130M	-	19回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	1式	2. 簡易点検 (グラウンドバックシン取替他)	高	65M	○	24回	原子炉格納容器隔離弁分解検査		
	原子炉格納容器隔離弁駆動部	1式	1. 分解点検	高	52M~156M	○	24回		
			2. 簡易点検 (特性試験他)	高	13M~130M	○	24回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	原子炉格納容器真空逃がし弁	4個	高	1F	○	24回	原子炉格納容器真空逃がし弁機能検査	
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕その他 の弁	1式	高	1F B 52M～130M 52M～130M	○ ○ ○ ○	24回 24回 24回 24回	1 次系弁検査 1 次系弁検査 2 次系弁検査	
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕その他 の弁駆動部	1式	高	B 52M～65M	○ ○	24回 24回	1 次系弁検査	
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕その他 他機器	1式	高 低	13M～130M 130M	○ ○	24回 24回	一部BMあり	
	原子炉格納容器スプレイ系		高	1F	○	24回	原子炉格納容器安全系機能検査	
	圧力逃がし系		高	1F	○	—	その他原子炉注水水系機能検査	[対象設備] ・A原子炉格納容器スプレイポンプによる 代替炉心注入系 24回定期事業者検査より追加
	A原子炉格納容器スプレイポンプ・電動機		高	130M	—	19回	原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査	(振動診断：1M) その他原子炉注水水系ポンプ分解検査は21回 施設定期検査より追加
	B原子炉格納容器スプレイポンプ・電動機		高	130M 26M	— ○	21回 24回	その他原子炉注水水系ポンプ分解検査	
	A格納容器スプレイ冷却器		高	130M 195M	— ○	19回 24回	原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査	(振動診断：1M)
	B格納容器スプレイ冷却器		高	130M 195M 130M	— — —	19回 20回 20回	1 次系熱交換器検査	
原子炉格納容器スプレイ系主要弁	3V-CF-024A	1. 分解点検 (管側) 2. 非破壊試験	高	130M	—	22回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	3V-CF-024B	1. 分解点検	高	130M	—	22回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	3V-CF-054A	1. 分解点検	高	130M	—	22回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	3V-CF-054B	1. 分解点検	高	130M	—	23回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	3V-CF-001A	1. 分解点検	高	130M	—	22回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	3V-CF-001B	1. 分解点検	高	130M	—	23回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	3V-CF-003A	1. 分解点検	高	130M	—	21回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	3V-CF-003B	1. 分解点検	高	130M	—	22回	原子炉格納容器安全系主要弁分解検査	
	1式	1. 分解点検	高	156M	○	20回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)		
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	可燃性ガス濃度制御系主要弁	3V-NS-101A	高	65M	○	21回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	21回施設定期検査より追加		
		3V-NS-101B	高	65M	-	22回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査			
		3V-NS-102A	高	65M	-	21回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	21回施設定期検査より追加		
		3V-NS-102B	高	65M	-	22回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査			
		3V-NS-103A	高	65M	○	21回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	21回施設定期検査より追加		
		3V-NS-103B	高	65M	-	21回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	21回施設定期検査より追加		
		3-PCV-2465	高	65M	-	21回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査	21回施設定期検査より追加		
		3-PCV-2485	高	65M	-	23回	可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査			
		よう薬除去薬品タンク 上う薬除去薬品タンクハキュームリリー 弁	1.開放点検	高	130M	-	20回			
			1.分解点検	高	130M	-	20回	1次系真空破壊弁検査		
			Aニューラス空気浄化系	1.機能・性能試験 (ファン、電動機、弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	24回	Aニューラス循環非気系機能検査	
				1.よう素フィルタ性能検査 (よう素除去効率検査)	高	1F	○	24回	Aニューラス循環非気系フィルタ一性能検査	A系、B系交互に実施
	1.よう素フィルタ性能検査 (漏えい率検査)				1F	○	24回	Aニューラス循環非気系フィルタ一性能検査		
	2.開放点検 (フィルタ取替)				X※	-	24回		※よう素フィルタ性能検査結果により適宜実施	
	A、Bニューラス空気浄化ユニット	A系	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査		
		B系	2.開放点検	高	4F	-	22回			
	Aニューラス空気浄化ファン・電動機	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査			
		2.開放点検	高	4F	-	22回				
		1.機能・性能試験	高	260M	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1M)		
		2.開放点検	高	78M	-	22回		(振動診断：1M)		
	Bニューラス空気浄化ファン・電動機	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査			
		2.開放点検	高	78M	-	22回				
		1.機能・性能試験	高	260M	○	24回	1次系換気空調設備検査			
		2.開放点検	高	78M	-	22回				
	安全補機室空気浄化ユニット	1.機能・性能検査 (よう素フィルタ性能検査)	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査			
		1.機能・性能試験		1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	※よう素フィルタ性能検査結果により適宜実施		
		2.開放点検 (フィルタ取替)		X※	-	24回				
2.開放点検			4F	-	22回					
A 安全補機室空気浄化ファン・電動機	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査				
	2.開放点検 (ファン)		260M	-	20回					
	2.分解点検 (電動機)		78M	-	23回					
	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1M)			
B 安全補機室空気浄化ファン・電動機	2.分解点検 (ファン)		260M	-	21回					
	2.分解点検 (電動機)		78M	-	24回					
	1.機能・性能試験	高	1F	○	24回	1次系換気空調設備検査				
	2.分解点検 (ファン)		78M	-	24回					

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備(診断技術)
原子力設備 [その他設備]	クラス3機器、クラス4管、排気筒及び安全上重要なダクト耐圧部 (クラス3機器ISIは除く)	1. 外観点検	高・低	100%/5Y~100%/10Y	○	24回	構造健全性検査	
	RCPBのベント・ドレン弁の閉止栓 レストレイント 1. 1次冷却材管ホップレストレイント 2. 主蒸気配管ホップレストレイント 3. 主給水配管ホップレストレイント	1. 漏えい試験 1. 外観点検	高 高	1F 100%/10Y	○ -	24回 16回	構造健全性検査 レストレイント検査	
原子力設備 [その他設備]	原子力設備 [その他設備] その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	-	23回	1次系安全弁検査	
	原子力設備 [その他設備] その他機器	2. 分解点検 1. 分解点検他	高 低	130M 13M~130M 12M~156M	○ ○ ○	23回 24回 24回	1次系逆止弁検査	一部BMあり 一部先行実施 保全の有効性評価結果No.25の反映
原子力設備・タービン設備 [その他設備]	耐震クラスS、Bに属する設備の支持構造物 (クラス1、2、3供用期間中検査対象機器を除く)	1. 外観点検	高・低	100%/10Y	○	24回	耐震健全性検査	
	その他AM (格納容器内注水) 機器	1. 分解点検他	高	52M~182M	○	24回		
蒸気タービン [車室、円板、隔板、噴口、翼、車軸]	高圧タービン	1. 開放点検	高	39M	○	23回	蒸気タービン開放検査	保全の有効性評価結果No.26の反映
		2. 組立状況点検	高	B	○	23回	蒸気タービン開放検査	
		3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)		13M	○	24回		
	第1低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	保全の有効性評価結果No.28の反映 保全の有効性評価結果No.27の反映
		2. 外観点検		2回/3F	○	23回	蒸気タービン開放検査	
		3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)		13M	○	24回		
	第2低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	○	23回	蒸気タービン開放検査	保全の有効性評価結果No.30の反映 保全の有効性評価結果No.29の反映
		2. 外観点検		2回/3F	-	24回	蒸気タービン開放検査	
		3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)		13M	○	24回		
	第3低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	保全の有効性評価結果No.32の反映 保全の有効性評価結果No.31の反映
		2. 外観点検		2回/3F	○	23回	蒸気タービン開放検査	
		3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他)		13M	○	24回		
ロータ 蒸気タービン本体及び附属設備	ロータ	1. 組立状況点検	高	B	○	24回	蒸気タービン開放検査	タービン開放時期に合わせて実施。 一部定期事業者検査起動後 定期事業者検査起動後
		2. 負荷点検	高	1F	○	24回	蒸気タービン性能検査	
		1. 開放点検	高	1F	○	24回	総合負荷性能検査	
	#1主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査	
		2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査	
	#2主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査	
		2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査	
	#3主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査	
		2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査	
#4主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
#1蒸気加減弁	1. 開放点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
#2蒸気加減弁	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
#3蒸気加減弁	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
#4蒸気加減弁	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	2. 組立状況点検	高	B	○	22回	蒸気タービン開放検査		
	1. 開放点検	高	39M	○	22回	蒸気タービン開放検査		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
蒸気タービン [調速装置及び非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁]	A 1 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	-	23回	蒸気タービン開放検査	
	A 2 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	
	A 3 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	-	23回	蒸気タービン開放検査	
	B 1 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	-	23回	蒸気タービン開放検査	
	B 2 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	
	B 3 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	
	A 1 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	-	23回	蒸気タービン開放検査	
	A 2 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	
	A 3 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	-	23回	蒸気タービン開放検査	
	B 1 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	-	23回	蒸気タービン開放検査	
	B 2 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	
	B 3 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	-	24回	蒸気タービン開放検査	
	調速装置 (非常調速装置)	1. 外観点検	高	1F	○	24回	蒸気タービン開放検査	
	復水、循環水系統	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機含む)	高	1F	○	24回	蒸気タービン附属設備総合検査	定期事業者検査起動後
	復水器	1. 開放点検	高	13M	○	24回	蒸気タービン開放検査	
		2. 防汚塗装		26M	○	24回		
	A 循環水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	26M	-	24回		
		1. 分解点検 (電動機)		104M	-	22回		
		2. 簡易点検 (翼油ユニット作動油清浄度管理)		26M	-	24回		
	B 循環水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	26M	○	23回		
		1. 分解点検 (電動機)		104M	-	23回		
		2. 簡易点検 (翼油ユニット作動油清浄度管理)		26M	○	23回		(振動診断: 3M)
	A 復水器真空ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	39M	-	24回		
		1. 分解点検 (電動機)		CBM	-	19回		
	2. 簡易点検 (潤滑油入替他)		13M	○	24回			
B 復水器真空ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	39M	-	23回			
	1. 分解点検 (電動機)		CBM	-	11回			
	2. 簡易点検 (潤滑油入替他)		13M	○	24回			
C 復水器真空ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	39M	○	22回			
	1. 分解点検 (電動機)		CBM	-	16回			
	2. 簡易点検 (潤滑油入替他)		13M	○	24回			
A 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	39M	○	23回			
	1. 分解点検 (電動機)		X	○	19回		(振動診断: 6M (対象: 電動機)) 保全の有効性評価結果No. 33の反映	
	2. 簡易点検 (ストレーナ清掃)		13M	○	24回			
B 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	39M	-	24回			
	1. 分解点検 (電動機)		X	-	20回			
	2. 簡易点検 (ストレーナ清掃)		13M	○	24回		(振動診断: 6M (対象: 電動機)) 保全の有効性評価結果No. 34の反映	
C 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	39M	-	24回			
	1. 分解点検 (電動機)		X	-	22回		(振動診断: 6M (対象: 電動機)) 保全の有効性評価結果No. 35の反映	
	2. 簡易点検 (ストレーナ清掃)		13M	○	24回			
蒸気タービン [復水器]	1. 分解点検他	高	78M~260M	○	24回			
	1. 分解点検他	低	13M~260M	○	24回		一部BMあり	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
蒸気タービン [蒸気タービンに附属する熱交換器]	3 A 湿分分離加熱器 胴側	1. 開放点検	高	26M	-	24回	蒸気タービン開放検査	
	3 A 湿分分離加熱器 管側 (発電機側)	1. 開放点検 2. 非破壊試験	高	130M	-	18回	蒸気タービン開放検査	
	3 A 湿分分離加熱器 管側 (調速機側)	1. 開放点検 2. 非破壊試験	高	130M	-	20回	蒸気タービン開放検査	
	3 B 湿分分離加熱器 胴側	1. 開放点検	高	130M	○	23回	蒸気タービン開放検査	
	3 B 湿分分離加熱器 管側 (発電機側)	1. 開放点検 2. 非破壊試験	高	130M	-	19回	蒸気タービン開放検査	
	3 B 湿分分離加熱器 管側 (調速機側)	1. 開放点検 2. 非破壊試験	高	130M	-	21回	蒸気タービン開放検査	
	A 脱気器	1. 開放点検	高	26M	-	24回	2次系容器検査	
	B 脱気器	1. 開放点検	高	26M	○	23回	2次系容器検査	
	脱気器タンク	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	39M	-	24回	2次系容器検査	保全の有効性評価結果No. 36の反映
	第1 A 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	22回	2次系熱交換器検査	
	第1 B 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	23回	2次系熱交換器検査	
	第1 C 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	130M	-	18回	2次系熱交換器検査	
第2 A 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	24回	2次系熱交換器検査		
第2 B 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	23回	2次系熱交換器検査		
第2 C 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	130M	-	18回	2次系熱交換器検査		
第3 A 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	23回	2次系熱交換器検査		
第3 B 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	18回	2次系熱交換器検査		
第3 C 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	130M	-	19回	2次系熱交換器検査		
第4 A 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	23回	2次系熱交換器検査		
第4 B 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	65M	-	24回	2次系熱交換器検査		
第4 C 低圧給水加熱器	1. 開放点検 2. 漏えい試験 3. 非破壊試験	高	130M	-	20回	2次系熱交換器検査		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)			
蒸気タービン [蒸気タービンに附属する熱交換器]	第6 A 高圧給水加熱器	1.開放点検	高	130M	-	19回	2次系熱交換器検査				
		2.漏えい試験		B		19回					
		3.非破壊試験		130M		17回					
		1.開放点検		130M		19回			2次系熱交換器検査		
		2.漏えい試験		B		19回					
		3.非破壊試験		130M		18回					
	グラウンド蒸気復水器	1.開放点検	高	65M	-	23回	2次系熱交換器検査				
		2.漏えい試験		B		23回					
		3.非破壊試験		130M		18回					
		1.機能・性能試験 (ポンプ、電動機含む)		1F		○			24回	蒸気タービン附属設備機能検査	
		1.機能・性能試験 (ポンプ)		B		-			24回		
		1.機能・性能試験 (駆動タービン)		B		-			24回		2次系ポンプ機能検査
2.分解点検 (ポンプ)	52M	-	24回	保全の有効性評価結果No. 37の反映							
2.分解点検 (駆動タービン)	26M	-	24回								
3.簡易点検 (オイルフィ ルタ取替)	13M	○	24回		2次系ポンプ分解検査						
1.機能・性能試験 (ポン プ)	B	○	23回	2次系ポンプ機能検査							
1.機能・性能試験 (駆動 タービン)	B	○	23回								
2.分解点検 (ポンプ)	52M	-	23回		保全の有効性評価結果No. 38の反映						
2.分解点検 (駆動タービ ン)	26M	○	23回								
3.簡易点検 (オイルフィ ルタ取替)	13M	○	24回								
電動主給水ポンプ・電動機	電動主給水ポンプ・電動機	1.分解点検 (ポンプ)	高	130M	-	20回	2次系ポンプ機能検査				
		1.分解点検 (電動機)		156M		22回					
		2.簡易点検 (潤滑油入替 他)		13M		○			24回		
		1.分解点検		52M		-			24回	2次系ポンプ分解検査	
		2.簡易点検 (ストレーナ 点検)		13M		○			24回		
		1.分解点検		52M		-			23回		
	A タービン動主給水ブースタポンプ	電動主給水ポンプ・電動機	1.分解点検	高	13M	-	24回	2次系ポンプ機能検査			
			2.簡易点検 (ストレーナ 点検)		13M		○			24回	
			1.分解点検		52M		-			24回	2次系ポンプ分解検査
			2.簡易点検 (ストレーナ 点検)		13M		○			24回	
			1.分解点検		130M		-			20回	
			B タービン動主給水ブースタポンプ		電動主給水ポンプ・電動機		1.分解点検			高	13M
2.簡易点検 (潤滑油入替 他)	13M	○		24回							
1.分解点検 (ポンプ)	104M	-		22回		保全の有効性評価結果No. 39の反映					
1.分解点検 (電動機)	104M	-		21回							
2.簡易点検 (潤滑油入替 他)	13M	○		24回							
A 復水ブースタポンプ・電動機	電動主給水ポンプ・電動機	1.分解点検 (ポンプ)		高		104M	-	23回	2次系ポンプ機能検査		
		1.分解点検 (電動機)	104M		22回						
		2.簡易点検 (潤滑油入替 他)	13M		○	24回					
		1.分解点検 (ポンプ)	104M		-	23回		保全の有効性評価結果No. 40の反映			
		1.分解点検 (電動機)	104M		-	22回					
		2.簡易点検 (潤滑油入替 他)	13M		○	24回					
C 復水ブースタポンプ・電動機	電動主給水ポンプ・電動機	1.分解点検 (ポンプ)	高	104M	-	24回	2次系ポンプ機能検査				
		1.分解点検 (電動機)		104M		22回					
		2.簡易点検 (潤滑油入替 他)		13M		○			24回		
		1.分解点検 (ポンプ)		104M		-			24回	保全の有効性評価結果No. 41の反映	
		1.分解点検 (電動機)		104M		-			22回		
		2.簡易点検 (潤滑油入替 他)		13M		○			24回		

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
蒸気タービン [蒸気タービンに付属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備]	A. 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	-	21回	2次系容器検査	
	B. 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	-	22回	2次系容器検査	
	C. 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	-	23回	2次系容器検査	
	D. 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	-	24回	2次系容器検査	
	E. 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	○	15回	2次系容器検査	
蒸気タービン [蒸気タービンに付属する管等]	復水タンク	1. 開放点検 2. 簡易点検 (通気管金網槽部)	高	130M	○	17回		
	1式	1. 分解点検他	高	65M~260M	○	24回	一部先行実施	
	1式	1. 分解点検他	低	13M~260M	○	24回	一部BMあり 一部先行実施	
	1式	1. 開放点検 2. 非破壊試験	高	1F	○	24回	蒸気タービン開放検査	
	1式	1. 開放点検 2. 非破壊試験	高	肉厚管理指針による	○	24回	蒸気タービン開放検査	
蒸気タービン [その他設備]	15個	1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 分解点検 3. 簡易点検 (グラランドハットキョウ取替)	高 高・低	100%/10V 針による	○	24回	2次系配管検査 2次系配管検査	定期事業者検査起動後
	15個	1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性試験)	高	13M	○	24回		
	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	24回	1次系安全弁検査 2次系弁検査 2次系安全弁検査	
	1式	2. 分解点検 3. 簡易点検 (グラランド入替)		104M~130M	○	24回	1次系安全弁検査 2次系安全弁検査	
	1式	1. 開放点検 2. 簡易点検 (グラランド入替)		130M	-	20回	1次系安全弁検査 2次系弁検査 2次系安全弁検査	
補助ボイラー	1式	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (特性試験)	高	B 182M 52M	○	16回 16回 24回	2次系弁検査	
	1式	1. 分解点検他	高	13M~260M	○	24回	1次系安全弁検査 2次系安全弁検査	
	1式	1. 分解点検他	低	12M~260M	○	24回	1次系安全弁検査 2次系安全弁検査	安全の有効性評価結果No. 42, 43の反映
	1式	1. 開放点検	低	120M※1	-	39回※2	補助ボイラー開放検査	一部BMあり 一部先行実施
	1式	1. 開放点検 2. 性能試験	低	117M~240M	○	39回※	補助ボイラー性能検査 補助ボイラー性能検査	※1: 前回点検後の運転時間が4,000時間、又は起動回数が120回に達すると見込まれる時期までに実施する。 ※2: ボイラー定期検回次、今回は40回定検 先行実施 ※ボイラー定期検回次、今回は40回定検
補助ボイラー [補助ボイラーに属する燃料設備 燃料運搬設備に係る油の輸送管 燃料貯蔵設備に係る油タンク]	1式	1. 開放点検 2. 性能試験	低	B※1	-	39回※2	補助ボイラー性能検査 補助ボイラー性能検査	先行実施 ※1: 補助ボイラー開放検査にあわせて実施 ※2: ボイラー定期検回次、今回は40回定検
	1式	2. 性能試験 3. 簡易点検 (グラランドハットキョウ取替)		1Y 12M~120M	○	39回※ 39回※	先行実施 ※ボイラー定期検回次、今回は40回定検	
	1式	1. 開放点検	低	120M	-	39回※	先行実施 ※ボイラー定期検回次、今回は40回定検	
	1式	1. 開放点検	低	120M	-	39回※	先行実施 ※ボイラー定期検回次、今回は40回定検	
	1式	1. 開放点検	低	120M	-	39回※	先行実施 ※ボイラー定期検回次、今回は40回定検	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)
補助ボイラー	【補助ボイラーに属するばい煙処理設備】 ・補助ボイラー集じん機	1. 開放点検 2. 簡易点検 (内部清掃)	低	120M~240M 12M	○ ○	39回※ 39回※	先行実施 ※ボイラー定期回次、今回は40回定検	
	補助ボイラー【その他設備】その他機器	1. 分解点検他	低	12M~240M	○	39回※	先行実施 ※ボイラー定期回次、今回は40回定検	
その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	浸水防止蓋	1. 外観点検	高	1F	○	24回		
	伝播防止堰	1. 外観点検	高	10Y	—	—	21回施設設定検時に設置	
	水密扉	1. 外観点検	高	1Y	○	24回	プラント運転中又は定期事業者検査停止中	
	2次系計測制御装置	1. 特性試験	高	13M	○	24回	計測制御系監視機能検査	
	津波監視カメラ	1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回		
	蒸気漏えい検知システム	1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回		
	湧水ピット排水系統	1. 外観点検	低	B※	○	24回	浸水防護設備検査	※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施 (振動診断：1Y (対象：電動機)) プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	湧水サンポンプ (吐出ラインを含む)	1. 機能・性能試験 (ポンプ・電動機含む)	低	1Y	○	24回		
	1. 分解点検 (電動機)	低	CBM	○	22回			
	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] その他	1. 機能・性能試験	低	B	—	23回	浸水防護設備検査	
その他発電用原子炉の附属施設 [常用電源設備]	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] その他	1. 分解点検	低	130M	—	23回		
	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] 其他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	低	B	—	18回	浸水防護設備検査	
	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] 其他機器	2. 分解点検	高・低	182M 1F~8F	— ○	18回 24回	21回施設定期検査より追加 プラント運転中又は定期事業者検査停止中	
	発電機設備	1. 外観点検	高・低	13M~208M	○	24回		
	変圧器設備	1. 分解点検他	高・低	39M~156M	○	24回		
	しゃ断器	1. 分解点検他	高	52M~156M	—	24回		
	その他発電用原子炉の附属施設 [常用電源設備] 其他機器	1. 分解点検他	高	26M~104M	○	24回		
	消火水バックアップポンプ・電動機	1. 分解点検他	低	13M~240M	○	24回		
	1. 機能・性能試験	低	B※	—	—	—	※ポンプまたは電動機の分解点検に合わせ実施 21回施設定期検時に設置 21回施設定期検査より追加	
	2. 分解点検 (ポンプ)	低	10F	—	—	—	21回施設定期検時に設置 21回施設定期検査より追加	
その他発電用原子炉の附属施設 [非常用発電装置]	煙等流入防止装置	1. 分解点検	低	260M	—	—	1次系弁検査	
	その他発電用原子炉の附属施設 [火災防護施設] 其他機器	1. 分解点検他	高・低	5Y~10Y	○	23回		
	ディーゼル発電機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査) 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機定格容量検査)	
	安全注入信号及び格納容器スプレイ信号発信時にディーゼル発電機に電源を求めらる機器	1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査)	
	A. ディーゼル機関のシリンダ (ピストン、ピストン連接棒、シリンダカバー、クランク軸)	1. 分解点検	高	130M	—	21回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
	No. 1, 8	1. 分解点検	高	130M	—	23回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
	No. 2, 3, 9, 10	1. 分解点検	高	130M	—	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
	No. 4, 5, 11, 12	1. 分解点検	高	130M	—	20回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
	No. 6, 13	1. 分解点検	高	130M	—	21回	非常用ディーゼル発電機分解検査	
	No. 7, 14	1. 分解点検	高	130M	—	21回	非常用ディーゼル発電機分解検査	

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する設備診断技術)	
その他発電用原子炉の附属施設 【非常用発電装置】	Bディーゼル機関のシリンダ (ピストン、ピストン連接棒、シリンダカバ、シランク軸) No. 1, 8 No. 2, 3, 9, 10 No. 4, 5, 11, 12 No. 6, 13 No. 7, 14	1. 分解点検	高	130M	—	22回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	130M	—	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	130M	○	19回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	130M	—	21回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	130M	—	21回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	26M	—	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	26M	○	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	26M	—	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	26M	○	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	13M	○	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 分解点検	高	13M	○	24回	非常用ディーゼル発電機分解検査		
		1. 外観点検	高	1F	○	24回	非常用予備発電機付属設備検査		
		2. 非破壊試験		13M~78M	○	24回	非常用予備発電機付属設備検査		
		3. 機能・性能試験		1F~10F	○	24回	非常用予備発電機付属設備検査		
	4. 特性試験		13M	○	24回	非常用予備発電機付属設備検査			
	空冷式非常用発電装置	2台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	24回	その他非常用発電装置の機能検査 その他非常用発電装置の付属設備検査	21回施設検定期時に設置
			2. 取替他		130M	—	—		
	可搬式代替低圧注水ポンプ用電源車 緊急時対策所用電源車 電源車 タンクローリー 非常用電源設備【非常用発電装置】その他機器	3台 3台 3台 3台 1式	1. 機能・性能試験	高	1Y	○	24回	可搬式代替電源設備検査	プラント運転中又は定期事業者検査停止中 プラント運転中又は定期事業者検査停止中 プラント運転中又は定期事業者検査停止中 プラント運転中又は定期事業者検査停止中 一部BMあり
			1. 機能・性能試験	高	1Y	○	24回	可搬式代替電源設備検査	
			1. 機能・性能試験	高	1Y	○	24回	可搬式代替電源設備検査	
1. 機能点検			高	1Y	○	24回	可搬式代替電源設備検査		
1. 分解点検他			高	13M~208M	○	24回			
1. 分解点検他			低	13M~182M	○	24回			

機器又は系統名	実施数 (機器名)	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備(診断技術)
その他発電用原子炉の附属施設 [その他の電源装置]	直流電源装置蓄電池	2組 (60個/組)	高	1F 1F 2回/1	○ ○ ○	24回 24回 24回	直流電源系機能検査 直流電源系作動検査	プラント運転中
土木建築設備	計器用電源	4台	高	1F	○	24回	インバータ機能検査	
	可搬型バッテリー (加圧器速がし弁用)	2個	高	1F	○	24回		
	可搬式整流器	2個	高	1F	○	24回		
	非常用電源設備 [その他の電源装置] 其他機器	1式	高	1F	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	原子炉建屋	1式	低 高・低	13M~180M	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	外周建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	中間建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	原子炉補助建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	燃料取扱建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	制御建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	燃料取替用水タンク建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	ディーゼル発電機建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	1・2号機原子炉補助建屋	1式	高	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	固体廃棄物貯蔵庫	1式	低	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	取水口設備	1式	高	1Y~1F	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
敷地内土木構造物	連続地中壁	1式	低	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	抑止ぐい	1式	低	1Y	○	24回		プラント運転中又は定期事業者検査停止中
プラント総合	原子炉及びその附属設備 (補助ボイラー及び非常用予備発電装置を除く)		高	1F	○	24回	総合負荷性能検査	定期事業者検査起動後
	非常用取水設備 [取水設備]	1式	高	4Y	-	23回		

クラス1 機器供用期間中検査 供用期間中特別検査のうち蒸気発生器管台溶接部の健全性確認検査

1. 原子炉容器(1/2)		高浜発電所第3号機検査計画(7カ年)										備考			
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2018年 第23保全 サイクル	2019年	2020年 第24保全 サイクル	2021年 第25保全 サイクル		2022年 第26保全 サイクル	2023年 第27保全 サイクル	2024年 第28保全 サイクル
B1.102	B-A	下部胴の長手溶接継手	体積	可能範囲 各100%	3	水中UT (内面)	可能範囲 各100%	-	-	可能範囲 各100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
B2.111	B-B	上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	5% ※2	1	水中UT (内面)	5% ※2	-	-	可能範囲 100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
		下部胴とトランジションリングとの周溶接継手	体積	5% ※2	1	水中UT (内面)	5% ※2	-	-	可能範囲 100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
B3.105	B-C	トランジションリングと下部胴との周溶接継手	体積	5% ※2	1	水中UT (内面)	5% ※2	-	-	可能範囲 100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
B3.10	B-D	上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	可能範囲 100%	1	水中UT (内面)	可能範囲 100%	-	-	可能範囲 100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
		冷却材入口管と胴との溶接継手	体積	可能範囲 各100%	3	水中UT (内面)	可能範囲 各100%	-	-	ABC 可能範囲 各100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
B3.20	B-D	冷却材出口管と胴との溶接継手	体積	可能範囲 各100%	3	水中UT (内面)	可能範囲 各100%	-	-	ABC 可能範囲 各100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
		冷却材入口管内面の丸みの部分	体積	可能範囲 各100%	3	水中UT (内面)	可能範囲 各100%	-	-	ABC 可能範囲 各100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
B5.10	B-F	冷却材出口管内面の丸みの部分	体積	可能範囲 各100%	3	水中UT (内面)	可能範囲 各100%	-	-	ABC 可能範囲 各100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
		冷却材入口管とセーフエンドの溶接継手(呼び径100A以上)	体積及び 表面	可能範囲 各100%	3	水中UT (内面) PT	可能範囲 各100%	A (PT) 100%	-	-	ABC 可能範囲 各100%	C (PT) 100%	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B6.10	B-G-1	冷却材出口管とセーフエンドの溶接継手(呼び径100A以上)	体積及び 表面	可能範囲 各100%	3	水中UT (内面) PT	可能範囲 各100%	A (PT) 100%	-	-	ABC 可能範囲 各100%	B (PT) 100%	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B6.30	B-G-1	ナット	VT-1	100%	58	VT-1 (濡えい時又は 取外し時)	100% 58	13	-	17	10	18	-	(重大事故等クラス2機器)	
B6.40	B-G-1	スタッドボルト	体積	100%	58	VT-1	100% 58	13	-	17	10	18	-	(重大事故等クラス2機器)	
B6.50	B-G-1	胴フランジネジ穴のネジ部	体積	100%	58	VT-1	100% 58	13	-	20	19	19	-	(重大事故等クラス2機器)	
B7.10	B-G-2	マーマンカップリング	VT-1	25%	3	VT-1 (濡えい時又は 取外し時)	100% 58	13	-	17	10	18	-	(重大事故等クラス2機器)	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破損を引き起こす電裂その他の欠陥の探査」(令和元年6月5日原研技報第1906051号)の改正版(以下、電裂探査NRA文書改正という。)の施行及び公開適合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制基準に関する事業者意思の表明にかかるとの適合」(令和元年6月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2: 2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、「5%」は「可能範囲100%」と読み替える。

1. 原子炉容器 (2/2)		高浜発電所第3号機検査計画 (7カ年)											備考		
発電用原子炉設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画 (7カ年)											備考		
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2018年 第23回全 サイクル	2019年	2020年 第24回全 サイクル	2021年	2022年 第25回全 サイクル	2023年 第26回全 サイクル	2024年 第27回全 サイクル	備考
G1.10	G-P-1	容器内部	VT-3	全範囲の7.5% 各検査時期毎※2	1	VT-3	可能範囲100% 各検査時期毎	-	-	可能範囲100%	可能範囲100%	可能範囲100%	可能範囲100%		(重大事故等クラス2機器)
G1.40	G-P-1	上部炉心支持構造物の内部取付物	VT-3	全範囲の7.5%	1	VT-3	可能範囲100%	-	-	可能範囲100%	可能範囲100%				(重大事故等クラス2機器)
		下部炉心支持構造物の内部取付物	VT-3	全範囲の7.5%	1	VT-3	可能範囲100%	-	-	可能範囲100%	可能範囲100%				(重大事故等クラス2機器)
G1.50	G-P-2	炉心内部取付物	VT-3	全範囲の7.5%	4	VT-3	可能範囲100%	-	-	可能範囲100%	可能範囲100%				(重大事故等クラス2機器)
		上部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の7.5%	1	VT-3	可能範囲100%	-	-	可能範囲100%	可能範囲100%				(重大事故等クラス2機器)
B14.10	B-0	下部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の7.5%	1	VT-3	可能範囲100%	-	-	可能範囲100%	可能範囲100%				(重大事故等クラス2機器)
		制御棒駆動ハウジングの溶接継手(上部)	体積又は表面	最外周の2.5%	最外周20(全52)	P T	最外周の2.5%	-	-	3			5		(重大事故等クラス2機器)
B15.10	B-P	制御棒駆動ハウジングの溶接継手(下部)	VT-2	可能範囲100%	-	VT-2	可能範囲100%	-	-	可能範囲100%	可能範囲100%	可能範囲100%	可能範囲100%		(重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A	圧力保持範囲 支持構造物 (サブポートフラケット、サブポートニュー、基礎ボルト)	VT-3	2.5%	6	VT-3	2.5%	-	-	A出口 1			C出口 1		(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電圧その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原研規技発第1906051号)の改正版(以下、電圧検察NRA文書改正という。)の施行及び公開適合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程序等)新規制案件に関する事業者意見の事項にかかる適合」(令和元年8月5日)の結集(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2: 2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、「全範囲の7.5% 各検査時期毎」は「全範囲の7.5%」と読み替える。

2. 加圧器(1/1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	高浜発電所第3号機検査計画(7カ年)										備考			
			検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2018年 第23保全 サイクル	2019年	2020年 第24保全 サイクル	2021年 第25保全 サイクル	2022年 第26保全 サイクル		2023年 第27保全 サイクル	2024年	
B2.11	B-B	上部胴と上部鏡板との周継手	体積	5%	1	UT	5%	-	5%	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		下部胴と下部鏡板との周継手	体積	5%	1	UT	5%	-	-	-	-	-	-	5%	-	(重大事故等クラス2機器)
B2.12	B-B	上部胴の長手継手	体積	各10%	2	UT	各10%	-	A10%	-	B10%	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		下部胴の長手継手	体積	各10%	2	UT	各10%	-	A10%	-	-	B10%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B2.13	B-B	上部胴と下部胴との周継手	体積	5%	1	UT	5%	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B3.30	B-D	管台と容器との溶接継手	体積	25%	6	UT	25% ₂	-	1(サー ジ管台)	-	1(スプ レイ管 台)	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B3.40	B-D	管台内面の丸みの部分	体積	25%	6	UT	25% ₂	-	1(サー ジ管台)	-	1(スプ レイ管 台)	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		管台とサーフェスエンドの溶接継手 (呼び径100A以上)														
		加圧器逃がし弁管台			1											
		加圧器安全弁管台	体積及び 表面	25%	3	UT PT	25% ₂	-	-	-	-	-	-	-	-	
		加圧器スプレイ管台			1			1	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		加圧器サージ管台			1			1	-	-	-	-	-	-	-	
B7.20	B-G-2	マンホールの取付けボルト	V T-1	25%	16	V T-1 (濡えい時又は 取外し時)	25% ₄	-	1	-	2	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B8.20	B-H	支持部材の容器への取付け溶接継手 (スカート溶接継手)	表面	7.5%	1	PT	7.5%	-	7.5%	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
B15.20	B-P	圧力保持範囲	V T-2	可能範囲 100%	-	V T-2	可能範囲 100%	-	可能範囲 100%	-	可能範囲 100%	-	可能範囲 100%	可能範囲 100%	可能範囲 100%	(重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A	支持構造物(スカート、基礎ボルト)	V T-3	25%	1	V T-3	25% ₁	-	-	-	1	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかると」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

3. 蒸気発生器(1/1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所第3号機検査計画(7カ年)							備考
								2018年 第23保全 サイクル	2019年	2020年 第24保全 サイクル	2021年 第25保全 サイクル	2022年 第26保全 サイクル	2023年 第27保全 サイクル	2024年 第28保全 サイクル	
B2.40	B-B	管板と水室鏡との溶接継手	体積	1基の 25%	3	UT	1基の 25%	-	C 9%		C 8%				(重大事故等クラス2機器)
B3.60	B-D	冷却材入口管台の内面の丸みの部分、 冷却材出口管台の内面の丸みの部分	体積	1基の 25%	6	UT	1基の 25%	-			C入口 1				(重大事故等クラス2機器)
B5.70	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドの溶接継手、 冷却材出口管台とセーフエンドの溶接継手 (呼び径100A以上)	体積及び 表面	1基の 25%	6	UT PT	1基の 25%	-	A入口 1 (UT) (ECT) (*)						(重大事故等クラス2機器)
B7.30	B-G-2	1次側マンホールの取付けボルト	VT-1	1基の 25%	96	VT-1 (漏えい時又は 取外し時)	1基の 25%	-			C入口 2				(重大事故等クラス2機器)
B15.30	B-P	圧力保持範囲	VT-2	可能範囲 100%	-	VT-2	可能範囲 100%	-			可能範囲 100%				(重大事故等クラス2機器)
F1.41	F-A	支持構造物 (支持脚、ベースプレート、基礎ボルト)	VT-3	1基の 25%	12	VT-3	1基の 25%	-	C1						(重大事故等クラス2機器)

※1：NRA文書「専用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解析」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下「亀裂解析NAVX書改正」という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JISIE S NA1-2012/2013/2014を適用する。

(*)代替試験として内面ECTを合わせて実施

4. 配管(1/3)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高圧発電所第3号機械検査計画(7カ年)						備考			
								2018年 第23回検査 サイクル	2019年 第24回検査 サイクル	2020年 第25回検査 サイクル	2021年 第26回検査 サイクル	2022年 第27回検査 サイクル	2023年 第28回検査 サイクル		2024年 第29回検査 サイクル		
B7.50	B-6-2	圧力保持用バルブ接続部 (直径5.0mm以下)															
		1次冷却ポンプ封水注入ライン A. B. Cグループ	VT-1	25%	3	VT-1 (漏えい時又は 取外し時)	25%	1						C1			
B8.11	B-J	配管の同種金属溶接継手 (呼び径100A以上)															
		1次冷却材管 (27.1INID, 836.00mm, 29INID, 31INID)	体積	25%	46	UT	25%	1, 2	A3	-	A1 B1				A1 B1 C1	(重大事故等クラス2機器)	
		A. B. Cグループ	体積	25%	7	UT	25%	2		-	1				1	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器サージ管 (148, 355, 60mm)	体積	25%	30	UT	25%	8		-	A1 B1				C2	(重大事故等クラス2機器)	
		A. B. Cライン	体積	25%	12	UT	25%	3		-	1				1	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器冷却し弁ライン (6B), (6B)	体積	25%	50	UT	25%	1, 3		-	A2 C1				A2 C1		
		A. Cグループ	体積	25%	1	UT	25%	1		-						1	
		加圧器補助スプレイレイン (4B)	体積	25%	41	UT	25%	1, 1		-	B1 C1				B1 C1	(重大事故等クラス2機器)	
		加熱除去ポンプ吸入ライン (12B)	体積	25%	32	UT	25%	8		-	A1 B1				C1	B1	(重大事故等クラス2機器)
		A. B. Cグループ	体積	25%	30	UT	25%	8		-	A1 B1				B1 B1	A1	
		SIS高圧側低圧注入ライン (6B, 165, 20mm)	体積	25%	44	UT	25%	1, 1		-	A1 B1				B1	C2	(重大事故等クラス2機器)
		A. B. Cグループ	体積	25%	6	UT	25%	2		-	1					1	
		SIS高圧側補助注入ライン (4B, 6B)	体積	25%													
A. B. Cグループ	体積	25%															
B8.21	B-J	配管の同種金属溶接継手 (呼び径100A未満)															
		加圧器冷却し弁ライン (3B)	表面	25%	20	PT	25%	5		-	2			1		(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器補助スプレイレイン (2B, 60, 50mm)	表面	25%	19	PT	25%	5		-	1			1			
		A. B. Cグループ	表面	25%	4	PT	25%	1		-						2	
		加熱除去ポンプ吸入ライン (12B)	表面	25%	7	PT	25%	2		-					B1		(重大事故等クラス2機器)
		A. B. Cグループ	表面	25%	31	PT	25%	8		-	B1 C1				C3	C1	
		RTOフェルト及び閉止分岐管 (3B)	表面	25%	8	PT	25%	2		-	B1				B1		(重大事故等クラス2機器)
		A. B. Cグループ	表面	25%	3	PT	25%	1		-						A1	
		抽出・冷却材及びドレンライン (2B, 38, 60, 50mm, 89, 10mm)	表面	25%													
		A. B. Cグループ	表面	25%													
CVC9冷却材ライン (3B, 89, 10mm)	表面	25%															
A. B. Cグループ	表面	25%															
1次冷却材ポンプ封水注入ライン (11/2B)	表面	25%	3	PT	25%	1		-	A1						(重大事故等クラス2機器)		
A. B. Cグループ	表面	25%															

※1: NPSA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破断を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NPSA文書改正という。)の発行及び公開念会「(原子炉圧力容器の溶接手の品質検査等)新規制要件に関する事業者協会の取組」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

4. 配管(2/3)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所第3号機検査計画(7ヵ年)					備考			
								2018年 第29回保全 サイクル	2019年	2020年 第24回保全 サイクル	2021年 第25回保全 サイクル	2022年 第26回保全 サイクル		2023年 第27回保全 サイクル	2024年	
B9.21	B-J	配管の同種金属溶接継手 (呼び径100A未満)	表面	2.5%	1.2	PT	2.5% 3									
B9.31	B-J	母管と管台との溶接継手 (呼び径100A以上)	体積	2.5%	1.1	UT	2.5% 3									
B9.32	B-J	1次冷却材管 (2B, 3B, 63, 50mm) A, B, Cグループ 余熱除去ポンプ入ロライン (12B) B, Cグループ	表面	2.5%	1.7	PT	2.5% 5									
B9.40	B-J	ソケット溶接継手 加圧器補助スプレイライン (2B) RTDウェル及び閉止分岐管 (2B) A, B, Cグループ 抽出・余熱抽出及びドレンライン (2B) A, B, Cグループ 1次冷却材ポンプ封水注入ライン (11/2B, 48, 60mm) A, B, Cグループ SIS高温側補助注入ライン (2B) A, B, Cグループ SIS低温側補助注入ライン (2B) A, B, Cグループ SIS低温側ほう酸注入ライン (2B) A, B, Cグループ	表面	2.5%	4.6	PT	2.5% 1.2 4									

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引起こす事象とその他の欠陥の解明」(令和元年6月5日原簿仕様第190R051号)の改正版(以下、亀裂解明NRA文書改正という。)の施行及び公開委員会「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等」新規制要件に関する事業者委員の議取にかかるとともに、(令和元年8月5日)の議果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

※2: 簡易りん酸新規制基準施工に伴うRCPB拡大範囲の検査方法の明確化について」に従い、1.0.0%とする。

4. 配管(3/3)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S MA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(7ヵ年)										備考				
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2018年 第29保全 サイクル	2019年	2020年 第24保全 サイクル	2021年 可能範囲 100%		2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル	
B15.50	B-P	圧力保持範囲	VT-2	可能範囲 100%	-	VT-2	可能範囲 100%	-	-	-	-	可能範囲 100%	可能範囲 100%	可能範囲 100%	(重大事故等クラス2機器)	
		支持構造物														
		加圧器サージ管	VT-3	25% 3	9	VT-3	25% 3	-	-	-	1	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器送がし弁ライン	VT-3	25% 5	19	VT-3	25% 5	1	-	-	2	1	1	1	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器スプレイレイン A. Cルーブ	VT-3	25% 16	62	VT-3	25% 16	A2 C2	-	A1 C1	C2	A2 C1	A2 C3	C3		
		糸除去ポンプ吸入ライン B. Cルーブ	VT-3	25% 10	37	VT-3	25% 10	B1	-	-	B2 C2	B1 C1	B1 C1	B1 C1	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器補助スプレイレイン	VT-3	25% 6	22	VT-3	25% 6	-	-	-	2	2	2	2		
		CVC5弁てんライン Bルーブ	VT-3	25% 2	6	VT-3	25% 2	-	-	-	B1	B1	B1	B1	(重大事故等クラス2機器)	
F1.10	F-A	抽出・糸刺抽出及びドレンライン A. B. Cルーブ	VT-3	25% 8	32	VT-3	25% 8	A1 B1	-	A1 C2	-	B1	A1 C1	A1 C1		
		1次冷却材ポンプ封水注入ライン A. B. Cルーブ	VT-3	25% 5	19	VT-3	25% 5	A1	-	B1	-	C1	A1	A1	B1	
		SIS蓄圧注入ライン A. B. Cルーブ	VT-3	25% 8	32	VT-3	25% 8	A1 B1	-	C1	-	A1 B1	B1	B1	C2	(重大事故等クラス2機器)
		SIS高温側低圧注入ライン A. Bルーブ	VT-3	25% 6	21	VT-3	25% 6	A1 B1	-	-	A1	A1	A1	A1	B1	
		SIS低温側低圧注入ライン A. B. Cルーブ	VT-3	25% 7	27	VT-3	25% 7	A1 B1	-	-	A1 C1	B1	-	C2	(重大事故等クラス2機器)	
		SIS高温側補助注入ライン A. B. Cルーブ	VT-3	25% 6	22	VT-3	25% 6	A1 B1	-	-	C1	B1	B1	C1	C1	
		SIS低温側補助注入ライン A. B. Cルーブ	VT-3	25% 4	13	VT-3	25% 4	A1	-	B1	-	C1	C1	A1	A1	
		SIS低温側ほう筒注入ライン A. B. Cルーブ	VT-3	25% 6	24	VT-3	25% 6	A1 B1	-	C1	-	A1	B1	C1	C1	(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S MA1-2008」の改訂版(以下、種別別NRA文書改訂という。)の施行及び公開套合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかると」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

5. 1次冷却材ポンプ(1ノ1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所第3号機検査計画(7カ年)							備考
								2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
B6.180	B-G-1	スタッドボルト	体積	1台の25%	72	UT (装着時又は 取外し時)	1台の25% 6	-	第23保安 サイクル	第24保安 サイクル	第25保安 サイクル	第26保安 サイクル	第27保安 サイクル	(重大事故等クラス2機器)	
B6.190	B-G-1	フランジ表面	VT-1	1台の25%	72	VT-1	1台の25% 6	-	-	-	-	C6	C6	ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器)	
B6.200	B-G-1	ナット	VT-1	1台の25%	72	VT-1 (漏えい時又は 取外し時)	1台の25% 6	-	-	-	-	C6	C6	(重大事故等クラス2機器)	
		ワッシャ	VT-1	1台の25%	72	VT-1 (漏えい時又は 取外し時)	1台の25% 6	-	-	-	-	C6	C6	(重大事故等クラス2機器)	
B12.20	B-L-2	ケーシングの内表面	VT-3	1	3	VT-3	1	-	-	-	-	C1	C1	ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器)	
B15.60	B-P	圧力保持範囲	VT-2	可能範囲 100%	-	VT-2	可能範囲 100%	-	可能範囲 100%	可能範囲 100%	可能範囲 100%	可能範囲 100%	可能範囲 100%	(重大事故等クラス2機器)	
F1.41	F-A	支持構造物(支持脚、ベースプレート、基礎ボルト)	VT-3	1台の25%	9	VT-3	1台の25% 1	-	-	-	-	C1	C1	(重大事故等クラス2機器)	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の次層の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、電線解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

6. 表(1/2)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電電所 第3号機 検査計画 (7ヵ年)					備考		
								2018年 第23回全 サイクル	2019年	2020年 第24回全 サイクル	2021年 第25回全 サイクル	2022年 第26回全 サイクル		2023年 第27回全 サイクル	2024年
B7_70	B-G-2	圧力保持用ボルト緩付け部 (直径50mm以下)													
		加圧器安全弁ライン A. B. Cライン	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	24	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-RC-057 8	-						
		加圧器送りがし弁ライン	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	30	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-RC-054A 10	-						
		加圧器スプレイライン A. Cグループ	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	18	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3PV-455B 6	-						
		加圧器補助スプレイライン 3V-CS-225	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	6	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3PV-454A 8	-						
		CVCS亮灯ライン Bグループ	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	20	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-CS-234 10	-						
		抽出・余剰抽出及びドレンライン A. B. Cグループ	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	24	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-RC-019A 8	-						
		3V-RC-017	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	10	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-RC-017 10	-						
		3LGV-451 3LGV-452	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	12	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3LGV-451 6	-						
		余熱除去ポンプ投入ライン B. Cグループ	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	36	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3PV-430 18	-						
		SIS新庄注入ライン A. B. Cグループ	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	96	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-SI-136A 16	-						
		SIS高温制御低圧注入ライン A. Bグループ	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	56	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-SI-208A 14	-						
		SIS低温制御低圧注入ライン A. B. Cグループ	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	84	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	3V-SI-203C 14	-						

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の文書の降線」(令和元年6月5日原研技発第190605号)の改正版(以下、電裂降線NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる委員会」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014を適用する。

6. 弁(2/2)		高圧発電所第3号機検査計画(7カ年)											備考					
発電用原子炉設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S NA1-2008※1																		
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2018年 第23回全 サイクル	2019年	2020年 第24回全 サイクル	2021年 第25回全 サイクル	2022年 第26回全 サイクル	2023年 第27回全 サイクル	2024年	備考			
B7.70	B-G-2	圧力保持用ポルト、緩付け部 (直径50mm以下)	VT-1	類似弁ごとに1台の25%	14	VT-1 (漏えい時又は取外し時)	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	-	3V-SI-088 1台				
		弁本体の内表面																
B12.50	B-M-2	加圧器安全弁ライン A. B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	3	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	3V-RC-055	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
		糸熱除去ポンプ吸入ライン B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	2	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	3POV-420	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
		SIS蓄圧注入ライン A. B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	2	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	3V-RH-003B	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
		SIS高圧注入ライン A. B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	6	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	3V-SI-136A	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
B15.70	B-P	SIS高温側低圧注入ライン A. B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	4	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	-	3V-SI-209A				
		SIS低温側低圧注入ライン A. B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	6	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	-	3V-SI-203C	(重大事故等クラス2機器)			
		SIS高温側補助注入ライン Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	1	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	3V-SI-088	-	-	-	-	-	-				
		圧力保持範囲	VT-2	可検査範囲	100%	-	VT-2	可検査範囲	100%	-	-	可検査範囲	100%	可検査範囲	100%	(重大事故等クラス2機器)		
F1.41	F-A	支持構造物																
		加圧器安全弁ライン A. B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	3	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	3V-RC-057	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
		加圧器逃がし弁ライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	6	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	3V-RC-054A	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
		加圧器スプレイルイン A. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	4	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	3POV-455A	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)			
		加圧器補助スプレイルイン Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	1	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	3POV-455B	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
		抽出ライン Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	4	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	3POV-454A	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
		糸熱除去ポンプ吸入ライン B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	4	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	3V-RH-003A	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
		加圧器安全弁ライン A. B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	4	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	-	3POV-454B	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
		加圧器補助スプレイルイン Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	1	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	-	3V-RH-003B	-	-	(重大事故等クラス2機器)	
		抽出ライン Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	4	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	-	-	3POV-454C	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		糸熱除去ポンプ吸入ライン B. Cライン	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	4	VT-3	類似弁ごとに1台の25%	-	-	-	-	-	-	-	3POV-454D	-	-	(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電気の他の欠陥の検出」(令和元年6月5日原研技発第19060(14)号)の改正版(以下、電設検測試験仕様改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の再接手の取付程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの報告」(令和元年8月5日)の附属(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年1月より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

クラス2機器供用期間中検査

1. 余熱除去装置 (1/1)

発電力原子力設備規格 (2008年版) JSME S MA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考					
項目番号	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
C1.10	管側閉と管側フランジとの周溶接継手	体積	1基の7.5%	2	UT	1基の7.5%	A 7.5%			第22版全サイクル	第23版全サイクル	-	第24版全サイクル	第25版全サイクル	第26版全サイクル	第27版全サイクル	(重大事故等クラス2機器)
C1.20	管側閉と管側閉との溶接継手	体積	1基の7.5%	2	UT	1基の7.5%	A 7.5%				-						(重大事故等クラス2機器)
C2.21	管側入口管及び管側出口管台と管側閉との溶接継手	体積及び面積	7.5%	4	UT PT	7.5%					-	A1 (入口)					(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における磁気を引き起こす電流その他の文書の確保」(令和元年6月5日原研技発第1900051号)の改正版(以下、電磁誘起電流(RRAC)文書改正という。)の施行及び公開適合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意識の醸成にかかわる適合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

2. 配管 (1 / 5)

項目 番号	カテゴリ	検査対象箇所	高圧発電所第3号機検査計画(10カ年)										備考							
			検査方法	検査の範囲 及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲 及び程度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		
								第21回全 サイクル	第22回全 サイクル	第23回全 サイクル	第24回全 サイクル	第25回全 サイクル		第26回全 サイクル	第27回全 サイクル					
03.20	C-C	配管の支持部材取付け溶接継手																		
		余熱除去ポンプ吸入ライン (A, B)ライン (318.50mm, 355.60mm)	表面	7.5%	12	PT	7.5%	A1		-	-	-	-					(重大事故等クラス2機器)		
		余熱除去ポンプ出口ライン (A, B)ライン (267.40mm)	表面	7.5%	3	PT	7.5%	A1		-	-	-	-						(重大事故等クラス2機器)	
		S1S高圧側低圧注入ライン (A)ライン (267.40mm)	表面	7.5%	4	PT	7.5%		A1		-	-	-							
		S1S低圧側低圧注入ライン (A, B, C)ライン (165.20mm, 287.40mm)	表面	7.5%	11	PT	7.5%				-	A1							(重大事故等クラス2機器)	
		S1S高圧側補助注入ライン (A, B, C, 共通)ライン (60.50mm, 89.10mm)	表面	7.5%	10	PT	7.5%				-		共通1							
		S1S低圧側補助注入ライン (A)ライン (69.10mm, 共通)ライン	表面	7.5%	2	PT	7.5%				-					共通1				
		補助注入ライン (89.10mm, 114.30mm)	表面	7.5%	4	PT	7.5%				-						1			
		S1S低圧側側ほう酸注入ライン (共通)ライン (89.10mm)	表面	7.5%	3	PT	7.5%				-		共通1						(重大事故等クラス2機器)	
		充てみ高圧注入ポンプ吸入ライン (216.30mm)	表面	7.5%	3	PT	7.5%				-								(重大事故等クラス2機器)	
		充てみ高圧注入ポンプ出口ライン (89.10mm, 114.30mm)	表面	7.5%	3	PT	7.5%				-								(重大事故等クラス2機器)	
		1次冷却材管高圧側高圧注入ライン (89.10mm)	表面	7.5%	2	PT	7.5%				-			1						
		1次冷却材管低圧側高圧注入ライン (89.10mm)	表面	7.5%	2	PT	7.5%				-									
		1次冷却材管高圧側高圧注入ライン (89.10mm)	表面	7.5%	2	PT	7.5%				-						1			
		1次冷却材管低圧側高圧注入ライン (89.10mm)	表面	7.5%	2	PT	7.5%				-								(重大事故等クラス2機器)	
		1次冷却材管低圧側低圧注入ライン (355.60mm)	表面	7.5%	8	PT	7.5%				-									(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における防護を引き起こす事故その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原稿送第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開命令「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる命令」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

2. 配管 (2/5)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1		高圧発電所第3号機械検査計画(10カ年)												備考											
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年		2021年	2022年	2023年	2024年							
05.11	C-F	配管の耐圧部分の溶接継手(呼び径100Aを超え公称肉厚9.5mmを超えるもの) A. Bライン	体積又は表面	7.5%	62	PT	7.5%	第21保全サイクル		第22保全サイクル		第23保全サイクル	-	第24保全サイクル		第25保全サイクル	第26保全サイクル	第27保全サイクル	(重大事故等クラス2機器)						
								A. Bライン		A1		A1		A1		A1		A1			A1				
								SIS高圧側低圧注入ライン		A1		A1		A1		A1		A1			A1		A1		
								A. Bライン		A1		A1		A1		A1		A1			A1		A1		
		SIS低圧側低圧注入ライン(66.108.165.20mm.267.40mm)	体積及び表面	7.5%	60	UT PT	7.5%	A1 B1	A1(P T)			-	B1 C1			A1(U T)		(重大事故等クラス2機器)							
		格納容器再循環サブ出口ライン	体積又は表面	7.5%	25	PT	7.5%			A1		-				B1		(重大事故等クラス2機器)							

※1: 配管「運用検査用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす脅威を軽減するための検査計画(以下、準要解釈RA文書改正という。)」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

2. 配管 (3/5)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高圧発電所第3号機械検査計画(10カ年)										備考						
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法及び程度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
05.21	C-F	配管の耐圧部分の溶接継手(呼び径50A以上100A以下で公称肉厚5mmを超えるもの) SIS高温側補助注入ライン (2B, 3B, 60, 50mm, 89, 10mm) A, B, C, 共通ライン	表面	7.5%	119	PT	7.5% 9	A1 B1	C1	-	-	-	第24保安サイクル	第25保安サイクル	第26保安サイクル	第27保安サイクル		
																		表面
05.30	C-F	配管の耐圧部分の溶接継手(ソケット溶接継手) SIS高温側補助注入ライン (2B) A, B, Cライン	表面	7.5%	32	PT	7.5% 3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
05.41	C-F	配管の耐圧部分の溶接継手(呼び径50Aを超える、母管と管台及び母管と枝管) 補助注入ライン (3B) 充てん/高圧注入ポンプ出口ライン (3B)	表面	7.5%	35	PT	7.5% 3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす高度その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1006051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

2. 配管 (4/5)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1		高圧発電所第3号機械検査計画(10カ年)												備考					
項目番号	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年		2022年	2023年	2024年		
F1.21	F-A	支持構造物																	
		糸熱除去ポンプ入口ライン A、Bライン	VT-3	7.5%	52	VT-3	7.5% 4	A1					B1			A1	B1	(重大事故等クラス2機器)	
		糸熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	7.5%	80	VT-3	7.5% 6	A1 B1					A1 B1			A1	B1	(重大事故等クラス2機器)	
		SIS高温側低圧注入ライン	VT-3	7.5%	20	VT-3	7.5% 2			A1			A1						
		SIS低圧側低圧注入ライン A、B、Cライン	VT-3	7.5%	46	VT-3	7.5% 4			A1			B1			C1	A1		(重大事故等クラス2機器)
		補助注入ライン	VT-3	7.5%	23	VT-3	7.5% 2	1					-	1					
		充てん/高圧注入ポンプ出口ライン	VT-3	7.5%	27	VT-3	7.5% 3	1					-	1			1		(重大事故等クラス2機器)
		充てん/高圧注入ポンプ入口ライン	VT-3	7.5%	23	VT-3	7.5% 2	1					-				1		
		特種容器再循環サンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	7.5%	16	VT-3	7.5% 2			A1			-					B1	(重大事故等クラス2機器)

※1: 記入文書「運用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす脅威における評価の更新」(令和元年6月15日原規持続第1006(05)号)の改正版(以下、亀裂解釈RA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

2. 配管 (5/5)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2018年 第23保全 サイクル	2019年 -	2020年 第24保全 サイクル	2021年 -		2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル	2025年 -	2026年 第28保全 サイクル	2027年 第29保全 サイクル	
F1.21	F-A	支持構造物																	
		SIS高温制御補助注入ライン A, B, C, 共通ライン	VT-3	7.5%	83	VT-3	7.5%	C1	-	共通1				共通1	共通1	-	C1	共通2	
		SIS低温制御補助注入ライン A, B, C, 共通ライン	VT-3	7.5%	56	VT-3	7.5%		-	A1				A1	共通1	-	共通1	A1	
		SIS低温制御ほう酸注入ライン A, B, C, 共通ライン	VT-3	7.5%	59	VT-3	7.5%		-	A1			A1	共通1	-	A1	A1		(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「発電用原子力設備規格(2008年版) JSME S MA1-2008」の改正版(以下、電裂新NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

3. 金熱除去ポンプ (1/1.1)

項目 番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲 及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲 及び程度	高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考
								2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
06.10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	1台の7.5%	4	P T	1台の7.5% 1	第21保全 サイクル	第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル		(重大事故等クラス2機器)	
F1.43	F-A	ポンプの合板脚	V T-3	1台の7.5%	4	V T-3	1台の7.5% 1				-	A 1					(重大事故等クラス2機器)	

※1-NIA文書「常用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の衣服の腐蝕」(令和元年6月5日版)第1906051号)の改正版(以下「最新版NIA文書改正」という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

4. 弁 (1/2)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画 (10ヶ年)										備 考											
								2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年												
F1.43	F-A	支持構造物																											
		余熱除去ポンプ吸入ライン A、Bライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	4	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	2	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		余熱除去ポンプ吸入ライン A、Bライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	2	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	4	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		余熱除去ポンプ吸入ライン A、Bライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	4	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	4	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		SIS 低温側低圧注入ライン A、Cライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	2	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		SIS 高温側補助注入ライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	8	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		SIS 低温側補助注入ライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	4	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						
		SIS 低温側ほう酸注入ライン	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%	4	VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5%																						

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解析」(令和元年6月5日所収)第1906051号)の改正版(以下、電裂解析NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる委員会」(令和元年8月6日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年/月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

4. 弁 (2/2)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1		高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画 (10ヵ年)										備 考						
項目 番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲 及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲 及び程度	2018年 第23保全 サイクル	2019年 -	2020年 第24保全 サイクル	2021年 第25保全 サイクル		2022年 第26保全 サイクル	2023年 第27保全 サイクル	2024年 -	2025年 -	2026年 第28保全 サイクル	2027年 第29保全 サイクル
F1.43	F-A	支持構造物																
		S I S 高温側低圧注入ライン、 Aライン 3V-SI-206 充てん/高圧注入ポンプ出口ライン 3V-SI-023A 3V-SI-023B	VT-3 VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5% 類似弁ごと に1台の 7.5%	1 4	VT-3 VT-3	類似弁ごと に1台の 7.5% 類似弁ごと に1台の 7.5%	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3V-SI- 206 1 3V-SI- 023B 1

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電装その他の欠陥の探査」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格「JSME S MA1-2012/2013/2014」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程
度等) 新規制要件に關する事業者意見の聴取にかゝる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格「JSME S MA1-2012/2013/2014」を適用する。

5. クラス2機器漏えい検査(1/8)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NMI-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考 (漏えい区分)					
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力又は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年 第21保全 サイクル	2016年 第22保全 サイクル	2017年 第23保全 サイクル	2018年 第24保全 サイクル	2019年 -		2020年 第24保全 サイクル	2021年 第25保全 サイクル	2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル
		化学体積制御系統															
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	体積制御タンク及び出入ロライン	VT-2	0.11	0.11	VT-2					-					○	
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	A-充てん/高圧注入ポンプ出ロライン	VT-2	17.76	17.76	VT-2					-	○					
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	B-充てん/高圧注入ポンプ出ロライン	VT-2	17.76	17.76	VT-2			○		-						
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	抽出ライン(1)	VT-2	15.41	15.41	VT-2				○	-						
C7.30 C7.70	C-H	抽出ライン(2)	VT-2	2.16	2.16	VT-2				○	-						
C7.30 C7.70	C-H	抽出ライン(3)	VT-2	0.46	0.46	VT-2					-		○				
		封水戻りライン(PEN#217)	VT-2	0.20	0.20	VT-2		○			-						
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	体積制御タンク入ロライン	VT-2	0.19	0.19	VT-2			○		-						
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	ほう酸タンク出入ロライン	VT-2	大気圧	水張り	VT-2	○				-						
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	ほう酸ポンプ出ロライン	VT-2	0.71	0.71	VT-2					-					○	

※1: NRI文書「発電用原子炉及びその附属施設における設備を引き起こす電線その他の欠陥の検査」(令和元年6月5日原規技第1906051号)の改正版(以下、電線検査NRI文書改正という。)の発行及び公開を含む(原子炉圧力容器の溶接手等の試験程度等)新規制条件に関する事業者意思の騰取にかかると合す(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NMI-2012/2013/2014を適用する。

5. クラス2機器漏えい検査(2/8)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10か年)										備考 (漏えい区分)					
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力又は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
							第21保全 サイクル	第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル			
		余熱除去系統															
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	A-余熱除去ポンプ入ロライン	VT-2	2.75	2.75	VT-2					-				○		(3-11)
		B-余熱除去ポンプ入ロライン	VT-2	2.75	2.75	VT-2					-	○					(3-12)
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	A-余熱除去ポンプ出ロライン	VT-2	3.56	3.56	VT-2					-	○					(3-13)
		B-余熱除去ポンプ出ロライン	VT-2	3.56	3.56	VT-2			○		-						(3-14)
		燃料取替用水系統															
C7.30 C7.70	C-H	燃料取替用水タンク出口ライン	VT-2	大気圧	水張り	VT-2		○			-						(3-15)
C7.30 C7.70	C-H	燃料取替用水タンク原子炉キャビティ連絡ライン(PEN#222)	VT-2	0.14	0.14	VT-2		○			-						(3-41)

※1: NPA文書「発電用原子炉及びその附属施設における検査を引き起こす電裂その他の欠陥の解説」(令和元年6月5日原研技発第906051号)の改正版(以下、電裂解説NRA文書改正という。)の発行及び公開套台「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制条件に関する事業者意思の疎取にかかると」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

5. クラス2機器漏えい検査 (3/8)

項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力又は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画 (10ヵ年)										備 考 (漏えい区分)	
							2015年 第21保全 サイクル	2016年 第22保全 サイクル	2017年 第23保全 サイクル	2018年 第24保全 サイクル	2019年 第25保全 サイクル	2020年 第26保全 サイクル	2021年 第27保全 サイクル	2022年 第28保全 サイクル	2023年 第29保全 サイクル	2024年 第30保全 サイクル		
		安全注入系統																
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	蓄圧タンク及び出入口ライン	VT-2	4.22	4.22	VT-2			○									一部又は全部を気圧により検査 (3-16)
		ほう酸注入タンク及び出入口ライン	VT-2	8.00	8.00	VT-2					○							(3-17)
		蓄圧タンク注入ライン(PEN#216)	VT-2	4.40	4.40	VT-2										○		(3-43)
		蓄圧タンクテストライン(PEN#227)	VT-2	6.90	6.90	VT-2										○		(3-44)
C7.30 C7.70	C-H	充てん/高圧注入ポンプ出口安全注入ライン(2)	VT-2	8.00	8.00	VT-2						○						(3-19)
		充てん/高圧注入ポンプ出口安全注入ライン(3)	VT-2	8.00	8.00	VT-2							○					(3-20)
		充てん/高圧注入ポンプ出口安全注入ライン(4)	VT-2	8.00	8.00	VT-2			○									(3-21)
		格納容器再循環ポンプ出口ライン(糸除除去ポンプ側)	VT-2	4.91kPa	4.91kPa	VT-2										○		(3-22)
		格納容器スプレイ系統																
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	よう素除去薬品タンク及び出入口ライン	VT-2	34.4kPa	34.4kPa	VT-2									○			一部又は全部を気圧により検査 (3-23)
C7.30 C7.70	C-H	よう素除去薬品タンク出口ライン	VT-2	34.4kPa	34.4kPa	VT-2									○			(3-85)
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	A-格納容器スプレイポンプ入口ライン	VT-2	0.36	0.36	VT-2									○			(3-24)
		B-格納容器スプレイポンプ入口ライン	VT-2	0.36	0.36	VT-2										○		(3-25)
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	A-格納容器スプレイポンプ出口ライン	VT-2	1.97	1.97	VT-2										○		(3-26)
		B-格納容器スプレイポンプ出口ライン	VT-2	1.97	1.97	VT-2											○	(3-27)
C7.30 C7.70	C-H	格納容器スプレイポンプ出口ライン	VT-2	1.64	1.64	VT-2									○			(3-28)
		格納容器再循環ポンプ出口ライン(格納容器スプレイポンプ側)	VT-2	4.91kPa	4.91kPa	VT-2										○		(3-29)

※1: NIA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における故障を引き起こす電線その他の欠陥の解説」(令和五年6月5日原規技審議1906051号)の改正版(以下、亀裂解家NIA文書改正という。)の施行及び公開命令「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制案件に関する事業者意見の取組にかかる命令」(令和五年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

5. クラス2機器漏えい検査(4/8)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NM1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考 (漏えい区分)					
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力又は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
							第21保全 サイクル	第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル			
		主給水系統															
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	A-蒸気発生器給水入ロライン	VT-2	5.30	5.30	VT-2					-		○				(3-30)
		B-蒸気発生器給水入ロライン	VT-2	5.30	5.30	VT-2					-		○				(3-31)
		主蒸気系統															
C7.30 C7.70	C-H	A-蒸気発生器出口ロライン	VT-2	5.30	5.30	VT-2					-		○				(3-33)
		B-蒸気発生器出口ロライン	VT-2	5.30	5.30	VT-2					-		○				(3-34)
		1次系補給水系統															
C7.30 C7.70	C-H	加圧器速がシタンクPMW供給ライン(PEN#279)	VT-2	0.80	0.80	VT-2					-		○				(3-38)
		1次系補給水ライン(PEN#268)	VT-2	0.60	0.60	VT-2					-		○				(3-86)
		廃棄物処理系統															
		蓄圧タンク窒素充てみライン(PEN#218)	VT-2	4.40	4.40	VT-2					-		○				一部又は全部を気圧により検査 (3-42)
C7.30 C7.70	C-H	格納容器冷却材ドレンポンプ出口ロライン(PEN#225)	VT-2	0.70	0.70	VT-2					-		○				(3-83)
		格納容器サンプポンプ出口ロライン(PEN#234)	VT-2	0.15	0.15	VT-2					-		○				(3-84)

※1: NRI文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における感度を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年5月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検察WRI文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の取除程度等)の新規制度に関する事業者意見の聴取にかかる報告」(令和元年8月5日)の補録(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NM1-2012/2013/2014を適用する。

5. クラス2機器漏えい検査(5/8)

項目番号	カテゴリ	発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1	高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)											備考 (漏えい区分)			
			検査方法	運転圧力又は最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年 第21保全サイクル	2016年 第22保全サイクル	2017年 第23保全サイクル	2018年 第24保全サイクル	2019年 -	2020年 第25保全サイクル	2021年 第26保全サイクル		2022年 第27保全サイクル	2023年 第28保全サイクル	2024年 第29保全サイクル
		漏えい検査範囲 ライン名称															
		蒸気発生器ブローダウン系統															
		A-蒸気発生器ブローダウンライン(PEN#319)	VT-2	4.80	4.80	VT-2	○										(3-45-1)
	C-H	B-蒸気発生器ブローダウンライン(PEN#318)	VT-2	4.80	4.80	VT-2	○										(3-45-2)
		C-蒸気発生器ブローダウンライン(PEN#317)	VT-2	4.80	4.80	VT-2	○										(3-45-3)
		試料採取系統															
		A-蒸気発生器ブローダウンサンプリングライン(PEN#259L)	VT-2	4.80	4.80	VT-2		○									(3-46-1)
		B-蒸気発生器ブローダウンサンプリングライン(PEN#259M)	VT-2	4.80	4.80	VT-2			○								(3-46-2)
		C-蒸気発生器ブローダウンサンプリングライン(PEN#259R)	VT-2	4.80	4.80	VT-2								○			(3-46-3)
	C-H	加圧器気相部サンプリングライン(PEN#231R)	VT-2	15.41	15.41	VT-2									○		(3-60)
		加圧器液相部・Bループ高温側サンプリングライン(PEN#231M)	VT-2	15.41	15.41	VT-2									○		(3-61)
		Aループ高温側サンプリングライン(PEN#235)	VT-2	15.41	15.41	VT-2										○	(3-64)
		蓄圧タンクサンプリングライン(PEN#231L)	VT-2	4.40	4.40	VT-2										○	(3-65)

※1: NRA文書「運用発電用原子炉及びその附属施設における故障を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検察NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の取組程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

5. クラス2機器漏えい検査(6/8)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考 (漏えい区分)				
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力又は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年 第21保全 サイクル	2016年 第22保全 サイクル	2017年 第23保全 サイクル	2018年 第24保全 サイクル	2019年 -	2020年 第25保全 サイクル	2021年 第26保全 サイクル	2022年 第27保全 サイクル	2023年 第28保全 サイクル	2024年 第29保全 サイクル
		原子炉補機冷却水系統														
		CRDM冷却ユニット他冷却水入ロライン(PEN#313)	VT-2	0.60	0.60	VT-2					-				○	
		CRDM冷却ユニット他冷却水出ロライン(PEN#314)	VT-2	0.07	0.07	VT-2					-				○	
		RCP冷却水入ロライン(PEN#312)	VT-2	0.50	0.50	VT-2			○							(3-56)
		RCP冷却水出ロライン(PEN#311)	VT-2	0.07	0.07	VT-2			○							(3-57)
		A-B-C/V再循環ユニット冷却水入ロライン(PEN#255)	VT-2	0.60	0.60	VT-2		○								(3-58)
		A-C/V再循環ユニット冷却水出ロライン(PEN#256)	VT-2	0.50	0.50	VT-2		○								(3-59)
	C-H	B-C/V再循環ユニット冷却水出ロライン(PEN#257)	VT-2	0.50	0.50	VT-2					-	○				(3-87)
		C-D-C/V再循環ユニット冷却水入ロライン(PEN#229)	VT-2	0.60	0.60	VT-2					-	○				(3-88)
		C-C/V再循環ユニット冷却水出ロライン(PEN#230)	VT-2	0.50	0.50	VT-2					-	○				(3-89)
		D-C/V再循環ユニット冷却水出ロライン(PEN#232)	VT-2	0.50	0.50	VT-2		○								(3-90)
		DRPI壺冷却ユニット冷却水入ロライン(PEN#274)	VT-2	0.25	0.25	VT-2		○								(3-91)
		DRPI壺冷却ユニット冷却水出ロライン(PEN#275)	VT-2	0.25	0.25	VT-2					-					(3-92)
			VT-2	0.25	0.25	VT-2					-					(3-93)
			VT-2	0.25	0.25	VT-2					-					(3-94)

※1: NRIA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における取組を引起こす電線その他の欠陥の発生の修正(以下、電線取組NRIA文書改正という。)」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の取組程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる答申」(令和元年8月5日)の補遺(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

5. クラスタ2機器漏えい検査(7/8)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考 (漏えい区分)				
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
							第21保全 サイクル		第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル	
		空気系統														
		制御用空気ライン(PEN#260)	VT-2	0.66	0.66	VT-2	○									
		制御用空気加圧器逃がし弁用供給ライン(1)(PEN#262)	VT-2	0.66	0.66	VT-2	○									
		制御用空気加圧器逃がし弁用供給ライン(2)(PEN#284)	VT-2	0.66	0.66	VT-2			○							
		所内用空気供給ライン(PEN#265)	VT-2	0.71	0.71	VT-2			○							
		消火水系統														
		消火水ライン(PEN#271)	VT-2	1.30	1.30	VT-2	○									
		酸欠ガス系統														
		CO2消火ライン(PEN#316)	VT-2	4.40	4.40	VT-2						○				

※1: IAEA文庫「電用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その中の名簿の経験」(令和元年6月5日原研技務第1906051号)の改正版(以下、亀裂経験別区分書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

3. クラス2機器漏えい検査 (8/8)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考 (漏えい区分)							
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2018年 第23回全 サイクル	2019年	2020年 第24回全 サイクル	2021年	2022年 第25回全 サイクル	2023年 第26回全 サイクル	2024年 第27回全 サイクル	2025年	2026年 第28回全 サイクル	2027年 第29回全 サイクル			
		化学体積制御系統																	
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	C-充てん/高圧注入ポンプ出口ライン	VT-2	17.76	17.76	VT-2	-	-						-	○			(3-4)	
		安全注入系統																	
C7.30 C7.70	C-H	充てん/高圧注入ポンプ出口安全注入ライン(1)	VT-2	8.00	8.00	VT-2	-	-						-	○			(3-18)	
		主給水系統																	
C7.10 C7.30 C7.70	C-H	C-蒸気発生器給水入ロライン	VT-2	5.30	5.30	VT-2	-	-						-		○		(3-32)	
		主蒸気系統																	
C7.30 C7.70	C-H	C-蒸気発生器出口ロライン	VT-2	5.30	5.30	VT-2	-	-						-		○		(3-35)	

※1: NRA文書「発電用原子炉及びその附属施設における破断を引き起こす電線その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、電線検察NRA文書改正という。)の施行及び公開命令「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験手続等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる命令」(令和五年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

クラス3 機器供用期間中検査

1. 余熱除去冷却器(胴側) (1/1)

発電用原子炉設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2013年	2014年	2015年	2016年		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
D1.10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-3※2	1基の7.5%	4	VT-3※2	1基の7.5% 1		A1			第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	第24保全サイクル		2022年 第25保全サイクル		
F1.44	F-A	支持脚	VT-3	1基の7.5%	4	VT-3	1基の7.5% 1		A1					-					

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及びOZS開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2：2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、VT-3はVT-1と読み替える。

2. 格納容器スプレイ冷却器(胴側) (1/1)

発電用原子炉設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考							
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2013年	2014年	2015年	2016年		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
D1.10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-3※2	1基の7.5%	4	VT-3※2	1基の7.5% 1					第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	第24保全サイクル		2022年 第25保全サイクル		
F1.44	F-A	支持脚	VT-3	1基の7.5%	4	VT-3	1基の7.5% 1				A1	A1		-					

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及びOZS開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2：2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、VT-3はVT-1と読み替える。

3. 原子炉補機冷却水冷却器 (1/1)

発電用原子炉設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考				
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法及び程度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
D1.10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-3 ※2	1基の7.5%	8	VT-3 ※2		第21保全サイクル			第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	第24保全サイクル		第25保全サイクル
F1.44	F-A	支持脚	VT-3	1基の7.5%	8	VT-3				A1			-			

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2: 2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、VT-3はVT-1と読み替える。

4. 非常用ディーゼル発電機清水冷却器 (1/1)

発電用原子炉設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考				
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法及び程度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
D1.10	D-A	胴と補強板との溶接継手	VT-3 ※2	1基の7.5%	4	VT-3 ※2		第21保全サイクル			第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	第24保全サイクル		第25保全サイクル
F1.44	F-A	取付脚	VT-3	1基の7.5%	4	VT-3						A1	-			

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2: 2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、VT-3はVT-1と読み替える。

5. 非常用ディーゼル発電機潤滑油冷却器 (1/1)

発電用原子炉設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考				
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法及び程度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
D1.10	D-A	胴と補強板との溶接継手	VT-3 ※2	1基の7.5%	4	VT-3 ※2					第21保全サイクル	第22保全サイクル	-	第23保全サイクル		第24保全サイクル
F1.44	F-A	取付脚	VT-3	1基の7.5%	4	VT-3							-			A1

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2: 2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、VT-3はVT-1と読み替える。

6. 配管 (1/1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査の範囲及び程度		設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考		
			検査方法	検査の範囲及び程度				2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年			
D1.20	D-A	配管の支持部材取付け溶接継手																		
			原子炉補機冷却水系統	VT-3 ※2	7.5%	78	VT-3 ※2	7.5%	6	1	1	1	-	2					1	
			原子炉補機冷却海水系統	VT-3 ※2	7.5%	22	VT-3 ※2	7.5%	2	1		1	-							
F1.31	F-A	支持構造物																		
			原子炉補機冷却水系統	VT-3	7.5%	414	VT-3	7.5%	32	7		4	8	-	8				5	
			原子炉補機冷却海水系統	VT-3	7.5%	178	VT-3	7.5%	14	3		2	3	-	4				2	

※1： NRA文書「実用蒸気用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解明」（令和元年6月5日原規特発第1906051号）の改正版（以下、亀裂解明NRA文書改正という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかわる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

※2： 2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、VT-3はVT-1と読み替える。

7.原子炉補機冷却水ポンプ（1/1）

充電用原子炉設備規格（2008年版）JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画（10ヵ年）										備考					
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法及び程度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
F1.31	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	1台の7.5%	20	VT-3 1台の7.5% 1					第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	第24保全サイクル		第25保全サイクル	

※1：NRA文書「実用充電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解析」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2：NRA文書「実用充電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解析」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂解除NRA文書改正という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

8.弁（1／1）

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法及び程度	高浜発電所第3号機検査計画（10ヵ年）										備考	
							2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		
F1.31	F-A	支持構造物						第21保全 サイクル										
		原子炉補機冷却水系統																
		3TCV-2342A	VT-3	1台の7.5%	4	VT-3	1台の7.5%											
		3TCV-2342B																
		3TCV-2342C 3TCV-2342D																
		原子炉補機冷却水系統	VT-3	1台の7.5%	4	VT-3	1台の7.5%											
		3V-CC-043 3V-CC-044													3V-CC-043 I			
															3TCV-2342A I			

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂解釈NRA文書改正という。）の施行及び公開会合「（原子炉正力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格「SME-S NA1-2012/2013/2014」を適用する。

9. クラサ3 機器漏えい検査 (1/2)

項目番号		カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力又は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	高浜発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考 (漏えい区分)	
								2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		
									第21保全 サイクル		第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル				
			使用済燃料ピット冷却浄化・燃料検査ピット水移送 系統																
D2.30	D-B		使用済燃料ピットポンプ入口ライン	VT-2	0.10	0.10	VT-2		○										(4-1)
D2.10 D2.30	D-B		A-使用済燃料ピットポンプ出口ライン	VT-2	0.59	0.59	VT-2		○										(4-2)
			B-使用済燃料ピットポンプ出口ライン	VT-2	0.59	0.59	VT-2		○										(4-3)
			原子炉補機冷却水系統																
			A,B,C-原子炉補機冷却水ポンプ入口ライン	VT-2	0.31	0.31	VT-2		○										(4-4)
D2.10 D2.30	D-B		D,E-原子炉補機冷却水ポンプ入口ライン	VT-2	0.31	0.31	VT-2				○								(4-5)
			原子炉補機冷却水ポンプ出口A供給ライン	VT-2	0.80	0.80	VT-2						○						(4-6)
			原子炉補機冷却水ポンプ出口B供給ライン	VT-2	0.80	0.80	VT-2						○						(4-7)
			原子炉補機冷却海水系統																
			A-海水ポンプ出口ライン	VT-2	0.18	0.18	VT-2					○							(4-8)
D2.10 D2.30	D-B		B-海水ポンプ出口ライン	VT-2	0.18	0.18	VT-2						○						(4-9)
			C-海水ポンプ出口ライン	VT-2	0.18	0.18	VT-2							○					(4-10)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格「JSME S NAI-2012/2013/2014」を適用する。

9. クラス3機器漏えい検査 (2/2)

項目番号		カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	運転圧力又は 最高使用圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	高浜発電所第3号機検査計画 (10カ年)										備考 (漏えい区分)		
								2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年			
								第21保全 サイクル												
												第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル				
			制御用空気系統																	
D2.10 D2.30	D-B		A-格納容器内制御用空気供給ライン	VT-2	0.66	0.66	VT-2							-	○				(4-11)	
			B-格納容器内制御用空気供給ライン	VT-2	0.66	0.66	VT-2								-		○			(4-12)
			A-格納容器外制御用空気供給ライン	VT-2	0.66	0.66	VT-2								-	○				(4-13)
			B-格納容器外制御用空気供給ライン	VT-2	0.66	0.66	VT-2								-		○			(4-14)
			ディーゼル発電機始動用空気系統																	
D2.10 D2.30	D-B		A-ディーゼル発電機始動用空気ライン	VT-2	2.65	2.65	VT-2							-			○			(4-15)
			B-ディーゼル発電機始動用空気ライン	VT-2	2.65	2.65	VT-2								-			○		(4-16)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研投発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

供用期間中特別検査のうちクラス1機器Ni基合金使用部位特別検査

1. 原子炉容器 (1/1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所第3号機検査計画 (7カ年)							備考
								2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
—	—	600系Ni基合金製の上蓋及び底部表面(600系Ni基合金製の各原子炉容器上蓋及び底部管台まわり360°を含む。)	BMV	100%	50	BMV	100% 50	第23保全サイクル	—	第24保全サイクル	第25保全サイクル	第26保全サイクル	第27保全サイクル		(重大事故等クラス2機器)
—	—	底部表面 (計測用管台)	BMV	100%	50	BMV	100% 50	第23保全サイクル	—	第24保全サイクル	第25保全サイクル	第26保全サイクル	第27保全サイクル	50	

※1: 「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(原研技発第1408063号(平成26年8月6日原子力規制委員会決定))

※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より亀裂解釈NRA文書改正を適用する。

供用期間中特別検査のうちクラス2管（原子炉格納容器内）特別検査

NRA文書※1		高浜発電所第3号機検査計画（10カ年）										備考						
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル	2025年 -		2026年 第28保全 サイクル	2027年 第29保全 サイクル	2028年 -	2029年 第30保全 サイクル	2030年 第31保全 サイクル	2031年 第32保全 サイクル
		配管の耐圧部分の溶接継手																
		抽出ライン(3B)	体積	25%	18	UT	25% 5	1	1				1			2		
		充てんライン(3B)	体積	25%	65	UT	25% 17	1	4				5			7		(重大事故等クラス2機器)
		再生熱交換器連絡管(3B)																
		抽出ライン連絡管	体積	25%	12	UT	25% 3		1				1			1		
		充てんライン連絡管	体積	25%	12	UT	25% 3		1				1			1		(重大事故等クラス2機器)

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす種別その他の欠陥の解釈」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）

原子炉格納容器供用期間中検査

1. 原子炉格納容器(1/1)

項目 番号	カテゴリ	検査対象箇所	JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考		
			検査方法	検査の範囲 及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲 及び程度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		2024年	2025年
E8.10	E-G	機器織入口圧力保持用ボルト締付け部	VT-4	25%	72	VT-4	25% 18	第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル	-	第28保全 サイクル	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年8月5日)の修正版(以下、電裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

1. 原子炉容器(1/2)

項目番号		カテゴリー	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画	備 考
発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S NA1-2008※1							
B1.102	B-A		下部胴の長手溶接継手	体積	可能範囲 各100%	クラス1機器供用期間中検査で管理	
			上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	5% ※2		
B2.111	B-B		下部胴とトランジションリングとの周溶接継手	体積	5% ※2		
			トランジションリングと下部鏡板との周溶接継手	体積	5% ※2		
B3.105	B-C		上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	可能範囲 100%		
B3.10	B-D		冷却材入口管台と胴との溶接継手	体積	可能範囲 各100%		
			冷却材出口管台と胴との溶接継手	体積	可能範囲 各100%		
B3.20	B-D		冷却材入口管台内面の丸みの部分	体積	可能範囲 各100%		
			冷却材出口管台内面の丸みの部分	体積	可能範囲 各100%		
B5.10	B-F		冷却材入口管台とセーフエントの溶接継手(呼び径100A以上)	体積及び表面	可能範囲 各100%		
			冷却材出口管台とセーフエントの溶接継手(呼び径100A以上)	体積及び表面	可能範囲 各100%		
B6.10	B-G-1		ナット	VT-1	100%		
B6.30	B-G-1		スタッドボルト	体積	100%		
B6.40	B-G-1		胴フランジネジ穴のネジ部	体積	100%		
B6.50	B-G-1		ワッシャ	VT-1	100%		
B7.10	B-G-2		マーマンカップリング	VT-1	25%		

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原規特第1900051号)の改正版(以下、亀裂検察NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等) 詳細補修件に関する事業意思の陳述にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

※2: 2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、「5%」は「可能範囲100%」と読み替える。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画（クラス1 機器供用期間中検査範囲）

1. 原子炉容器(2/2)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	高 浜 発 電 所 第 3 号 機 械 検 査 計 画		備 考
					発電原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S NA1-2008※1		
G1.10	G-P-1	容器内部	VT-3	全範囲の7.5% 各検査時期毎※2	クラス1 機器供用期間中検査で管理		
G1.40	G-P-1	上部炉心支持構造物の内部取付物	VT-3	全範囲の7.5%			
		下部炉心支持構造物の内部取付物	VT-3	全範囲の7.5%			
		炉心内部取付物	VT-3	全範囲の7.5%			
G1.50	G-P-2	上部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の7.5%			
		下部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の7.5%			
B14.10	B-0	制御棒駆動ハウジングの溶接継手(上部)	体積又は表面	最外周の25%			
		制御棒駆動ハウジングの溶接継手(下部)					
B15.10	B-P	圧力保持範囲	VT-2	可能範囲100%			
F1.41	F-A	支持構造物 (サポートシム、基礎ボルト)	VT-3	25%			

※1: NRA文書「実用発電原子炉及びその附属施設における破綻を引き起こす破綻その他の衣服の解除」(令和元年6月5日原研技発第1900051号)の改正版(以下、亀裂探索NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

※2: 2020年7月1日より維持維持 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用し、「全範囲の7.5% 各検査時期毎」は「全範囲の7.5%」と読み替える。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

2. 加圧器(1/1)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S NA1-2008※1		高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画		備 考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	
B2.11	B-B	上部胴と上部鏡板との周継手	体積	5%
		下部胴と下部鏡板との周継手	体積	5%
B2.12	B-B	上部胴の長手継手	体積	各10%
		下部胴の長手継手	体積	各10%
B2.13	B-B	上部胴と下部胴との周継手	体積	5%
B3.30	B-D	管台と容器との溶接継手	体積	25%
B3.40	B-D	管台内面の丸みの部分	体積	25%
B5.40	B-F	管台とセーフティエンドの溶接継手 (呼び径100A以上)		
		加圧器速がし弁管台		
		加圧器安全弁管台	体積及び 表面	25%
		加圧器スプレイ管台		
		加圧器サージ管台		
マンホールを取付けボルト	VT-1	25%		
B8.20	B-H	支持材の容器への取付け溶接継手 (スカート溶接継手)	表面	7.5%
B15.20	B-P	圧力保持範囲	VT-2	可能範囲 100%
F1.41	F-A	支持構造物(スカート、基礎ボルト)	VT-3	25%

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1900051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2017/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画 (クラス1 機器供用期間中検査範囲)

3. 蒸気発生器(1/1)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S NA1-2008※1		高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画		備 考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法及び程度	
B2. 40	B-B	管板と水室鏡との溶接継手	体積 1基の 25%	
B3. 60	B-D	冷却材入口管台の内面の丸みの部分、 冷却材出口管台の内面の丸みの部分	体積 1基の 25%	
B5. 70	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドの溶接継手、 冷却材出口管台とセーフエンドの溶接継手 (呼び径100A以上)	体積及び 表面 1基の 25%	クラス1 機器供用期間中検査で管理
B7. 30	B-G-2	1次側マンホールの取付けボルト	VT-1 1基の 25%	
B15. 30	B-P	圧力保持範囲	VT-2 可能範囲 100%	
F1. 41	F-A	支持構造物 (支持脚、ベースプレート、基礎ボルト)	VT-3 1基の 25%	

※1： NRA文書「実用蒸電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解析」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下「亀裂解析NRA文書改正」という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画（クラス1 機器供用期間中検査範囲）

4. 配管(1/3)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S MA1-2008※1		高圧発電所第3号 機械検査計画		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	
B9.11	B-J	配管の同種金属溶接継手 (呼び径100A以上)		
		1次冷却材管 (27.5INID, 836.00mm, 29INID, 31INID) A, B, Cグループ	体積	2.5%
		加圧器サージ管 (14B, 355, 60mm)	体積	2.5%
		加圧器安全弁ライン (6B)	体積	2.5%
		A, B, Cライン	体積	2.5%
		加圧器逃がし弁ライン (6B)	体積	2.5%
		余熱除去ポンプ入口ロライン (12B)	体積	2.5%
		B, Cグループ	体積	2.5%
		SIS蓄圧注入ライン (12B, 318, 50mm)	体積	2.5%
		A, B, Cグループ	体積	2.5%
B9.21	B-J	配管の同種金属溶接継手 (呼び径100A未満)		
		加圧器逃がし弁ライン (3B)	表面	2.5%
		余熱除去ポンプ入口ロライン (12B) B, Cグループ	表面	2.5%
		CVC5充てんライン (3B, 89, 10mm) Bグループ	表面	2.5%

クラス1 機器供用期間中検査で管理

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂判別NRA文書改正という。）の施行及び公開命令「（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる命令」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画（クラス1 機器供用期間中検査範囲）

4. 配管(2/3)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S MA1-2008※1		高圧発電所第3号 機械検査計画		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	
B9. 21	B-J	配管の同種金属溶接継手 (呼び径100A未満)		
		SIS低溫側ほう酸注入ライン (2B, 6B, 50mm) A, B, Cグループ	表面	25%
B9. 31	B-J	母管と管台との溶接継手 (呼び径100A以上)		
		1次冷却材管 (4B, 6B, 12B, 14B) A, B, Cグループ	体積	25%
B9. 32	B-J	母管と管台との溶接継手 (呼び径100A未満)		
		1次冷却材管 (2B, 3B, 6B, 50mm) A, B, Cグループ	表面	25%
		糸鋸除去ポンプ入口ライン (12B) B, Cグループ	表面	25%
		SIS低溫側低圧注入ライン (2B) A, B, Cグループ	表面	25%
B9. 40	B-J	ソケット溶接継手		
		SIS低溫側ほう酸注入ライン (2B) A, B, Cグループ	表面	25%

クラス1 機器供用期間中検査で管理

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の欠陥の解釈」（令和元年6月5日原研技発第1906051号）の改正版（以下、電線解釈NRA文書改正という。）の施行及び公開適合（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる適合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画（クラス1 機器供用期間中検査範囲）

4. 配管(3/3)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S MA1-2008※1		高圧発電所第3号 機械検査計画		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	
B15.50	B-P	圧力保持範囲	VT-2	可能範囲 100%
F1.10	F-A	支持構造物		
		加圧器サージ管	VT-3	25%
		加圧器逃がし弁ライン	VT-3	25%
		余熱除去ポンプ入ロライン B、Cグループ	VT-3	25%
		CVCSS充てんライン Bグループ	VT-3	25%
		SIS蓄圧注入ライン A、B、Cグループ	VT-3	25%
		SIS低温側低圧注入ライン A、B、Cグループ	VT-3	25%
		SIS低温側ほう酸注入ライン A、B、Cグループ	VT-3	25%

クラス1 機器供用期間中検査で管理

※1：NRA文書「運用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の軽減」(令和元年6月5日原規技委第1906051号)の改正版(以下、亀裂軽減NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画（クラス1 機器供用期間中検査範囲）

5. 1次冷却材ポンプ(1/1)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSNE S NA1-2008※1		高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画		備 考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法及び検査の範囲及び程度	
B6.180	B-G-1	スタッドボルト	体積 1台の25%	
B6.190	B-G-1	フランジ表面	VT-1 1台の25%	
B6.200	B-G-1	ナット	VT-1 1台の25%	クラス1 機器供用期間中検査で管理
		ワッシャ	VT-1 1台の25%	
B12.20	B-L-2	ケーシングの内表面	VT-3 1	
B15.60	B-P	圧力保持範囲	VT-2 可能範囲 100%	
F1.41	F-A	支持構造物（支持脚、ベースプレート、基礎ボルト）	VT-3 1台の25%	ポンプ分解点検時に実施

※1： NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の解釈」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂検出NRA文書改正という。）の施行及び公開会合（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSNE S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画（クラス1 機器供用期間中検査範囲）

6. 弁（1ノ2）

発電用原子力設備規格 維持規格（2008年改訂版） JSNE S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法及び程度	
B7.70	B-G-2	圧力保持用ボルト締付け部 (直径50mm以下)		
		加圧器安全弁ライン A、B、Cライン 3V-RC-055 3V-RC-056 3V-RC-057	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		加圧器逃がし弁ライン 3V-RC-054A 3V-RC-054B 3V-RC-054C	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		3PCV-455A 3PCV-455B 3PCV-454C	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		CVC S充てんライン Bグループ 3V-CS-233 3V-CS-234	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		余熱除去ポンプ入口ライン B、Cグループ 3PCV-420 3PCV-430	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		3V-RH-003A 3V-RH-003B	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		S I S蓄圧注入ライン A、B、Cグループ 3V-SI-134A、136A 3V-SI-134B、136B 3V-SI-134C、136C	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		S I S低温側低圧注入ライン A、B、Cグループ 3V-SI-202A、203A 3V-SI-202B、203B 3V-SI-202C、203C	V T - 1	類似弁ごとに 1台の25%
		クラス1 機器供用期間中検査で管理		

※1： NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」（令和元年6月5日原研技発第1906051号）の改正版（以下、電裂解釈NRA文書改正という。）の施行及び公開台帳（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの委託（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSNE S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

6. 弁(2/2)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年改訂版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法及び程度	
B12.50	B-M-2	弁本体の内表面		
		加圧器安全弁ライン A, B, Cライン	3V-RC-055 3V-RC-056 3V-RC-057	VT-3 類似弁ごとに1
		余熱除去ポンプ吸入ライン B, Cグループ	3PCV-420 3PCV-430	VT-3 類似弁ごとに1
			3V-RH-003A 3V-RH-003B	VT-3 類似弁ごとに1
		SIS蓄圧注入ライン A, B, Cグループ	3V-SI-134A, 136A 3V-SI-134B, 136B 3V-SI-134C, 136C	VT-3 類似弁ごとに1
B15.70	B-P	SIS低温側低圧注入ライン A, B, Cグループ	3V-SI-202A, 203A 3V-SI-202B, 203B 3V-SI-202C, 203C	VT-3 類似弁ごとに1
		圧力保持範囲		VT-2 可能範囲100%
F1.41	F-A	支持構造物		
		加圧器安全弁ライン A, B, Cライン	3V-RC-055 3V-RC-056 3V-RC-057	VT-3 類似弁ごとに1台の25%
		加圧器逃がし弁ライン	3V-RC-054A 3V-RC-054B 3V-RC-054C	VT-3 類似弁ごとに1台の25%
			3PCV-455A 3PCV-455B 3PCV-454C	VT-3 類似弁ごとに1台の25%
		余熱除去ポンプ吸入ライン B, Cグループ	3PCV-420 3PCV-430	VT-3 類似弁ごとに1台の25%
		3V-RH-003A 3V-RH-003B	VT-3 類似弁ごとに1台の25%	

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: WRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解析」(令和元年6月5日原規技奉第1906051号)の改正版(以下、亀裂解析WRA文書改正という。)の施行及び公開委員会等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画（クラス1機器Ni基金金使用部位特別検査範囲）

1. 原子炉容器（1／1）

項目番号	カテゴリ	NRA文書※1、※2		検査の範囲及び程度	検査方法	備考
		検査対象箇所	検査の範囲及び程度			
—	—	600系Ni基金金製の上蓋及び底部表面(600系Ni基金金製の各原子炉容器上蓋及び底部管台まわり360°を含む。)	100%	BMV	クラス1機器Ni基金金使用部位特別検査で管理	

※1：「美用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(原研技発第1408063号(平成26年8月6日原子力規制委員会決定))
 ※2：NRA文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、電裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より電裂解釈NRA文書改正を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画（クラス2管（原子炉格納容器内）特別検査範囲）

項目番号		NRA文書※1、※2		高浜発電所第3号機検査計画		備考
カテゴリー	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	クラス2管（原子炉格納容器内）特別検査で管理		
-	配管の耐圧部分の溶接継手			クラス2管（原子炉格納容器内）特別検査で管理		
	充てんライン（3B）	体積	25%			
	再生熱交換器連絡管（3B）	体積	25%			
	充てんライン連絡管	体積	25%			

※1：「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解説」（原規技発第1408063号（平成26年8月6日原子力規制委員会決定））
 ※2：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解説」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂解釈NRA文書改正という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より亀裂解釈NRA文書改正を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画

1. 格納容器スプレッド冷却器管側(1/1)

検査用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NAI-2008※1		高浜発電所 第3号 機械検査計画(10カ年)										備考						
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	2015年	2016年	2017年	2018年		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
C1.10	C-A	管側胴と管側フランジとの周溶接継手	体積	1基の7.5%	2	UT	1基の7.5%	第21保全サイクル		第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	-	第24保全サイクル	第25保全サイクル	第26保全サイクル	第27保全サイクル	
C1.20	C-A	管側胴と管側継手	体積	1基の7.5%	2	UT	1基の7.5%					-	-		A 7.5%	A 7.5%		

※1： NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂寸す亀裂その他の欠陥の探査」(令和元年6月5日原燃発第190051号)の改正版(以下、亀裂探査NRA文書改正という。)の施行及び公開を含む(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの旨(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画
 2. 余熱除去冷却器管側（1/1）

発電用原子力設備規格（2008年版） JSME S NA1-2008※1		高 浜 発 電 所 第 3 号 機 検 査 計 画		備 考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法及び程度	
C1.10	C-A	管側胴と管側フランジとの間溶接継手	体積 1基の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理
C1.20	C-A	管側胴と管側胴との溶接継手	体積 1基の7.5%	
C2.21	C-B	管側入口管台及び管側出口管台と管側胴との溶接継手	体積及び表面 7.5%	

※1： NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」（令和元年6月5日原研技発第190051号）の改正版（以下、亀裂解釈NRA文書改正という。）の施行及び公開会合（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画

3. 配管 (1/3)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	高浜発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										備考							
			検査の方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査の方法	検査の範囲及び程度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		
C3.20	C-C	配管の支持部材取付け溶接継手 格納容器再循環サンプ出口ライン (φ55.0mm) Aライン (格納容器スプレイ系統) 主蒸気大気放出口ライン (φ81.165.20) Aライン	表面	7.5%	2	P T	7.5% ₁													
			表面	7.5%	1	P T	7.5% ₁									A 1				
C5.11	C-F	配管の副圧部分の溶接継手 (呼び径10 O.A.を超え公称肉厚9.5mmを超えるもの) 格納容器再循環サンプ出口ライン (φ48.355.60mm) Aライン (格納容器スプレイ系統) 格納容器スプレイポンプ入口ライン (φ48.355.60mm) A、Bライン 主蒸気大気放出口ライン (φ81.165.20) Aライン	体積又は表面	7.5%	6	P T	7.5% ₀													
			体積又は表面	7.5%	24	P T	7.5% ₂									A 1				
		支持構造物	体積又は表面	7.5%	6	P T	7.5% ₁													
			表面	7.5%	3	V T-3	7.5% ₁									A 1				
F1.21	F-A	S I S高温側低圧注入ライン 蒸てん/高圧注入ポンプ入口ライン 原子炉補機冷却水ポンプ出入口ライン 格納容器再循環サンプ出口ライン Aライン (格納容器スプレイ系統) 格納容器スプレイポンプ入口ライン Aライン 格納容器スプレイポンプ出口ライン A、Bライン 格納容器スプレイ冷却器出口ライン A、Bライン 格納容器スプレイ系統余熱除去系統連絡ライン 煙灰代替低圧注水ポンプ出口ライン 可搬式代替低圧注水ポンプ出口ライン アンニラス空気浄化ライン 主蒸気大気放出口ライン	V T-3	7.5%	3	V T-3	7.5% ₁													
			V T-3	7.5%	22	V T-3	7.5% ₂													
			V T-3	7.5%	129	V T-3	7.5% ₁₀													
			V T-3	7.5%	1	V T-3	7.5% ₁													
			V T-3	7.5%	7	V T-3	7.5% ₁													
			V T-3	7.5%	10	V T-3	7.5% ₁													
			V T-3	7.5%	19	V T-3	7.5% ₂													
			V T-3	7.5%	13	V T-3	7.5% ₁													
			V T-3	7.5%	20	V T-3	7.5% ₂													
			V T-3	7.5%	2	V T-3	7.5% ₁													
V T-3	7.5%	59	V T-3	7.5% ₅																
V T-3	7.5%	3	V T-3	7.5% ₁																

※1：NRA文書「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
 ※2：NRA文書「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度」(令和元年6月5日)原簿第190051号)の改正版(以下、格納容器NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画

3. 配管 (2 / 3)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	備考
発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S MA1-2008※1					
C3.20	C-C	配管の支持部材取付け溶接継手			
		余熱除去ポンプ入口ライン (318.30mm, 355.60mm) A、Bライン	表面	7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン (267.40mm) A、Bライン	表面	7.5%	
		SIS低溫制御低圧注入ライン (165.20mm, 267.40mm) A、B、Cライン	表面	7.5%	
		SIS低溫制御ほう酸注入ライン (89.10mm) 共通ライン	表面	7.5%	
		売でん/高圧注入ポンプ入口ライン (216.30mm)	表面	7.5%	
		売でん/高圧注入ポンプ出口ライン (89.10mm, 114.30mm)	表面	7.5%	
		1次冷却材管壁温制御高圧注入ライン (89.10mm) ほう酸注入タンク出口側	表面	7.5%	
		格納容器再循環サンプル出口ライン (355.60mm) A、Bライン (余熱除去系統)	表面	7.5%	
		配管の耐圧部分の溶接継手(呼び径100mmを超え公称肉厚9.5mmを超えるもの)			
C5.11	C-F	余熱除去ポンプ入口ライン (128.148, 318.50mm, 355.60mm) A、Bライン	体積又は表面	7.5%	
		SIS低溫制御低圧注入ライン (88.108, 165.20mm, 267.40mm) A、B、Cライン	体積及び表面	7.5%	
		格納容器再循環サンプル出口ライン (148.355, 60mm) A、Bライン (余熱除去系統)	体積又は表面	7.5%	

クラス2機器供用期間中検査で管理

※1：NRA文書「発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす脆弱その他の欠陥の隠蔽」（令和元年6月5日原研発表第1900051号）の改正版（以下、脆弱隠蔽NRA文書改正という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画

3. 配管（3/3）

発電用原子力設備規格 維持規格（2008年版） JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画		備考
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度
C5.21	C-F	配管の耐圧部分の溶接継手（呼び径50A以上100A以下で公称肉厚8mmを超えるもの）		
		SIS低温側ほう酸注入ライン（2B, 3B, 60, 50mm, 39, 10mm） A, B, C, 共通ライン	表面	7.5%
C5.30	C-F	充てん/高圧注入ポンプ出口ライン（3B, 4B, 89, 10mm）	表面	7.5%
		配管の耐圧部分の溶接継手（ソケット溶接継手）		
C5.41	C-F	SIS低温側ほう酸注入ライン（2B） A, B, Cライン	表面	7.5%
		配管の耐圧部分の溶接継手（呼び径50Aを超える、母管と管台及び母管と枝管）		
F1.21	F-A	充てん/高圧注入ポンプ出口ライン（3B）	表面	7.5%
		支持構造物		
F1.21	F-A	余熱除去ポンプ入口ライン A, Bライン	VT-3	7.5%
		余熱除去ポンプ出口ライン A, Bライン	VT-3	7.5%
		SIS低温側低圧注入ライン A, B, Cライン	VT-3	7.5%
		SIS低温側ほう酸注入ライン A, B, C, 共通ライン	VT-3	7.5%
		充てん/高圧注入ポンプ出口ライン	VT-3	7.5%
		格納容器再循環サンプ出口ライン A, Bライン（余熱除去系統）	VT-3	7.5%

クラス2機器供用期間中検査で管理

※1：NRA文書「発電用原子力設備規格（及びその附属規格）における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の監視」（令和元年6月5日原研再発第1900051号）の改正版（以下「亀裂監視NRA文書改正」という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかける会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画

4. 格納容器スプレッドポンプ(1/1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法		検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所 第3号 機械検査計画 (10カ年)										備考	
			検査方法	検査の範囲及び程度					2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		
C6.10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	1台の7.5%	1台の7.5%	4	P T	1台の7.5% 1	第21保全サイクル	第21保全サイクル	第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	-	第24保全サイクル	第25保全サイクル	第26保全サイクル	第27保全サイクル		
F1.43	F-A	ポンプの台板脚	V T - 3	1台の7.5%	1台の7.5%	4	V T - 3	1台の7.5% 1			A 1									

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解明」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2017/2013/2014を適用する。
 (以下、電裂解明NRA文書改正という。)の施行及び公開委員会(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる場合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2017/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画

5. 余熱除去ポンプ(1/1)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NAI-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画		備考
項目番号	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	
C6.10	C-G ケーシングの溶接継手	表面	1台の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理
F1.43	F-A ポンプの台板脚	V T-3	1台の7.5%	

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開套合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの套合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画

6. 原子炉補機冷却水ポンプ（1/1）

項目 番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲 及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲 及び程度	高浜発電所 第3号機 検査計画（10カ年）										備考
								2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
F1.43	F-A	ポンプの台板脚	V T - 3	1台の7.5%	12	V T - 3	1台の7.5%	第21保全 サイクル	第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル		対象はA、B、C原子炉補機冷却水ポンプ	

※1、NRA文庫「運用者専用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす負荷その他の次協の監視」（令和元年6月15日原研技発第1906051号）の改正版（以下、規制緩和NRA文庫改正という。）の施行及び公開会合（原子炉任力容限の選擇接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合（令和元年5月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画

7. 恒設代替低圧注水ポンプ (1/1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高圧発電機所 第3号 機械検査計画 (10カ年)										備考	
								2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		
F1.43	F-A	ポンプの台枠脚	VT-3	1台の7.5%	2	VT-3	1台の7.5%	第21保安サイクル	第22保安サイクル	第23保安サイクル	-	-	第24保安サイクル	第25保安サイクル	第26保安サイクル	第27保安サイクル	1		

※1: 原子力発電機所「運用発電機所原子炉及びその附属施設における燃費を引き起こす集約品の他の名称の更新」(令和元年6月5日原燃発第1906051号)の改正版(以下、集約品RA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画
8. 弁 (1/2)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高圧発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考	
								2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		
F1.43	F-A	支持構造物 原子炉補機冷却水ポンプ出入口ライン 3V-TCV-2342A 3V-TCV-2342B 格納容器スプレイ系統蒸気除去系統 接続ライン 3V-RH-100 3V-RH-101 主蒸気大気放出口ライン 3V-PCV-3610 3V-PCV-3620 3V-PCV-3630	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	2	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	第21保全サイクル	-	第22保全サイクル	-	第23保全サイクル	-	第24保全サイクル	第25保全サイクル	第26保全サイクル	第27保全サイクル		
			VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	2	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1										
			VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	6	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1										
			VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	6	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1	VT-3	類似弁ごとに1台の7.5%1										

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破損を引き起こす破損その他の欠陥の原状」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、「亀裂診断NRA文書改正」という。)の施行及び公開案台「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる案台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画
8. 弁（2/2）

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	備考
F1.43	F-A	支持構造物			クラス2機器供用期間中検査で管理
		余熱除去ポンプ入口ライン A、Bライン	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン A、Bライン	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		SIS低溫側低圧注入ライン A、Cライン	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		SIS低溫側ほう酸注入ライン 3V-SI-042A 3V-SI-042B	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	
		充てん／高圧注入ポンプ出口ライン 3V-SI-022A 3V-SI-022B	VT-3	類似品ごとに1台の7.5%	

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の診断」（令和元年6月5日原研技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂診断NRA文書改正という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月6日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画
9. クラス2 機器漏えい検査 (1/4)

発用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高圧発電所第3号 機械検査計画(10カ年)										備考 (漏えい区分)					
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	S A使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年 第21回全 サイクル	2016年 第22回全 サイクル	2017年 第23回全 サイクル	2018年 第24回全 サイクル	2019年 第25回全 サイクル		2020年 第26回全 サイクル	2021年 第27回全 サイクル	2022年 第28回全 サイクル	2023年 第29回全 サイクル	2024年 第30回全 サイクル
		化学体積制御系統															
C730 C770	C-H	体積制御タンク及び出入ロライン	VT-2	1.4	1.4	VT-2											(SA-1)
C710 C730 C750 C770	C-H	A-充てん/高圧注入ポンプ出ロライン	VT-2	18.8	18.8	VT-2											(SA-2)
C730 C750 C770	C-H	B-充てん/高圧注入ポンプ出ロライン	VT-2	18.8	18.8	VT-2											(SA-3)
C730 C750 C770	C-H	C-充てん/高圧注入ポンプ出ロライン	VT-2	18.8	18.8	VT-2											(SA-4)
C730 C770	C-H	ほう酸タンク出入ロライン	VT-2	大気圧	水張り	VT-2											(SA-5)
C710 C730 C750 C770	C-H	ほう酸ポンプ出ロライン	VT-2	0.98	0.98	VT-2											(SA-6)
C730 C770	C-H	B-充てん/高圧注入ポンプ自己冷却ライン(充てん/高圧注 入ポンプ出口側)	VT-2	18.8	18.8	VT-2											(SA-7)
C730 C770	C-H	B-充てん/高圧注入ポンプ自己冷却ライン(充てん/高圧注 入ポンプ入口側)	VT-2	1.4	1.4	VT-2											(SA-8)

※1: IAEA文書「実用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす機器その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号, の改正版(以下、亀裂解釈版文書改正という。))の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等) 新規制資料に関する事業者意見の聴取にかかる答台」(令和五年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画
9. クラス2機器漏えい検査 (2/4)

項目番号	カテゴリ	検査方法	検査範囲 ライン名称	検査方法	高浜発電所第3号機検査計画(10カ年)											備考 (漏えい区分)		
					SA使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年 第21回全 サイクル	2016年 第22回全 サイクル	2017年 第23回全 サイクル	2018年 第24回全 サイクル	2019年 -	2020年 第24回全 サイクル	2021年 第25回全 サイクル	2022年 第26回全 サイクル		2023年 第27回全 サイクル	2024年 第28回全 サイクル
			余熱除去系統															
C730 C750 C770	C-H	VT-2	A-余熱除去ポンプ入口ライン	VT-2	4.1	4.1	VT-2											(SA-9)
			B-余熱除去ポンプ入口ライン	VT-2	4.1	4.1	VT-2											(SA-10)
C710 C730 C750 C770	C-H	VT-2	A-余熱除去ポンプ出口ライン	VT-2	4.1	4.1	VT-2											(SA-11)
			B-余熱除去ポンプ出口ライン	VT-2	4.1	4.1	VT-2											(SA-12)
			燃料取替用水系統															
C730 C770	C-H	VT-2	燃料取替用水タンク出口ライン	VT-2	大気圧	水張り	VT-2											(SA-13)
			安全注入系統															
C710 C730 C770	C-H	VT-2	蓄圧タンク及び出入ライン	VT-2	4.9	4.9	VT-2											(SA-14)
			ほう酸注入タンク及び出入ライン	VT-2	18.8	18.8	VT-2											(SA-15)
C730 C770	C-H	VT-2	充てん/高圧注入ポンプ出口安全注入ライン(2)	VT-2	17.16	17.16	VT-2											(SA-16)
			格納容器再循環ポンプ出口ライン(余熱除去ポンプ側)	VT-2	4.1	4.1	VT-2											(SA-17)

※1: NIA文書「運用発電用原子炉及びその附属施設における防護引き起こす事象の他の名称の解釈」(令和元年6月5日原燃発登第1906051号)の改正版(以下、集約版)を適用する。また、2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画
9. クラス2 機器漏えい検査 (3/4)

項目番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	S A 使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	高浜発電所第3号機検査計画(10カ年)										備考 (漏えい区分)	
							2015年 第21回全 サイクル	2016年 第22回全 サイクル	2017年 第23回全 サイクル	2018年 第24回全 サイクル	2019年 第25回全 サイクル	2020年 第26回全 サイクル	2021年 第27回全 サイクル	2022年 第28回全 サイクル	2023年 第29回全 サイクル	2024年 第30回全 サイクル		
		格納容器スプレイ系統																
C730 C750 C770	C-H	A-格納容器スプレイポンプ入ロライン	VT-2	2.7	2.7	VT-2												(SA-18)
		B-格納容器スプレイポンプ入ロライン	VT-2	2.7	2.7	VT-2												(SA-19)
C710 C730 C750 C770	C-H	A-格納容器スプレイポンプ出ロライン	VT-2	2.7	2.7	VT-2												(SA-20)
		B-格納容器スプレイポンプ出ロライン	VT-2	2.7	2.7	VT-2												(SA-21)
C730 C770	C-H	格納容器スプレイポンプ出ロライン	VT-2	2.7	2.7	VT-2												(SA-22)
		格納容器再循環ポンプ出ロライン(格納容器スプレイポンプ側)	VT-2	0.283	0.283	VT-2												(SA-23)
C730 C750 C770	C-H	恒設代替低圧注水ポンプ入ロライン	VT-2	1.4	1.4	VT-2												(SA-24)
		恒設代替低圧注水ポンプ出ロライン	VT-2	2.7	2.7	VT-2												(SA-25)
C730 C770	C-H	可換式代替低圧注水ポンプ出ロライン	VT-2	1.55	1.55	VT-2												(SA-26)
		換気調整装置系統																
C730 C770	C-H	アニュラス空気浄化ライン	VT-2	0.01	0.01	VT-2												(SA-27)
		中央制御室換気空調設備入ロライン	VT-2	-0.00392	-	(*)1												(SA-56)
C730	C-H	中央制御室換気空調設備出ロライン	VT-2	0.00392	-	(*)1												(SA-57)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における防護を引き起こす漏洩その他の欠陥の解析」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解析NRA文書改正という。)の施行及び公開適合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の照取にかかると合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。
(*)1 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施
(*)2 分割して外観点検を実施

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査計画

9. クラス2 機器漏えい検査 (4/4)

項目番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	S A使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	高 浜 発 電 所 第 3 号 機 械 検 査 計 画 (10カ年)										備 考 (漏えい区分)	
							2015年 第21回全 サイクル	2016年 第22回全 サイクル	2017年 第23回全 サイクル	2018年 第24回全 サイクル	2019年 第25回全 サイクル	2020年 第26回全 サイクル	2021年 第27回全 サイクル	2022年 第28回全 サイクル	2023年 第29回全 サイクル	2024年 第30回全 サイクル		
		試料採取系統																
C730 C770	C-H	格納容器ガスサンプリング入口ライン	VT-2	0.350	0.350	VT-2												(SA-58)
		格納容器ガスサンプリング戻りライン	VT-2	0.350	0.350	VT-2												(SA-59)
		原子炉補機冷却水系統																
C710 C730 C750 C770	C-H	A、B、C-原子炉補機冷却水ポンプ入口ライン	VT-2	0.98	0.98	VT-2												(SA-42)
		原子炉補機冷却水ポンプ出口A供給ライン	VT-2	0.98	0.98	VT-2												(SA-43)
		原子炉補機冷却水ポンプ出口B供給ライン	VT-2	0.98	0.98	VT-2												(SA-44)
C730 C770	C-H	B-充てん/高圧注入ポンプ自己冷却ライン(原子炉補機冷却水側)	VT-2	0.98	0.98	VT-2												(SA-45)
		空気系統																
		制御用空気加圧器逃がし弁用供給ライン(1)	VT-2	0.98	0.98	VT-2												(SA-53)
C730 C770	C-H	制御用空気加圧器逃がし弁用供給ライン(2)	VT-2	0.98	0.98	VT-2												(SA-54)
		アニュラスタンバ作動用窒素供給ライン	VT-2	0.83	0.83	VT-2												(SA-55)
		補助水系統																
C730 C750 C770	C-H	燃料取替用水タンク補給用移送ポンプ出口ライン	VT-2	0.98	0.98	VT-2												(SA-40)

※1: NIA文書「運用用原子炉及びその附属施設における耐震を引き起こす地震の相の名称の概観」(令和元年6月5日) 東電発(2019)006051号、の改正版(以下、集約版)を適用する。
 ※2: NIA文書「運用用原子炉及びその附属施設における耐震を引き起こす地震の相の名称の概観」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MAI-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画

1.0. 原子炉補機冷却水冷却器胴側（1/1）

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法及び程度	高浜発電所第3号機検査計画（10ヵ年）										備考
							2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
C1.10	C-A	胴側胴と胴側フランジとの周溶接継手	体積	1基の7.5%	4	1基の7.5%	第21号安全サイクル	-	第23号安全サイクル	-	第24号安全サイクル	第25号安全サイクル	第26号安全サイクル	第27号安全サイクル	対象はA、B原子炉補機冷却水冷却器		
							第22号安全サイクル	-	-	7.5%	-						
C3.10	C-C	胴と当接との溶接継手	体積	1基の7.5%	4	1基の7.5%	-	-	-	-	-	7.5%	-	対象はA、B原子炉補機冷却水冷却器			
							-	-	-	-	-	-	-				
F1.43	F-A	支持脚	VT-3	1基の7.5%	4	1基の7.5%	-	-	-	-	-	A1	-	対象はA、B原子炉補機冷却水冷却器			
							-	-	-	-	-	-	-		-		

※1： NRA文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破損を引き起こす電線その他の欠陥の解釈」（令和元年6月5日原研技委第1906051号）の改正版（以下、亀裂解釈NRA文書改正という。）の施行及び公開学会「（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる報告」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格-JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画
1.1. クラス2機器漏えい検査 (1/2)

発用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NAI-2008※1		高圧発電所第3号機検査計画(10カ年)										備考 (漏えい区分)					
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	S A使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
							第21保全 サイクル	第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル				
		主給水系統															
		A-蒸気発生器給水入ロライン	VT-2	8	8	VT-2								○			(SA-28)
	C-H	B-蒸気発生器給水入ロライン	VT-2	8	8	VT-2								○			(SA-28)
		C-蒸気発生器給水入ロライン	VT-2	8	8	VT-2									○		(SA-30)
		主蒸気系統															
		A-蒸気発生器出ロライン	VT-2	8	8	VT-2								○			(SA-31)
	C-H	B-蒸気発生器出ロライン	VT-2	8	8	VT-2								○			(SA-32)
		C-蒸気発生器出ロライン	VT-2	8	8	VT-2									○		(SA-33)
		補助給水系統															
	C-H	タービン動補助給水ポンプ蒸気ライン	VT-2	8	8	VT-2										○	(SA-34)
	C-H	タービン動補助給水ポンプ・燃料取替用水タンク補給用移送ポンプ入ロライン	VT-2	大気圧	水張り	VT-2										○	(SA-35)
	C-H	タービン動補助給水ポンプ出ロライン	VT-2	12.3	12.3	VT-2										○	(SA-36)
	C-H	電動補助給水ポンプ入ロライン	VT-2	大気圧	水張り	VT-2										○	(SA-37)
	C-H	電動補助給水ポンプ出ロライン	VT-2	12.3	12.3	VT-2										○	(SA-38)
	C-H	補助給水ポンプ出ロライン	VT-2	8.6	8.6	VT-2										○	(SA-39)
		2次系補助給水系統															
	C-H	復水タンク給水ライン	VT-2	1.55	1.55	VT-2										○	(SA-41)

※1: NIA文書「実用原子炉及びその附属施設における破断を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日版規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検察NIA文書改正という。)の施行及び公開会「原子炉圧力容器の溶接接手の試験精度等」新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画
1.1. クラス2機器漏えい検査 (2/2)

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008※1		高浜発電所第3号機検査計画(10カ年)											備考 (漏えい区分)				
項目番号	カテゴリ	検査範囲 漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	S A使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年 第21保全 サイクル	2016年 第22保全 サイクル	2017年 第23保全 サイクル	2018年 第24保全 サイクル	2019年 -	2020年 第24保全 サイクル	2021年	2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル	
		原子炉補機冷却海水系統															
C710 C730 C750 C770	C-H	A-海水ポンプ出口ライン(海水ストレーナー入口)	VT-2	0.7	0.7	VT-2								○			(SA-46)
C710 C730 C770	C-H	A-海水ポンプ出口ライン(A原子炉補機冷却水冷却器海水出入口ライン)	VT-2	1.2	1.2	VT-2								○			(SA-47)
C730 C750 C770	C-H	A-海水ポンプ出口ライン(B原子炉補機冷却水冷却器海水出入口ライン)	VT-2	0.7	0.7	VT-2								○			(SA-48)
C710 C730 C750 C770	C-H	B-海水ポンプ出口ライン	VT-2	0.7	0.7	VT-2									○		(SA-49)
C710 C730 C750 C770	C-H	C-海水ポンプ出口ライン	VT-2	0.7	0.7	VT-2									○		(SA-50)
C730 C770	C-H	A/B原子炉補機冷却水冷却器海水出口ライン	VT-2	0.7	0.7	VT-2								○			(SA-51)
		C/D原子炉補機冷却水冷却器海水出口ライン	VT-2	0.7	0.7	VT-2									○		(SA-52)
		ディーゼル発電機始動用空気系統															
C710 C730 C770	C-H	A-ディーゼル発電機始動用空気ライン	VT-2	3.2	3.2	VT-2								○			(SA-60)
		B-ディーゼル発電機始動用空気ライン	VT-2	3.2	3.2	VT-2								○			(SA-61)

※1: NNA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和元年6月5日版規程第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出規程)の施行及び公開委「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる委員会」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス2機器供用期間中検査計画（原子炉格納容器供用期間中検査範囲）

1. 原子炉格納容器 (1/1)

項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所第3号機検査計画 (10ヵ年)										備考
							2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
E8.10	E-G	機器搬入口圧力保持用ボルト締付け部	VT-4	25%	72	VT-4	25% 18	第21保全サイクル	第22保全サイクル	第23保全サイクル	-	-	第24保全サイクル	第25保全サイクル	第26保全サイクル	第27保全サイクル	

※1. NRA文書「家用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」（令和元年6月5日原種持続第1908051号）の改正版（以下「亀裂検出NRA文書改正」という。）の施行及び公開会合「（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかゝる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格「JSM E-NMI-2012/2013/2014」を適用する。

重大事故等クラス3機器供用期間中検査計画
1. クラス3機器漏えい検査

項目番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	SA使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	高浜発電所第3号機検査計画（10ヵ年）										備考 （漏えい区分）	
							2015年 第21保全 サイクル	2016年 第22保全 サイクル	2017年 第23保全 サイクル	2018年 第24保全 サイクル	2019年 -	2020年 第24保全 サイクル	2021年 -	2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル		
		原子炉補機冷却水系統																
D2.30	D-B	可搬型原子炉補機冷却水循環ポンプ出入ロライン	VT-2	0.33	0.33	VT-2												(SA3-1)
D2.10	D-B	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用窒素ポンベ	VT-2	14.7	14.7	VT-2												(SA3-2)
D2.30	D-B	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用窒素供給ライン	VT-2	17.16	17.16	VT-2												(SA3-3)
D2.30	D-B	A-ガスサンプル冷却水層外排水ライン	VT-2	大気圧	水張り	VT-2												(SA3-4)
		制御用空気系統																
D2.10	D-B	アニコラスダンク作動用窒素ポンベ	VT-2	14.7	14.7	VT-2												(SA3-5)
D2.30	D-B	アニコラスダンク作動用窒素供給ライン	VT-2	0.83	0.83	VT-2												(SA3-6)
		試料採取系統																
D2.30	D-B	可搬型格納器ガス試料圧縮装置及び可搬型格納器水素濃度計測装置供給ライン	VT-2	0.5	0.5	VT-2												(SA3-7)

※1：NRA文書「運用費用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす可能性のある機器の定期検査（令和元年6月5日原研特発第1006051号）の改正版（以下、準拠規格）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014 を適用する。

※2：NRA文書「運用費用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす可能性のある機器の定期検査（令和元年6月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、2020年7月1日より維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014 を適用する。

重大事故等クラス3機器供用期間中検査計画
 1. クラス3機器漏えい検査

項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	S A 使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	高圧発電所 第 3 号 機 検 査 計 画 (10カ年)										備 考 (漏えい区分)	
							2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		
D2.30	D-B	大容量ポンプ(放水砲用)(3・4号機共用)(2台)	VT-2	1.05	1.05	VT-2	第21保安 サイクル							第25保安 サイクル	第26保安 サイクル	第27保安 サイクル		
D2.10	D-B	大容量ポンプ(放水砲用)燃料タンク(3・4号機共用)(2基)	VT-2	大気圧	水張り	VT-2												※当該設備の燃料油にて実施。
D2.30	D-B	大容量ポンプ(3・4号機共用)(3台)	VT-2	1.00	1.00	VT-2												
D2.10	D-B	大容量ポンプ燃料タンク(3・4号機共用)(3基)	VT-2	大気圧	水張り	VT-2												※当該設備の燃料油にて実施。
D2.30	D-B	放水砲(3・4号機共用)(3台)	VT-2	1.0	1.0	VT-2												
D2.30	D-B	大容量ポンプ入ロライン放水砲用20m、10m、5mホース(3・4号機共用)	VT-2	0.25	0.25	VT-2								3本	8本			
D2.30	D-B	大容量ポンプ出ロライン放水砲用50m、10m、5mホース(3・4号機共用)	VT-2	1.05	1.05	VT-2								12本	4本	3本		
D2.30	D-B	大容量ポンプ入ロライン送水用20m、10m、5mホース(3・4号機共用)(19本)	VT-2	0.25	0.25	VT-2								5本	5本	5本		
D2.30	D-B	大容量ポンプ出ロライン送水用50m、10m、5m、3m、2m、1mホース(67本)	VT-2	1.00	1.00	VT-2								10本	17本	24本		

※1： NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の検察」（令和元年6月5日）原簿採集第1900051号の改正版（以下、電裂検察NRA文書改正という。）の施行及び公開附合「（原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかると合意」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、電裂検察NRA文書改正の施行（令和元年6月5日）後は、維持規格 JSME S MA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス3機器供用期間中検査計画
 1. クラス3機器漏えい検査

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NAI-2008 ※1		高圧発電所第3号機検査計画(10ヵ年)										備考 (漏えい区分)					
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	S A使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
D2.30	D-B	送水車(3台)	VT-2	1.22	1.22	VT-2	-	-	-	第24号完全 サイクル	第25号完全 サイクル	第26号完全 サイクル	第27号完全 サイクル	第28号完全 サイクル	-	第29号完全 サイクル	第30号完全 サイクル
D2.10	D-B	送水車燃料タンク(3基)	VT-2	大気圧	水張り	VT-2	-	-	-	-	○ 3台	○ 3基	-	-	-	-	-
D2.30	D-B	送水車送水用50mホース(65本)	VT-2	1.22	1.22	VT-2	-	-	-	-	○ 32本	○ 32本	○ 32本	-	-	-	○ 1本
D2.30	D-B	送水車送水用20 mホース(7本)	VT-2	1.22	1.22	VT-2	-	-	-	-	○ 3本	○ 3本	○ 3本	-	-	-	○ 1本

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電製その他の欠陥の解説」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、電製解説NRA文書改正という。)の施行及び公開適合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件」に関する事業者意見の聴取にかかるとの報告(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、電製解説NRA文書改正の施行(令和元年6月5日)後は、維持規格 JSME S NAI-2012/2013/2014を適用する。

※当該設備の燃料油にて実施。

重大事故等クラス3機器供用期間中検査計画

1. クラス3機器漏えい検査

発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版) JSME S NA1-2008 ※1		高浜発電所第3号機検査計画(10カ年)										備考 (漏えい区分)					
項目 番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	SA使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
							第21保全 サイクル	第21保全 サイクル	第22保全 サイクル	第23保全 サイクル	-	-	第24保全 サイクル	第25保全 サイクル	第26保全 サイクル	第27保全 サイクル	
D2.30	D-B	可搬式代替低圧注水ポンプ(3台)	VT-2	1.47	1.47	VT-2									○ 3台		
D2.30	D-B	可搬式代替低圧注水ポンプ～可搬式代替低圧注水ポンプ出口接続口(3本)	VT-2	1.47	1.47	VT-2									○ 3本		
D2.30	D-B	可搬式代替低圧注水ポンプ取水用3mホース(3本)	VT-2	大気圧	水張り	VT-2									○ 3本		
D2.10	D-B	仮設組立式水槽(3基)	VT-2	大気圧	水張り	VT-2									○ 3基		
D2.30	D-B	可搬式代替低圧注水ポンプ取水用10mホース(フランジ継手なし)(12本)	VT-2	1.47	1.47	VT-2								○ 4本	○ 4本	○ 4本	

※1： NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開套台「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等) 新部制案件に関する事業者意見の聴取にかんする套台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、亀裂解釈NRA文書改正の施行(令和元年6月5日)後は、維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

重大事故等クラス3機器供用期間中検査計画
1. クラス3機器漏えい検査

項目番号		高圧発電所第3号機検査計画(10ヵ年)												備考 (漏えい区分)														
カテゴリ		漏えい検査範囲 ライン名称																										
検査方法		検査方法																										
S A使用時圧力 MPa		検査圧力 MPa																										
検査方法		検査方法																										
D2.10	D-B	タンクローリー(3・4号機共用)(3台)	VT-2	20kPa	20kPa	VT-2	2015年	第21号保全 サイクル	2016年	第22号保全 サイクル	2017年	第23号保全 サイクル	2018年	第24号保全 サイクル	2019年	-	2020年	第24号保全 サイクル	2021年	第24号保全 サイクル	2022年	第25号保全 サイクル	2023年	第26号保全 サイクル	2024年	第27号保全 サイクル		
D2.30	D-B	タンクローリー給油ライン接続用30m、20mホース(3・4号機共用)(3本)	VT-2	1.0	1.0	VT-2																						
D2.30	D-B	タンクローリー給油ライン接続用20mホース(燃料油防油専用)(3・4号機共用)(4本)	VT-2	0.78	0.78	VT-2																						
D2.30	D-B	タンクローリー給油ライン接続用5mホース(空冷式非常用発電機専用) (迅速流体継手、ねじ込み継手)(3・4号機共用)(RHB-1)(6本)	VT-2	0.39	0.39	VT-2																						

※1. NIA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研基発第1902051号)の改正版(以下「電裂解釈NIA文書改正」という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意識の醸成にかかる報告」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、電裂解釈NIA文書改正の施行(令和元年6月5日)後は、維持規格「JSME S MA1-2012/2013/2014」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接接手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意識の醸成にかかる報告」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格「JSME S MA1-2012/2013/2014」を適用する。

重大事故等クラス3機器供用期間中検査計画

1. クラス3機器漏えい検査

発電用原子力設備規格（2008年版）JSME S NA1-2008		高浜発電所第3号機検査計画（10ヵ年）										備考 （漏えい区分）					
項目 番号	カテゴリー	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法	SA使用時圧力 MPa	検査圧力 MPa	検査方法	2015年 第21保全 サイクル	2016年 第22保全 サイクル	2017年 第23保全 サイクル	2018年 第24保全 サイクル	2019年 -		2020年 第24保全 サイクル	2021年 第25保全 サイクル	2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル
		非常用電源															
D2.10	D-B	燃料タンク(3A電源車)	VT-2	大気圧	水張り	VT-2					-				○		
D2.10	D-B	燃料タンク(3B電源車)	VT-2	大気圧	水張り	VT-2					-				○		
D2.10	D-B	燃料タンク(3A電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用))	VT-2	大気圧	水張り	VT-2					-				○		
D2.10	D-B	燃料タンク(3B電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用))	VT-2	大気圧	水張り	VT-2					-				○		

重大事故等クラス3機器供用期間中検査計画

1. クラス3機器漏えい検査

項目番号	カテゴリ	漏えい検査範囲 ライン名称	検査方法 ※1	検査内容				高浜発電所第3号機 検査計画(10年)							備考 (漏えい区分)		
				検査方法	SA使用時の 圧力 (MPa)	検査圧力 (MPa)	検査方法	2015年 第21保全 サイクル	2016年 第22保全 サイクル	2017年 第23保全 サイクル	2018年 第24保全 サイクル	2019年 第25保全 サイクル	2020年 第26保全 サイクル	2021年 第27保全 サイクル		2022年 第28保全 サイクル	2023年 第29保全 サイクル
		制御空気系統															
D2.10	D-B	3窒素ポンプ(加圧器逃がし弁作動用)(A系用)	VT-2	14.7	14.7	VT-2											(SA3-1)
D2.10	D-B	3窒素ポンプ(加圧器逃がし弁作動用)(A系用予備)	VT-2	14.7	14.7	VT-2											(SA3-2)
D2.10	D-B	3窒素ポンプ(加圧器逃がし弁作動用)(B系用)	VT-2	14.7	14.7	VT-2											(SA3-3)
D2.10	D-B	3窒素ポンプ(加圧器逃がし弁作動用)(B系用予備)	VT-2	14.7	14.7	VT-2											(SA3-4)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁A系用窒素マニホールド	VT-2	17.16	17.16	VT-2											(SA3-5)
				0.98	0.98	VT-2											(SA3-6)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁B系用窒素マニホールド	VT-2	17.16	17.16	VT-2											(SA3-7)
				0.98	0.98	VT-2											(SA3-8)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁窒素マニホールド(予備)	VT-2	17.16	17.16	VT-2											(SA3-9)
				0.98	0.98	VT-2											(SA3-10)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁用制御用空気ライン窒素供給用 30m、8mmホース(A系用30m)	VT-2	0.98	0.98	VT-2											(SA3-11)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁用制御用空気ライン窒素供給用 30m、8mmホース(B系用8m)	VT-2	0.98	0.98	VT-2											(SA3-12)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁用制御用空気ライン窒素供給用 30m、8mmホース(30m予備)	VT-2	0.98	0.98	VT-2											(SA3-13)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁用制御用空気ライン空気供給用 20m、15mmホース(A系用15m)	VT-2	0.98	0.98	VT-2											(SA3-14)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁用制御用空気ライン空気供給用 20m、15mmホース(B系用20m)	VT-2	0.98	0.98	VT-2											(SA3-15)
D2.30	D-B	3加圧器逃がし弁用制御用空気ライン空気供給用 20m、15mmホース(20m予備)	VT-2	0.98	0.98	VT-2											(SA3-16)

※1 NRA文書「運用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引起こす亀裂その他の欠陥の監視(令和元年6月5日原簿技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂監視NRA文書改正という。)」の施行及び公開会(原子炉圧力容器の浸透検査の試験程度等)新規規制等に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、亀裂監視NRA文書改正の施行(令和元年6月5日)後は、維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

供用期間中特別検査のうちクラス1配管特別検査

供用期間中特別検査のうちクラス1配管特別検査（大飯発電所3号機加圧器スプレイレイン配管溶接部の有意な欠陥指示に対する対応）

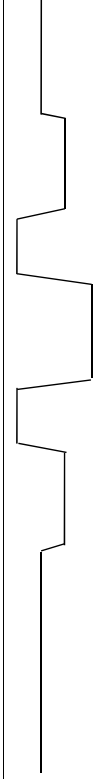
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査の範囲及び程度	設備数	検査方法	検査の範囲及び程度	高浜発電所第3号機検査計画			備考
								2022年 第25保全 サイクル	2023年 第26保全 サイクル	2024年 第27保全 サイクル	
		配管の同種金属溶接継手 (呼び径100A以上)									
		加圧器サージ管 (14B, 355.60mm)	体積	100% ₁	1	UT	100% ₁	1	1		
		加圧器スプレイレイン (4B, 144.30mm) Aルーブ	体積	100% ₁	1	UT	100% ₁	A1	A1		
		余熱除去ポンプ入口ライン (12B) Cルーブ	体積	100% ₂	2	UT	100% ₂	C2	C2		
		SIS蓄圧注入ライン (12B, 318.50mm) A, B, Cルーブ	体積	100% ₄	4	UT	100% ₄	A1 B2 C1	A1 B2 C1		
		SIS高温側低圧注入ライン (6B, 165.20mm) A, Bルーブ	体積	100% ₂	2	UT	100% ₂	A1 B1	A1 B1		
		SIS低温側低圧注入ライン (6B) A, Bルーブ	体積	100% ₃	3	UT	100% ₃	A1 B2	A1 B2		
		SIS高温側補助注入ライン (4B, 6B) Cルーブ	体積	100% ₁	1	UT	100% ₁	C1	C1		

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂解釈NRA文書改正という。）及び維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014を適用する。

別図

定期事業者検査時の安全管理の計画

RCS水位		主要工程																								
		▽解列 RCS降溫	RへV開放	燃料取出	燃料装荷	起動前点検	起動試験	5-1	5-2	6-1	6-2	モータ外	燃料配管	RへV組立	起動試験	起動前点検	▽並列									
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	関連設備	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モータ外	6-1	6-2	5-1	5-2	4	4	3								
第38条 1次冷却系		モード4	<p>余熱除去系または蒸気発生器による余熱除去系のうち、2系統以上が動作可能であり、そのうち1系統以上が運転中</p> <p>余熱除去系が動作不能時は、第85条(表85-4)の運転上の制限も確認。</p> <p>蒸気発生器による余熱除去系が動作不能時は、第85条(表85-4)の運転上の制限も確認</p> <p>(1) 余熱除去系1系統が運転中*</p> <p>(2) 他の余熱除去系が動作可能または運転中であるか、2基以上の蒸気発生器の水位(領域)が管径スパンの8%以上であること*</p> <p>※: 計画的にモータ4に加熱する場合は、蒸気発生器1基以上の水位(領域)が管径スパンの5%以上であることを条件に全ての余熱除去系を稼働することを許容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 余熱除去システム 蒸気発生器 1次冷却材システム 1次冷却材ポンプ 					X																	
第39条 1次冷却系		モード5-1 (1次冷却系非沸水)	<p>余熱除去系が動作不能時は、第85条(表85-4)の運転上の制限も確認。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 余熱除去システム 蒸気発生器 1次冷却材システム 			X							X							X					
第40条 1次冷却系		モード5-2 (1次冷却系非沸水)	<p>余熱除去系2系統が動作可能であり、そのうち1系統以上が運転中</p> <p>1次冷却材ポンプによる1次冷却系採空気抜きを行う場合は2時間に限り全ての余熱除去系を稼働することを許容</p> <p>ポンプの切替を行う場合は、a,b,cの全てを満足させることを条件に15分以内に限り全ての余熱除去ポンプを停止することを許容</p> <p>a. 炉心出口温度が飽和温度より56°C以上下回るように維持されていること</p> <p>b. 1次冷却材中のほう素濃度が低下する操作が行われていないこと</p> <p>c. 1次冷却系水量低下につながる操作が行われていないこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 余熱除去システム 1次冷却材システム 											X											
第41条 1次冷却系		モード6-2 (キャビティ沸水)	<p>余熱除去系が動作不能時は、第85条(表85-4)の運転上の制限も確認。</p> <p>(1) 余熱除去系1系統以上が運転中(1次冷却材中のほう素濃度を低下させる操作を行わないことを条件に、8時間あたり1時間以内に、余熱除去ポンプを停止することを許容)</p> <p>(2) 1次冷却材温度65°C以下</p>	<ul style="list-style-type: none"> 余熱除去システム 1次冷却材システム 							X											X				
第42条 1次冷却系		モード6-1 (キャビティ低水位)	<p>余熱除去系が動作不能時は、第85条(表85-4)の運転上の制限も確認。</p> <p>(1) 余熱除去系2系統が動作可能であり、そのうち1系統以上運転中(キャビティが張りおよび外抜きを行っている場合は、余</p>	<ul style="list-style-type: none"> 余熱除去システム 1次冷却材システム 					X																	X



高浜発電所3号機 第25回定期事業者検査時の安全管理の計画

項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	▽解除 RCS降温											▽並列				
				燃料取出	R/V開放	R/V相立	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納	燃料格納
RCS水位																			
			熱除去系への切替操作が可能であること、および他の1系統が運転中であることを条件に1系統を隔離することを許容) (2) 1次冷却材温度:65℃以下																
第61条 主蒸気安全弁	モード3(原子炉起動時のモード3から主蒸気安全弁機能検査完了までを除く)	モード3	・主蒸気安全弁が蒸気発生器毎に下記の個数以上動作可能 原子炉熱出力25%以下: 2個																
第62条 主蒸気隔離弁	モード3	モード3	・主蒸気隔離弁が閉止可能(閉止状態にある場合は、適用しない) ・主蒸気隔離弁および主給水バイパス制御弁が閉止可能(閉止または手動で隔離された状態にある場合は、適用しない)																
第63条 主給水隔離弁、主給水制御弁および主給水バイパス制御弁	モード3	モード3	・主蒸気隔離弁が閉止可能(閉止状態にある場合は、適用しない) ・主給水隔離弁、主給水制御弁および主給水バイパス制御弁が閉止可能(閉止または手動で隔離された状態にある場合は、適用しない)																
第64条 主蒸気溢がし弁	モード3、4(蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合)	モード3、4	・主蒸気溢がし弁、手動での閉弁ができること 主蒸気溢がし弁が動作不能時は、第85条(表85-9)の運転上の制限を確認																
第65条 補助給水係	モード3	モード3	・電動補助給水ポンプによる系統およびタービン動補給水ポンプによる1系統が動作可能(タービン動補給水ポンプについては原子炉起動時のモード3において試験運転に係る調整を行っている場合は適用しない) 補助給水係が動作不能時は、第85条(表85-8)の運転上の制限を確認																
第66条 復水タンク	モード3、4(蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合)	モード3、4	・電動補助給水ポンプによる1系統以上が動作可能 補助給水係が動作不能時は、第85条(表85-8)の運転上の制限を確認 ・復水タンク水量(有効水量):520m ³ 以上 復水タンク水量(有効水量)を確認する場合は、第85条(表85-14)の運転上の制限を確認																



主要工程		燃料供給										燃料貯蔵		燃料搬出		燃料貯蔵		燃料搬出		燃料貯蔵		
RCS水位		RCS水位										RCS水位		RCS水位		RCS水位		RCS水位		RCS水位		
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	関連設備	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モード外	6-2	6-1	5-2	5-1	4	5-1	4	5-1	4	3	
	第85条(表85-4-4(2)) 代替炉心注水-A格納容器 スプレイポンプ(RHRS-C SS接続ライン使用)による 代替炉心注水-	モード3、4、5、6	A格納容器スプレイポンプによる代替炉心注水系が動作可能(ポンプが手動起動(系統構成含む)できること) ・A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS接続ライン使用)：1台 ・燃料取扱用タンク (表85-14-3の2)において運転上の制限を定める)	・A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS接続ライン使用) ・RS-CSS接続ライン使用) ・燃料取扱用タンク	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	第85条(表85-4-5(2)) 代替炉心注水-可搬式代替 低圧注水ポンプによる代替 炉心注水-	モード3、4、5、6	可搬式代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水系の系統が動作可能 ・可搬式代替低圧注水ポンプ：1台×2 ・電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)：1台×2 ・仮設組立式水櫃：1台×2 ・送水車：1台×2 ・燃料取扱用油そう (表85-15-7)において運転上の制限を定める) ・タンクローリー (表85-15-7)において運転上の制限を定める)	・可搬式代替低圧注水ポンプ ・電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用) ・仮設組立式水櫃 ・送水車 ・燃料取扱用油そう ・タンクローリー	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	第85条(表85-4-6(2)) 代替再循環	モード3、4、5、6	(1) A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS接続ライン使用)による代替再循環系が動作可能(ポンプが手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であること) (2) B余熱除去ポンプ(海水冷却)およびC充てん/高圧注入ポンプ(海水冷却)による高圧代替再循環系、またはB余熱除去ポンプ(海水冷却)による低圧代替再循環系が動作可能(ポンプが手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であること) ・A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS接続ライン使用)：1台 ・A格納容器スプレイ冷却器：1基 ・A格納容器スプレイポンプ格納容器再循環タンク側入口隔離弁：1台 ・格納容器再循環タンク：2基* ・格納容器再循環タンクスクリーン：2基* ・B余熱除去ポンプ(海水冷却)：1台 ・C充てん/高圧注入ポンプ(海水冷却)：1台 ・大容量ポンプ (表85-7-2の2)において運転上の制限を定める) ・空弁式非常用発電装置 (表85-15-1の2)において運転上の制限を定める)	・A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS接続ライン使用) ・RS-CSS接続ライン使用) ・A格納容器スプレイ冷却器 ・A格納容器スプレイポンプ格納容器再循環タンク側入口隔離弁 ・格納容器再循環タンク ・格納容器再循環タンクスクリーン ・B余熱除去ポンプ(海水冷却) ・C充てん/高圧注入ポンプ(海水冷却) ・大容量ポンプ ・空弁式非常用発電装置 ・燃料取扱用油そう ・タンクローリー	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x



高浜発電所3号機 第25回定期事業者検査時の安全管理の計画

主要工程		▽解列	RCS降温	RへV開放	燃料取出	燃料装荷	RへV組立	起動試験	起動前点検	▽並列						
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	関連設備	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モード外	5-1	4	5-1	4	3
RCS水位	海水から使用済燃料ピットへの注水	使用済燃料ピットに燃料体を所蔵している期間	<ul style="list-style-type: none"> 送水車: 1台 x 2 燃料油貯油そう タンクローリー <p>(表85-15-7の2)において運転上の制限を定める)</p>	<ul style="list-style-type: none"> タンクローリー 												
			<p>(1) 使用済燃料ピットへのスプレイ系のうち屋外に配備する設備について2系統(1系統とは屋外に配備する送水車1台)が動作可能</p> <p>(2) 使用済燃料ピットへのスプレイ系のうち屋内に配備する設備について1系統(1系統とは屋内に配備するスプレイヘッド4個(1セット2個、3号炉および4号炉共用の予備機2個を含む))が動作可能</p> <ul style="list-style-type: none"> スプレイヘッド: 4個 燃料油貯油そう <p>(表85-15-7の2)において運転上の制限を定める)</p> <ul style="list-style-type: none"> タンクローリー <p>(表85-15-7の2)において運転上の制限を定める)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 送水車 スプレイヘッド 燃料油貯油そう タンクローリー 												
第85条(表85-12-2)の2) 使用済燃料ピットへのスプレイ系	使用済燃料ピットに燃料体を所蔵している期間	使用済燃料ピットに燃料体を所蔵している期間	<p>(使用済燃料ピットの監視)</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料ピット水位(広域): 2個 <p>(動作可能な当該設備が何重数も満足しない場合において、可搬型使用済燃料ピット水位の所要数が動作可能である場合、運転上の制限を満足してよいとはみなさない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料ピット温度(A/M用): 2個 使用済燃料ピットエリア監視カメラ(使用済燃料ピットエリア監視カメラ空冷装置(1セット1個)を含む): 2個 可搬型使用済燃料ピット水位: 2個 空冷式非常用発電装置 <p>(表85-15-1の2)において運転上の制限を定める)</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料油貯油そう <p>(表85-15-7の2)において運転上の制限を定める)</p> <ul style="list-style-type: none"> タンクローリー <p>(表85-15-7)において運転上の制限を定める)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料ピット監視計装 使用済燃料ピット水位(広域) 使用済燃料ピット温度(A/M用) 使用済燃料ピットエリア監視カメラ(使用済燃料ピットエリア監視カメラ空冷装置を含む) 可搬型使用済燃料ピット水位 可搬型使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ 空冷式非常用発電装置 燃料油貯油そう タンクローリー 												
			<p>大容量ポンプおよび放水砲による放水系1系統(1系統とは、大容量ポンプ3台(予備機1台含む)、放水砲3個(予備機1個含む)および泡混合器1台)が動作可能</p> <ul style="list-style-type: none"> 大容量ポンプ(放水使用): 3台 (2台接続で3号炉と4号炉両方向同時に放水できる容量を有するもの、3号炉及び4号炉合計所要数) 放水砲: 3個(3号炉及び4号炉合計所要数) 泡混合器: 1台(3号炉及び4号炉合計所要数) 燃料油貯油そう 	<ul style="list-style-type: none"> 大容量ポンプ(放水砲用) 放水砲 泡混合器 燃料油貯油そう タンクローリー 												



1次系ポンプ他点検 RCS満えい検査

高浜発電所3号機 第25回定期事業者検査時の安全管理の計画

主要工程		▽解列	RCS降温	RへV開放	燃料取出	燃料装荷	RへV組立	起動試験	起動前弁点検	起動試験	▽並列
RCS水位	保安規定条文	キャビライザー水 RCS 放水 ミッドグループ RCS 全フロー	燃料装荷	RへV開放	燃料取出	RへV組立	起動試験	起動前弁点検	起動試験	起動試験	▽並列
	要求モード	④種々増圧制御による減圧制御 OH ・特種制御可能な炉冷却 OH ・原子炉格納タンク放水 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH	燃料装荷	RへV開放	燃料取出	RへV組立	起動試験	起動前弁点検	起動試験	起動試験	▽並列
RCS水位	保安規定条文	④種々増圧制御による減圧制御 OH ・特種制御可能な炉冷却 OH ・原子炉格納タンク放水 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH	燃料装荷	RへV開放	燃料取出	RへV組立	起動試験	起動前弁点検	起動試験	起動試験	▽並列
	要求モード	④種々増圧制御による減圧制御 OH ・特種制御可能な炉冷却 OH ・原子炉格納タンク放水 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ②種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH ④種々増圧制御による減圧制御 OH	燃料装荷	RへV開放	燃料取出	RへV組立	起動試験	起動前弁点検	起動試験	起動試験	▽並列

高浜発電所3号機 第25回定期事業者検査時の安全管理の計画

項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	関連設備	検査項目																		
					3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モータ外	6-1	6-2	5-1									
					5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2									
			<p>主要工程</p> <p>RCS水位</p> <p>キャビティ沸水 RCS沸水 ミッドループ RCS至フロー</p>																				
			<p>(4) 緊急時対策所内可搬型エリアモニタおよび緊急時対策所外可搬型エリアモニタの所要数が動作可能</p> <p>・緊急時対策所非常用空気浄化ファン:1台*</p> <p>・緊急時対策所非常用空気浄化フィルタユニット:1基*</p> <p>・空気供給装置:720本以上*</p> <p>・酸素濃度計:1個*</p> <p>・二酸化炭素濃度計:1個*</p> <p>・緊急時対策所内可搬型エリアモニタ:1個*</p> <p>・緊急時対策所外可搬型エリアモニタ:1個*</p> <p>※緊急時対策所あたりの合計所要数</p> <p>(通信連絡設備)</p> <p>・衛星電話(固定):21台**1</p> <p>・衛星電話(携帯):16台**1</p> <p>・衛星電話(可搬):1台**1</p> <p>・トランシーバー:90台**1</p> <p>・携行型通信装置:36台**1</p> <p>・安全ハラメータ表示システム(SPDS):1系列**2</p> <p>・安全ハラメータ伝送システム:1系列**2</p> <p>・SPDS表示装置:4台**1</p> <p>・緊急時衛星通報システム:4台**1</p> <p>・統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備(TV会議システム、IP電話、IP-FAX):1系列**2</p> <p>・空冷式非常用発電装置 (表85-15-1および表85-15-1の2)において運転上の制限を定める) ・燃料油貯蔵タンクローリー (表85-15-7および表85-15-7の2)において運転上の制限を定める) ・電源車(緊急時対策所用) (表85-19-1)において運転上の制限を定める)</p> <p>※1:1号炉、2号炉、3号炉および4号炉の合計所要数・系統数(本表に限る)</p> <p>※2:安全ハラメータ表示システム(SPDS)および安全ハラメータ伝送システムについては、A系またはB系のいずれかにより有線系、無線系または、衛星系回線で所内および所外へ伝送可能であることをいう。統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備については、テレビ会議システム、IP電話、IP-FAXのいずれかにより通信可能であることをいう。(本表に限る)</p>																				
第85条(表85-20-1)通信連絡		モード3、4、5、6、使用済燃料ピットに燃料体を所観している期間		<p>・酸素濃度計</p> <p>・二酸化炭素濃度計</p> <p>・緊急時対策所内可搬型エリアモニタ</p> <p>・緊急時対策所外可搬型エリアモニタ</p> <p>・衛星電話(固定)</p> <p>・衛星電話(携帯)</p> <p>・衛星電話(可搬)</p> <p>・トランシーバー</p> <p>・携行型通信装置</p> <p>・安全ハラメータ表示システム(S PDS)</p> <p>・安全ハラメータ伝送システム</p> <p>・緊急時衛星通報システム</p> <p>・SPDS表示装置</p> <p>・統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備(TV会議システム、IP電話、IP-FAX)</p> <p>・空冷式非常用発電装置</p> <p>・燃料油貯蔵タンクローリー</p> <p>・電源車(緊急時対策所用)</p>																			

▽並列

燃料取出し

R/V開放

R/V相立

起動前点検

起動試験

起動時検査

起動試験

起動時検査

起動時検査

起動時検査

起動時検査

起動時検査

起動時検査

起動時検査

RCS漏えい検査

調整運転

主要工程		△解列 RCS降温 燃料取出 R/V開放 燃料格納 R/V組立 起動前点検 起動試験 燃料格納 RCS漏えい検査 調整運転 △並列																		
RCS水位	キャセテリ濃水																			
	RCS 濃水																			
項目	保安規定条文	要求モード	要求内容	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モード外	6-2	6-1	5-2	5-1	4	5-1	4	5-1	3	
	第86条(表85-21-1の2) アクセスルートの確保	モード3、4、5、6、使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵している期間	ブルドーザおよび油圧シヤベルの所要数が動作可能 ・ブルドーザ:2台(3号炉および4号炉の合計所要数) ・油圧シヤベル:1台(3号炉および4号炉の合計所要数)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
特重施設を構成する設備		関連設備 ・ブルドーザ ・油圧シヤベル																		

高浜発電所3号機 第25回定期事業者検査時の安全管理の計画

項目	保安規定条文	要求モード	関連設備	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モータ外	6-1	5-1	4	5-1	4	5-1	4	3
RCS 水位	主要工程 キャビティ沸水 RCS 沸水 ミッドループ RCS 全フロー	要求内容	燃料取出 R/V開放 RCS降温 燃料格納 R/V組立 起動試験 起動前点検 調整運転 RCS漏えい検査 1次系ポンプ他点検	▽解列	RCS降温	R/V開放	燃料取出	燃料格納	R/V組立	起動試験	起動前点検	調整運転	▽並列					
				関係設備 3 4 5-1 5-2 6-1 6-2 モータ外 6-1 5-1 4 5-1 4 5-1 4 3														

項目	保安規定条文	要求モード	関連設備	3	4	5-1	5-2	6-1	6-2	モード外	6-2	6-1	5-2	5-1	5-1	4	5-1	4	3
RCS水位	主要工程	キャベテリ浄水 RCS浄水 ミッドループ RCS至フロー	△解列 RCS降温 燃料取出 R^V開放 燃料格納 R^V組立 起動試験 RCS満たし検査 起動前点検 調整運転 △並列		要求内容														
					機能要求あり(機能要求を満足すれば作業可能) △ :条件付で機能要求あり(条件付機能要求を満足すれば作業可能) :機能要求なし(作業可能)														

モード	原子炉の運転状態	原子炉容器スタットボルトの状態
3	1次冷却時温度 177°C以上	全ボルト締付
4	1次冷却時温度 93°C超 177°C未満	全ボルト締付
5-1	1次冷却時温度 93°C以下(RCS 沸水)	全ボルト締付
5-2	1次冷却時温度 93°C以下(RCS 非沸水)	全ボルト締付
6-1	1次冷却時温度 93°C以下(サビテリ、低水位)	1本以上が緩められている
6-2	1次冷却時温度 93°C以下(サビテリ、高水位)	1本以上が緩められている(全ボルト取り外し)
モード外	全ての燃料が原子炉格納容器の外にある状態	—

※ 本計画は、安全確保の方法の基本方針を示すものであり、詳細については、保安規定を参照すること。また、作業工程等の変更が生じた際においても、保安規定の遵守を徹底し、安全確保に努めるものとする。

別表

長期施設管理方針実施状況総括表

3号炉 長期施設管理方針実施状況総括表

長期施設管理方針No.	長期施設管理方針に基づく活動内容			実施時期	第25保全サイクル実施計画	進捗状況**	備考 ()内は実績を記載
	機器又は系統名	部位と経年劣化事象	活動項目				
1	蒸気発生器	伝熱管の損傷	蒸気発生器の伝熱管の損傷については、蒸気発生器取替を含めた保全方法を検討する。	中長期	-	未実施	
2	原子炉容器	胴部(炉心領域部)の中性子照射脆化	原子炉容器の胴部(炉心領域部)の中性子照射脆化については、原子炉の運転時間および照射量を勘案し、第5回監視試験の実施計画を策定する。	中長期	-	実施済	(第24保全サイクルで実施済) 原子炉容器の胴部(炉心領域部)の中性子照射脆化について、原子炉の運転時間および照射量を勘案し、第5回監視試験の実施計画を策定した。 実施計画に基づき、第24回定期検査にて監視試験片の取り出しを実施した。
3	ドレン系統配管	母管(流れ加速型腐食)	配管の腐食(流れ加速型腐食)については、肉厚測定による実測データに基づき耐震安全性評価を実施した。腐食調整配管*については、耐震性が確認できる肉厚に到達するまでに、サポート改造等の設備対策を行い、これを反映した耐震安全性評価を実施する。 なお、サポート改造等の設備対策が完了するまでは、減肉傾向の把握およびデータ蓄積を継続して行い、減肉進展の実測データを反映した耐震安全性評価を実施する。	短期	-	実施済	(第22保全サイクルで実施済) ドレン系統配管について、第22回定期検査期間中にサポートの追設を実施した。また、この工事を反映した耐震安全性評価を実施し、当該系統において必要最小肉厚tsrまでの減肉を想定しても、耐震安全性に影響がないことを確認した。
4	基準地震動による評価が必要な設備	耐震安全上考慮する必要がある経年劣化事象	* :ドレン系統配管 基準地震動Ss-2~Ss-7に対する評価*1が必要な全ての機器・経年劣化事象*2について、継続して評価を実施する。 *1:弾性設計用地震動Sd-2~Sd-7に対する評価を含む。 *2:基準地震動Ss-1に対する評価結果から評価が厳しいと考えられる機器・経年劣化事象等については、基準地震動Ss-2~Ss-7に対する評価を実施し、耐震安全性を確認している。	短期	-	実施済	(第21保全サイクルで実施済) 基準地震動Ss-2~7に対する評価(弾性設計用地震動Sdによる評価を含む)が必要な全ての機器・経年劣化事象について、評価を実施した結果、耐震安全性に問題はないことを確認した。
5	主変圧器	コイル絶縁低下	主変圧器のコイルの絶縁低下については、主変圧器の取替を実施する。	短期	-	実施済	(第23保全サイクルで実施済) 主変圧器の取替を実施した。

※ :「高浜発電所原子炉施設保安規定」添付6の3号炉 長期施設管理方針番号

※※:第25サイクル当初での状況を記載

添付書類四 定期事業者検査の判定方法

目 次

1. 定期事業者検査の判定方法	1
-----------------	---

表-1：検査の方法の考え方について

1. 定期事業者検査の判定方法

(1) 定期事業者検査の実施における考え方

定期事業者検査の実施にあたっては実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第56条第1項において検査の方法が規定されており、これに従い表-1に記載する方法に基づき、対象設備に対して定期事業者検査を実施する。

また、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第56条第2項では、定期事業者検査においては、一定の期間を設定し、その期間において技術基準に適合する状態を維持するかどうかを判定する方法で行うことが規定されている。

表-1の検査は、設備の点検に合わせて、又は点検の完了後に実施するものであり、その実施頻度は設備の点検頻度や原子炉を停止する頻度に基づいている。(添付書類三別紙 参照)

定期事業者検査の対象となる設備については、技術基準への適合維持が要求されていることから、その実施頻度の設定においては、所定の機能を発揮できなくなる前、すなわち技術基準に適合する状態を維持すると考えられる段階に点検を行うように考慮しており、その実施頻度を定期事業者検査の一定の期間とみなすことができる。この実施頻度から設定した定期事業者検査の一定の期間の最短は、原子炉を停止して実施する必要がある点検の最短の間隔に調整運転期間等を考慮した13ヶ月^{*}(定期事業者検査終了からの期間)である。

※：使用の状況等から別途点検を行う時期を評価し、定期事業者検査を実施すべき時期について原子力規制委員会の承認を受ける場合を除く。

なお、定期事業者検査の実施頻度の前提となるこれらの点検にあたっては、その対象設備が技術基準に適合する状態を維持するため、その点検頻度の設定にあたって前提とされた部品取替等の行為を保全活動の中で確実に行う。

また、機器の劣化、特性変化を定量的に評価し判定する検査については、上記にかかわらず、当該評価で判定に考慮する期間を一定の期間とする。これに該当する検査を(2)に示す。

(2) 一定の期間を考慮する定期事業者検査の判定について

定期事業者検査においては、(1)のとおり設定された頻度に基づき、設備が技術基準に適合していることを確認するが、機器の劣化、特性変化を定量的に評価し判定する以下の検査については、その判定に一定の期間を考慮する。

○原子炉を停止して実施する必要がある点検の最短の間隔に調整運転期間等を考慮した13ヶ月(定期事業者検査終了からの期間)以上を一定の期間として判定に考慮する検査

- ・原子炉格納容器全体漏えい率検査
- ・原子炉格納容器局部漏えい率検査
- ・クラス1機器供用期間中検査
- ・クラス2機器供用期間中検査
- ・重大事故等クラス2機器供用期間中検査

- ・クラス3機器供用期間中検査
- ・供用期間中特別検査のうちクラス2管(原子炉格納容器内)特別検査
- ・蒸気タービン開放検査
- ・炉内計装用シンプルチューブ体積検査
- ・2次系配管検査
- ・1次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査
- ・重大事故等クラス3機器供用期間中検査

○また、第26サイクルの炉心設計に係わる以下の検査については、実運転期間(13ヶ月)に調整運転期間等を踏まえ、これに基づき判定を行う。

- ・原子炉停止余裕検査
- ・炉物理検査
- ・燃料集合体外観検査

なお、上記以外の検査については、その対象設備が技術基準に適合している状態を維持するため、その点検間隔の設定に当たって前提とされた部品取替等の行為を保全活動の中で確実にを行う。

表－1 検査の方法の考え方について

定期事業者検査	検査の方法	
① 開放、分解、非破壊検査その他の各部の損傷、変形、摩耗及び異常の発生状況を確認するために十分な方法	分解検査及び開放検査	機器等を分解、開放した状態で、き裂、変形、摩耗等の有無を目視等により確認する。
	外観検査	機器等を分解又は開放しない状態で漏えい又はその形跡、き裂、変形等の有無を目視等により確認する。
	非破壊検査	一般社団法人日本機械学会「発電用原子力設備規格 維持規格」(JSME SNA1-20012/2013 追補/2014)に規定されている超音波探傷試験、渦流探傷試験、浸透探傷試験、目視試験等により、機器等の内外表面及び内部欠陥の有無等を確認する。
	漏えい(率)検査	系統及び機器等の点検完了後、所定の圧力において、漏えいの有無又は漏えい率 [*] を確認する。
② 試運転その他の機能及び作動の状況を確認するために十分な方法	特性検査	電気設備及び計測制御設備について、絶縁抵抗測定 ^{**} 、校正、設定値確認検査などを行い、機器等の特性を確認する。
	機能・性能検査	系統及び機器等の点検完了後、作動試験、試運転、インターロック試験等を行い、機器単体又は系統の機能・性能等を確認する。
	総合性能検査	各設備の点検完了後に、定格出力近傍で発電用原子炉施設の運転を行い、各原子力発電施設の運転状態が正常であること及び各種パラメータが妥当な値であることを確認する。

※：漏えい率の確認には、「②試運転その他の機能及び作動の状況を確認するために十分な方法」を兼ねるものがある。

※※：絶縁抵抗測定には、「①開放、分解、非破壊検査その他の各部の損傷、変形、摩耗及び異常の発生状況を確認するために十分な方法」を兼ねるものがある。

上表の検査の方法にて実施する具体的な定期事業者検査は、点検計画（添付書類三 別紙）のとおり。

なお、当該点検計画に含まれる簡略点検は、定期事業者検査として実施しないが、部品の定期的な取替え、運転経験・劣化の進展予測、使用環境及び設置環境等を考慮して実施内容、頻度を定めている。